別 冊 資 料
報告第 13 号

令和２年度　高島市立学校　学校評価

マキノ東小学校 …… 1
マキノ西小学校 …… 2
マキノ南小学校 …… 3
マ キ ノ中学校 …… 4
今 津 東小学校 …… 5
今 津 北小学校 …… 6
今 津 中学校 …… 7
朽 木 東小学校 …… 8
朽 木 西小学校 …… 9
朽 木 中学校 …… 10
安 曇 小学校 …… 11
青 柳 小学校 …… 12
本 庄 小学校 …… 13
安 曇 川中学校 …… 14
高 島 小学校 …… 15
高 島 中学校 …… 16
新 旭 南小学校 …… 17
新 旭 北小学校 …… 18
湖 西 中学校 …… 19

（様式1）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ東小学校

学校教育目標	ふるさとを愛し　心身ともに健康で 自ら学びに挑戦する人の育成 【めざす子ども像】　〇夢を持ち、自ら考え学ぶ人 〇人も自分も大切にする人 〇元気にやりぬく人
R4年度の評価概要	・児童、保護者、教員による授業評価における理解度、満足度および学習規律の定着　A ・家庭学習の習慣化と内容の充実、漢字検定の実施による基礎学力の定着 B ・職員研修等授業改善に向けた取組の充実　A ・児童の学校への登校意欲、保護者の相談受け入れ体制の充実、いじめ防止の取組 A ・きめ細かな児童の見取りと個に応じた指導、支援の徹底　A ・地域の良さを生かした学習活動や環境教育の充実　A ・「返事、あいさつ、くつそろえ」「そうじ」の徹底した指導　B ・フィジカルタイムによる体力づくりの取組の推進、年間を通したマラソン、縄跳びの奨励　A
中期的目標	〇確かな学力をつけるための園小中一貫教育の推進と着実な積み上げ 〇地域と繋がる学校の構築 〇知・徳・体のバランスの取れた児童の育成（たくましく生きる児童の育成） 〇びわ湖を中心とした自然や地域と共生する力の育成 〇児童の主体性を育て、生き方を学ぶ体験的な活動の推進 〇「いじめ」「不登校」のない安心・安全な学校づくり 〇教職員の授業力、指導力、課題対応力の向上

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
■学びに向かう力の向上のための力点 ◎学びの基となる基礎・基本の徹底 ◎子どもをつなぐ学びの創造 ◎ICT機器の活用	・根拠に基づいた話し方、書き方の指導時間の確保による読解力や書く力の向上 ・読み解く力を高めるための「読解力」「書く力」の向上を意識した授業づくりと授業改善に係る職員研修の充実 ・「パワーアップタイム」による活用力向上と個への支援充実	「学校の授業がわかる」の質問に対し児童肯定的評価は100%であった。「話をしっかり聞いている」という問いに児童は97%が肯定評価している一方で、約2割の児童は授業中の発表に対し消極的となっている。自分の考えをしっかりと出し、互いの意見を認め合える集団づくりがまず大切と考え、9月には外部講師を招聘して「集団づくり」に係る職員研修を実施し、教職員の意識を高めた。 また校内研究会では、算数科を窓口として自分の考えを的確に表現する力の育成に取り組んだ。言葉のみならず図や表、タブレット等を使って自分の思考を表現する活動を意図的に設けることにより、発言することに積極的な児童が増えた。 今年度は授業時数確保のためにパワーアップタイムを教科の指導時間に充てることになった。	A	B	授業改善のベースとして、互いに何でも話し合える学級の支持的風土づくりが不可欠である。発達段階に即した集団づくりの取組を継続して進めたい。また、タブレットを利用した学習が本格的に始まることを受け、教職員の活用能力を高めながら、個別最適な学習の充実に努めたい。 パワーアップタイムについては、次年度も40分程度の枠で実施する。低学年は基礎基本の定着に、高学年は読解力や思考力の向上に重きを置く。補充学習にも力を入れ、定着に時間を要する児童の支援を確実にする。	・何でも話し合える学級づくり、発達段階に即した集団づくり、タブレット利用の推進等、大事な点がしっかり押さえられていて安心できる。 ・漫画本は読むが図書室の本まで手が出ないと聞くことがある。子どもたちの図書離れを改善していただきたい。 ・子どもの内は知的好奇心を高めることが大切であると思うので、授業で興味を持ったことを図書室で調べ、ICTも活用し、好きなことを見つけ、探求し、それをみんなにアウトプットしていけるようにしてあげて欲しい。そのために、地域の方と交流し、学ぶことも大切であるので、交流機会を増やせるようにして欲しい。 ・教職員にとっても、ICT、メンタル、働き方改革など課題は多いが、職員研修も適切に行っていただいており、OJT等も活用し引き続き努力していただきたい。 ・予習復習ノートなど家庭学習への取組はきめ細かく整理してやっておられる。家庭環境にも左右されるため、意欲的に取り組めるための指導を個に応じて行う必要がある。 ・読むカや書くカは読書と関連している。楽しく本を読むことが大切。中でも3, 4年生期が大切であると思う。お話会の機会を増やすなど、わくわくする気持ちが実感できる機会を今以上に設けて欲しい。 ・漢字を「覚える」から「使える」に目標をシフトしてほしい。 ・パワーアップタイムの中で、子ども同士の教え合いに効果があると思う。学年を超えて取り組んでもよい。コミュニケーションをとりながらみんなで頑張っていこうとする意欲を持たせたい。
	・読書環境の充実と読書活動への意欲の喚起（図書室の整備と蔵書の充実）	東小サポート会の方々の支援を受け、図書室の蔵書整理が進められた。加えて、蔵書の新規購入を昨年度以上に行い、図書室環境の整備に努めた。しかし、児童の意識では「読書貯金の目標達成に向けて頑張っている」と答える児童は全体の75%にとどまり、読書に対する興味関心が前年度に比べ低くなっている。	B		お話会の定期的開催、図書室環境の整備、ブックトーク等本の面白さに触れる機会の拡大などを、地域の方々の支援を受けながら実現したい。	
	・予習、復習等効果的な学習スタイルの構築と一定の家庭学習時間の確保（目標時間〔1年20分、2年30分、3年45分、4年以上60分〕達成90%以上） ・「マ東漢字検定」の実施による言語力向上と学習意欲の喚起	家庭学習を「学校からの宿題＋予習復習ノート＋読書」と整理し、決まった時間取り組ませるようにしてきた。しかし、「毎日家庭学習を頑張っている」と答える児童は90%で前年度に比べると減少傾向にある。今年度もマ東漢字検定の取組により漢字学習への意欲付けを図ったり、「予習復習ノート」のコンテストを年間3回設けて、より効果的な予習復習の取り組み方に気づかせたりしてきた。家庭学習については各家庭の生活習慣に左右されることが大きいのが実情である。	B		引き続き「予習復習ノート」の取組を強化する。意欲的に取り組めない児童への支援を考え、手立てを打つ必要がある。また、家庭読書の取組も具体的手立てが必要である。	
	・ネット利用による適切な情報収集・活用の能力の育成 ・意見交流や情報共有のためのツールとしての日常的なタブレット利用	ネット通信による情報収集や個人の考えの伝達手段、画像の蓄積、学習アプリの活用、文書作成等のために、タブレットは主に3年生以上で日々活発に使用されている。個々の教職員のスキルも向上してきた。一人一台配置が実現されたことにより、学習ツールとしてより日常的に活用できるよう、更に教職員の研修を深めることが求められている。	A		GIGAスクール構想の実現により、従来の黒板・鉛筆・ノート・ファイルを駆使する学びから、タブレット端末に可能性を求める学びへと大きな転換を迎える。同時に教職員も意識変革を行いながら、学校全体として活用能力を高めたい。ガイドラインを作成した上で、セキュリティーの強化にも努める必要がある。	
■豊かな人間関係と社会性を育むための力点 ◎自己有用感を向上させる人間関係づくり ◎いじめをしない、させない、見逃さない取組の徹底	・全校児童による児童主体の集会活動や縦割り活動の効果的な展開 ・あいさつの習慣形成 ・いじめ撲滅に向けた児童の主体的な取組の展開	「学校が楽しい」という観点では肯定的評価　前期92%、後期88%という回答である。児童が学校生活をよくするために主体的に考え行動を起こすことを、機会をとらえて奨励してきた。挨拶の習慣化、いじめ撲滅、はきものそろえ等の学校の課題に対して、児童主導型の対応を推進している途上である。変容は数値化できないが、児童の表情からは「自分たちの取組」という自負が感じられる。 〈感染症対策として縦割りでの活動を制限してきたため、縦割り活動の効果的な展開は図れていない。〉	A	A	否定的な回答をした児童に対しては、今後もきめ細かく見守るとともに、次年度への引継ぎを確実にし、継続的組織的に支援できるようにしたい。次年度も、児童一人一人をきめ細かくみとり、丁寧で確実な指導、支援をしていくことで、児童との信頼関係をしっかりと構築する。	・コロナ禍の中では集会、縦割り活動等が大きく制限されてきて、まだこの先も続くと思われるが、少人数だからできることもあるかと思う。皆が、学校が楽しいと回答できるようにと思う。 ・職員間には共通理解は大切だと思う。いじめに関してはとにかく納得できるように話し合いの場をもってほしい。子どもから大人への問題と発展し、不満な気持ちをもつ保護者がおられた。 ・人との交流はコミュニケーション力の向上だけでなく学ぶことは多いと思うので、そのような機会を増やしてほしい。自然に触れることも人を介することで、人、動植物を含めた命の大切さも学べるのではないかと思う。 ・児童の挨拶は後半より大きな声でできるようになってきた。挨拶に関心を持つ子が増えてきたのかもしれない。引き続き取り組んでほしい。 ・あだななどについて理由がわからないまま規制していては本物は育たない。トラブルは話し合いのチャンスと受け止めるべき。いじめ件数が多かったということはそれだけ人間関係づくりのチャンスがあったと考えるべき。ポジティブな受け止め方が大切である。
	・課題のある児童への組織的な対応力の強化 ・特別支援教育に係る研修の実施 ・いじめ点検や情報交換会によるいじめや不適応への早期対応	教職員数12名の小さな組織であるが、その「動きやすさ」を生かして、毎週1回のいじめ点検の時間だけでなく、職員間では日常的に児童に関する情報交換を行ってきた。トラブル発生時は管理職、生徒指導担当、関係職員で臨時にいじめ防止対策委員会を開き、組織的対応を心がけてきた。また、不登校傾向のある児童への対応の仕方を学ぶために、SSWやSCと面談する機会を意図的に設け、より的確なアセスメントを心がけている。〈特別支援教育に係る研修会は本年度実施できなかった。〉	A		引き続き、「いじめ」の解釈について教職員の理解はもちろんのこと、保護者や地域にも啓発を図る。また教職員の人権意識や指導力向上のために、OJT研修など職員研修の場を日常的に設けたい。	
	・保護者に対するいじめへの理解促進	児童のトラブルが保護者間のトラブルに発展してしまわないよう、極力子どもたち同士の話し合いによる解決を進めたいと、機会あるごとに保護者に訴えてきた。また、いじめに対する現在の解釈の仕方を学校だよりを通じて保護者や地域に発信し理解を求めてきた。	B		保護者と担任の日常的な情報共有により、相互の信頼関係を構築する必要がある。同時に、それが教職員の日常業務の大きな負担となってはならない。いじめの解釈と合わせて保護者に十分納得が得られるよう、年度当初の段階で機会をとらえて理解を求めたい。	
■健康の保持増進と体力の向上のための力点 ◎体力づくりへの意欲の向上と目標に向けて頑張り抜く根気強さの育成 ◎自分の健康を自分で管理できる力の育成	・フィジカルタイムの推進による運動への意欲向上 ・年間を通してのマラソン、縄跳び活動の展開	マラソン大会に向けて、各自めあてをもって長休みに持久走を行った。また、なわとび大会を計画し、縄跳び練習への意欲付けを図った。 〈本年度は感染症対策のため年間を通してのフィジカルタイムは実施できなかった。〉	B	B	感染症対策の視点からフィジカルタイムの実施については次年度も見合わせる方向にある。学童期に伸ばしたい巧緻性や調整力などを体育の授業の準備運動等で継続的に取り入れていく。	・ネット、ゲーム等に関しては、家庭内での親の姿も大事かと思う。保護者への啓発をより進めてほしい。 ・家庭でのスマホによるゲーム等の時間が長いことが一番の課題だと思うので、親子での学習会は良かった。今後ICTの活用を図っていく中で、スマホについても有効な使い方について学習し、それにより好奇心・探求心を高める方策を検討してほしい。 ・ゲームのし過ぎによる弊害などは理由を明確にして大人が子どもにしっかり教える必要がある。学習の中で「検索」結果がすべてではないということも伝えるべきである。
	・適正なスクリーンとの接触についての理解促進 ・「早寝」「早起き」「朝ご飯」の推進 ・家庭でのゲームやネット利用に対する自己管理能力の育成	テレビやゲームの時間を家の人と相談して決めている児童は約70%で、ゲームやネットをする時間を1時間以内に制限している児童は55%である。家庭でのルール順守は各家庭の価値観に委ねられるところが大きいため、子どもたち自らが自己管理できるよう親子で「学習会（2020年11月2日実施）」を設けた。しかし、コロナ禍の影響もあってか前期に比べ後期のほうがゲームに多くの時間を費やす児童が増えているのが実情である。	B		ネットやゲームと上手に付き合える自己管理能力を身に着けさせるために、ネット社会の危険性ややりすぎによる健康への影響など定期的な学習の機会を設けて理解を深めさせる。同時に、保護者への啓発も進める。	
■地域とともにある学校づくり ◎地域の良さを生かした教育の充実 ◎学校運営協議会・地域学校協働活動による一層の地域連携 ◎園小中一貫教育の推進	・自然教室を始め地域素材、地域人材等を生かした教育活動の一層の充実 ・持続可能な地域の支援体制構築に向けた支援ボランティアの組織化	感染症対策のために前期は外部との交流に慎重になり、予定した地域学習が未実施に終わったが、後期から感染症対策をとりながら徐々に活動の幅を広げてきた。自然教室は例年の活動に比べやや規模を縮小しての実施となったものの、保護者や地域の多くの方々の支援を受け、参加児童の達成感につなげることができた。地域の支援体制を構築するために、「東小サポート会」を起ち上げ、現在11名の方々に登録いただいている。	A	A	豊かな自然、人、ものに恵まれた本校の「つよみ」を最大限生かす活動を今後も継続する。そのために、年度当初に教職員が校区の歴史や魅力を知るための研修の機会を設けたい。また、感染症対策をとりながら、サポート会の皆さんと子どもたちの交流が深まる機会を積極的に設けていきたい。	・今年度は自然教室やサポート会、見守り活動など、地域と協力しての活動がしっかりなされていたと思う。 ・地域に配布されている学校だよりも、今年度はたくさん発行され、いつも以上に地域の方の目に留まっている。写真が入っているので余計に学校を身近に感じられたといった声も聞いた。 ・今年度サポート会をつくっていただいたことは、地域の方が学校に関わる機会を増やすきっかけになり大いに評価できる。今後は、自然教室、スキー教室等に関わっている方にも参加していただき、保護者、祖父母の参加につながっていければと思う。
	・学校運営協議会や地域学校協働活動等のリンクの強化 ・学校情報の積極的公開	学校運営協議会を年5回実施し、地域学校協働活動推進員にも参加いただきながら、広い視野で学校運営の在り方を協議いただいた。また、民生委員児童委員協議会の皆様との協議の場を1回設けることができ、地域からの視点で学校運営を振り返る場を得ることができた。 感染症拡大を受けた臨時休業中には学校情報の継続的な発信が不可欠と考え、WEBページを再構築した。また、学校だよりを月2回発行し地域回覧を依頼しながら地域の学校理解促進に努めた。	A		地域と学校（子どもたち）がともに取り組める何かを起動させたい。（例えば、校地内の花壇等の環境整備など）それにより、ともに「地域の学校」を創り上げていくという成就感が得られることに期待する。また、学校情報の地域への発信には今後も積極的に取り組んでいく。	
	・管内児童生徒、管内教職員の一層の交流促進	園小中一貫教育推進の一環として、町内高学年が集い合同の陸上練習を行う予定であったがコロナ禍の影響で中止となった。校種を超えての授業や保育の参観を推進し、園や中学校の指導の実際や子どもたちの様子を理解できたことは有益だった。	B		めざす15歳の子どもの姿を明確に目標に据え、9年間で一貫した取組を進める。生活面では「あいさつ、そうじ、はきものそろえ」、学習面では道徳科の授業の充実を目標に2園4校で協働して取り組んでいく。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・今年度はコロナ禍の中今まで経験したことのない1年だったと思うが、そのような中でも学校には明るい動きが感じられた。一つ一つ細かく子どもたちを見ていただいたり、サポート会を起ち上げて実行していただいている、目標に向かって状況を把握して等、「動き」を特に感じ良い印象を持った。 ・個年度はコロナ対策を考慮いただきながらの学校運営であったと思うが、必要な事業については臨機応変な対応がなされ良かったと思う。今後の学校運営を考えるうえでサポート会ができたことは大きな成果であると思うので、これと学校運営協議会、PTA、教師がうまく連携して学校運営にあたれるようにしていただけるとよい。 ・コロナ禍の中で子どもと誠実に向き合って、制限のある中、一生懸命取り組んでいただき子どもたちの成長が見られたと思う。家庭との連携を取りながら、子どもの健やかな育ちのために次年度もよろしくお願いしたい。 ・全体的に前年度より状況を改善している。ネット、ゲーム、家庭学習の改善への取組が必要である。保護者を引き込むものを期待する。	A	・引き続き地域や保護者への継続的・具体的な情報発信・提供に努め、学校運営に対する理解を深め、関心を高めていただくことに努める。中でも、いじめ問題にかかわる理解促進に努め、児童間のトラブルが保護者間の問題に拡大しないよう、誠意をもって保護者への説明を繰り返したい。 ・ICT活用を目標ではなく手段と明確に位置付け、問題解決や協働的な学びの場面を意図的に組み込みながら、有効活用を目指す。 ・児童が読書の楽しさ、奥深さに触れられるような場づくりに努める。 ・学校運営協議会が単なる諮問機関とならないよう、各委員に児童の現状を理解していただく場を設けながら、学校運営への参画が実感できるような工夫を行いたい。将来的にサポート会の運営を学校運営協議会に委ねていけるよう取り組む。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式1）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ西小学校

学校教育目標	最高教育理念 自ら鍛え自ら学ぶたくましさと 人や自然と共生するやさしさをもった人の育成 校訓 「明るく、元気に、励む子」 地域とともにある学校 ～つながり響き合う教育の実践～
昨年度の評価概要	・児童数の減少や地域住民の高齢化などの課題も多い中、「地域とともにある学校」を目指してさまざまな取組を進めている。子どもたちのたくましさ、やさしさを見守り、支えていく上で先生方の取組に加えて、保護者・家庭との連携をいっそう深めることや地域住民の協力が今後とも必要になっていく。 ・本校児童の一番よいところは、団体的な行動や活動に一致団結して取り組む姿勢である。高学年は低学年のことを思い、低学年は高学年を見習い、良い雰囲気で学校生活が過ごせている。 ・教職員はそれぞれに頑張っていると思うが、目標達成には多様な方々の協力が不可欠だということを基本に少しずつでよいので取組を進めていただきたい。子どもたちは、社会に出ても協働の取組が必要になってくると思うので多様な主体で一緒に考え、作り出すようなきっかけになる取組をもっていただけたらと思う。
中期的目標	○子どもの姿で勝負するプロ（教職員） ・保護者・地域の期待に応える ・小規模のよさを生かし、課題を克服する経営 ○自らの成長を感じ自信が持てる（児童） ・魅力ある楽しい教育活動、体験活動 ・集団力、自己肯定感の向上 ○学校・地域が課題と目標を共有する（地域） ・地域の核となる学校づくり ・地域人材とのさらなる連携

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
明るい子 ○地域の人から生き方を学ぶ ○共生する力を育み生き方を学ぶ学習の推進 ○絆を深める集団づくり仲間づくり ○なかよし学級と共に歩む	地域に学ぶ体験学習実施　100%	4年：里山学習、5年：米作り など地域の皆さんの協力のもと、体験学習を実施することはできたが、感染症対策のため他学年では十分な取組が難しかった。	B	A	感染予防対策に努めながら、可能なところから実施する。	・コロナの影響により、地域の方との交流は難しかったが、地域の方との交流は、コミュニケーション能力の向上以外にも学ぶことが多く、夢カードなど今後のキャリア教育につながっていくものと思われるので、引き続きその機会を増やしてほしい。 ・適正に指導された。特に新型コロナ予防のため、生活様式も変化させるを得ない1年であったが、学校、保護者、地域とも連携され、挨拶、返事、良い習慣について引き続き指導されたことは、児童にとっても安心であったと思う。 ・挨拶については、高学年女子児童は先にしてくれて、気持ちが良い反面、男子児童、や低学年は大人から声をかけても返事がないことが少なくなかった。 ・全体的に明るく、保護者共々仲間づくりができている。 なかよし学級を意識することなく共に育っている。
	夢・志をもつ子(夢カード活用)　100%	夢カードは各学年の実態に応じて活用し、キャリア教育の充実を図っている。100% 夢をかなえるために努力する子…85%	A		より記入しやすい夢カードへ様式を改善する。	
	明るい声で挨拶をする子　100%	児童…97%　保護者…86% 地域の方や見守り等、サポートいただいている方からも高評価を得ている。	A		マキノ中学校区の合言葉と合わせて、継続的に指導していく。	
	大きな声で返事をする子　100%	児童…86% 保護者…81% 保護者からは挨拶と同様の評価をいただいているが、児童の意識は挨拶よりもやや低い。	A		挨拶と同様に、返事の大切さについてもしっかり指導し、意識づけていく。	
	靴そろえを意識する子　100%	児童…94% 保護者…63% 臨時休業など、家庭で過ごす時間が多くなったが、児童、保護者の評価は昨年度よりも大きく改善している。	A		家庭とも連携しながら、よい習慣がしっかり定着するよう指導していく。	
元気な子 ○体力向上・運動習慣確立 ○生活習慣確立 ○食育推進 ○いじめ・不登校ゼロの実践	10分間運動に進んで取り組む子　100%	10分間運動の取組は実施することができなかったが、85%の児童が外遊びや運動をしていると回答している。	B	B	感染防止に配慮しながら外遊びや運動する場を設定していく。	・多くの児童が外遊びなどをしているが、一方で家庭でのスマホによるゲームの時間が長いのは一番の課題であると思いますが、ICTの活用を図っていく中で、スマホについても有効な使い方について学習し、それによる好奇心・探求心を高める方策について検討してほしい。 ・放課後の10分間運動ができなかったことを含む評価であれば、いくら頑張ってもB評価にしかならない。その他だけでの評価なら85%達成で、A評価をするべきではないか。 ・工夫をして取り組まれたと思う。歩いての登下校、また地域の方々と連携した放課後子ども教室等も体力増進につながり、子どもの成長に良いことと思う。 ・運動会ではきびきびした動きで競技に取り組んでいる姿勢が確認できた。
	早寝する子　早起きする子　100%	早寝　児童…77%　保護者…76%　特に起床について課題を感じる保護者の割合が高い。 早起き　児童…67%　保護者…48%	B		担任や養護教諭より睡眠の大切さを理解させ、規則正しい生活習慣の定着に向け、家庭と連携しながら指導する。	
	ｹﾞｰﾑﾃﾚﾋﾞ2時間以内　100%	児童…71%　保護者…49%　臨時休業など、家庭で過ごす時間が増加したことも一因になっていると思われるが、本校の大きな課題である。	C		PTAによるノースクリーンデーの取組を充実させるとともに、養護教諭による啓発を実施していく。	
	歯科受診率　100%	67名中、受診勧告を23名に発行。　61%　14名/23名（2月15日時点） 引き続き保護者への啓発が必要である。	B		定期健診の結果を受け、早期受診の連絡を行うとともに、受診状況の把握、再度の声かけを行う。	
	いじめ・生活アンケート活用　100%	学期ごとに児童・保護者アンケートを実施するとともに、教育相談週間を設定して、細かな実態把握、指導を行っている。	A		学校いじめ防止基本方針にもとづく取組を継続、充実させる。	
励む子 ○基礎学力・学習習慣の定着 ○魅力、喜びのある授業 ○授業改善 ICT活用授業 図書室活用授業 外国語活動 ○読書の質の向上	マ西漢字に喜んで取り組む子　100%	どの学年でも、全体的に真面目に取り組んでいる。	A	B	各担任より意欲づけを行い、取組を充実させる。	・様々な活動について意欲的に取り組めるように、教職員の方々の工夫があったのだと思う。今年度、各学年の授業が終えられることは、努力されたと思う。読書については、保護者にも意識づけをした取組も必要ではないかと思う。 ・児童には知的好奇心を高めることが大切であると思うので、そこから図書へ、またICTを活用し、好きなことを見つけ、深め、それを皆にアウトプットしていけるような機会を持ってあげてほしい。 ・ICT活用授業が先生方中心に取り組まれていることは大変有難い。本校の「強み」と感じている。 ・家読の質も向上させるのであれば、マキノ図書館の蔵書を他の図書館並みに児童の興味を引くような本の増冊をお願いしたい。
	家庭学習毎日10分×学年以上	「家庭学習がんばろう週間」年6回　100% 普段の取組　児童…83% 保護者…70%	A		時間の長さだけではなく、質も向上できるよう、各学年の力に応じた学習内容を示していく。	
	「家読」月一回実施（年間10回）	読書に親しんでいる児童…57% 保護者…48% 家読は年間12回実施した。	C		引き続き家庭の状況に合わせて取り組んでいただけるよう、図書だより等による働きかけを行う。	
	読書の質を向上させる取組	1～3年生100冊、4～6年80冊　を目標としている。冊数は個々により差があるが、より多くの本に親しめるよう指導している。マキノ図書館より出張貸し出し 外部からの補助金により書籍の購入	B		マキノ図書館とも連携を図り、児童の興味のある本に触れる機会を設定していく。各教科学習でも、図書室を利用しながら内容を深めていく。	
	学習が楽しいと思える子　100%	児童…86% 保護者…89%　多くの児童が楽しく学習に取り組んでいる。	A		教員の指導力向上に向けて研修の充実、ICT機器の有効活用を図る。	
地域とともにある学校 ○学校運営協議会の組織確立、運営 ○PTA活動の充実 小中一貫教育の推進 ○「小中一貫教育の日」の推進	年間5回の学校運営協議会の開催・協議	学校運営協議会を開催し、協議を行うとともに、いただいた意見を教育活動に生かすことができた。	B	B	協議をさらに深め、学校経営や教育活動に生かしていく。	・ボランティアに登録いただいた方に、ボランティアだけではなく、学習発表会などの行事に参加していただく、ボランティアの方同士が集まる機会を作るなど、さらに地域の方との交流を増やす方策を考えていただきたい。CSについて学運協の委員はもちろん、保護者、教師が共に学ぶ機会を作ってほしい。 ・コロナ禍で、地区の大人と児童との交流の場であった運動会等の行事が無くなり、地区全員が残念な思いをしている。 ・放課後子ども教室は他校にないとても良い取組です。もっと地域の方々の参加を増やしていけたらと思います。 ・当初の予定通り実施できない状況の中でも、保護者とは連絡を密にされ、校外学習、体験学習等、感染予防に配慮して取り組まれたと思う。HPは情報発信のためにも随時発信されるようにと思う。
	保護者が学校へ来る機会月1回以上	コロナ禍のため、当初の予定通りには実施できなかった。	B		感染防止対策に配慮した上で実施していく。	
	学校だより月1回発行/学年だより・保健だより発行/HP随時更新	学校だよりは毎月発行し、保護者および区長様を通じて各ご家庭へ回覧していただいた。	A		引き続き学校からの情報発信に努め、ホームページを更新する。	
	「小中一貫教育の日」共同授業研究システムの実施	マキノ西子ども園、マキノ中学校との交流は感染予防に配慮しながら実施した。	B		コロナ禍における教職員間の交流、共同研究は中学校区でその在り方を共通理解した上で実施していく。	
	小中一貫教育全員研修会への積極的な参加	感染予防に配慮し、オンライン形式で実施した。	B		市教委・教育研究所の指導も得ながら充実させていく。	

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・今年度はコロナの影響で、児童の活動も大幅に制限されたと思いますが、6年生については修学旅行の代替活動を自分たちで考え、大谷山登山、マキノ高原でのキャンプファイヤー、肝試しなどができたのは、何よりも称賛に値すると思います。もちろん指導くださった教師の功績も大きいと思います。このように、児童に主体的に考えてもらうと、主体的で創造的な活動ができることが実証されたと思いますので、全般にわたって、このような取組を入れることを検討ください。 ・コロナ禍での教育活動に精一杯取り組まれてきた先生方の努力には頭が下がります。 ・運動会等の催しを見ると団体種目で、支え合う心が現れていた演技に感銘した。 ・貴重な時間を過ごしている子どもにとって、このコロナ禍は悔やまれるが、「withコロナ」の新しい地域との交流方法を地区のPTA中心に模索していただきたい。 ・ゆとり教育のために、授業時間がとれなくなり、児童たちが例年行っていた学校登山ができなくなっていましたが、本年度は6年生のみでしたが、修学旅行の代わりに校区内の登山とキャンプファイヤーを行ったのは、とても良かった。自然に親しみ、体力をつけ、仲間づくりも考えるなら再開を望みます。 ・地域の方々のマキノ西小に対する思いはとても温かく感じます。 ・今年度はコロナ禍の中で、保護者の方々、関係機関とも、今まで以上に連携して、何をするにも児童のことを考え、感染予防を配慮された取組を工夫されたと思う。 ・休校で授業時間が減る中でも、校外学習、体験学習等、マキノの自然や地域の方々との交流も実施されたこと、特に修学旅行については、地域の方々も交えて教職員一体として取り組まれたことは、マキノ西小ならではの良さが生かされていると思った。今後も、小規模の良さを生かし、どの活動においても、基本的自尊感情が育つように、指標目標に取り組んでいくようにと思います。	A	・感染症対策を行いながら、可能な範囲で地域の方やボランティアの方々に教育活動に参画していただく機会を設定する。学校運営協議会や地域学校協働活動推進員と連携しながら、学校における教育活動への理解を深めていただくとともに、より有意義な参画の在り方について協議し、活動につなげていく。 ・次年度のマキノ中学校区における生徒指導の合言葉「あいさつ、掃除、はきものそろえ」を意識しながら、保護者や地域にも働きかけるなど、継続的に指導を進めていく。 ・ゲームやスマホの利用に関する指導については、PTA活動やひびき合い活動においてとりあげるなど、家庭における取組がさらに充実するよう働きかける。児童に対しては、ICT機器の安全で適切な活用について指導するとともに、養護教諭より、睡眠の大切さをはじめ、規則正しい生活習慣の定着に向けた指導を行っていく。 ・児童一人一人に配備されるタブレットについて、効果的な活用による学習内容の確実な定着と、主体的・対話的で深い学びへの授業改善に向け、研究実践に取り組む。 ・児童が主体的、創造的に取り組む学習活動の大切さについて、教職員で共通認識をもち実践を行う。 ・児童を読書好きにするため、授業において知的好奇心を高めるような働きかけをするとともに、図書ボランティアや教職員による読み聞かせ等を充実させる。また、図書館とも連携を図り、多くの図書に触れる機会を設ける。 ・学校だよりや学級だより、保健だよりを通して、引き続き学校からの情報発信に努める。また、ホームページの内容更新に努める。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ南小学校

学校教育目標

「ともに学び心豊かでたくましい児童の育成」のもとに
知・徳・体の調和のとれた児童を育てる

【目指す学校像】
- ○ 人権を守り、夢と希望を育む学校
- ○ 誰もが自分の力を発揮できる学校
- ○ 保護者から信頼される安心・安全な学校
- ○ 地域の誇りとなる学校（地域と共にある学校）

【めざす子ども像】
- ○ よく考える子
- ○ なかよくはげむ子
- ○ たくましい子

昨年度の評価概要

◎ 児童・保護者評価

○ よく考える子　A	学習理解　A	授業改善　B	家庭学習　B	読書習慣　C
○ なかよくはげむ子　B	体験活動　A	いじめ防止　A	あいさつ　A	規範意識　A
○ たくましい子　B	体力向上　B	健康な生活　A	安全な生活　B	やり抜く力　A
○ 学校の対応　A	情報提供　A	方針説明　A	子ども理解　A	信頼関係　A

◎ 学校・傾斜評価
- ○ 学力アップ　A
- ○ 心アップ　B
- ○ 体力アップ　B
- ○ 教職員の指導力アップ　A
- ○ 保護者・地域との連携アップ　A

中期的目標

◎ 学び深く（学力アップ）
- ○ 知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。
- ○ 学習規律、学習習慣の確立（宿題の出し方、評価の工夫、読書）
- ○ わかる、できる、考える楽しさが味わえる授業づくり
- ○ 中一貫教育：園校種の枠組みを越えた授業研究や実践交流

◎ 笑顔あふれ（心アップ）
- ○ いのち・人権・人とのつながりによる居心地の良い学校づくり
- ○ 豊かな人間性、社会性（特別でない特別支援教育、キャリア教育）

◎ 健やかに（元気アップ）
- ○ 「運動好き」にすること、「動ける体」の基礎をつくること
- ○ 安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせる

◎ 教師の力量アップ（学び合う教職員集団）
◎ 保護者、地域との連携アップ（協働、相互参画による教育活動の充実）

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価		改善方策	学校関係者評価
◎ 学び深く（学力アップ） ○ 全員参加の授業づくり（授業改善） ・ 知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度の育成（ＩＣＴ機器の活用など） ・ 教科の特性や学習の内容に応じた多様な学習活動の工夫 ○ 基礎・基本の定着 ・ 学ぶ力向上策の実施、つけたい力の明確化 授業のユニバーサルデザイン化 ○ 学習規律、学習習慣の確立 ・ 「聴く力」「話す力」「伝え合う力」の育成 ・ 学習環境の整備 ・ 宿題の改革、読書指導 ○ 幼小中との連携 ・ 園校種の枠組みを越えた授業研究や実践交流	○ 授業改善 ※ 授業の理解度、満足度への評価　90%以上 ※ 指導の工夫、授業改善への評価　90%以上 ※ 多様な学習活動の工夫	○ 授業改善、全員参加の授業づくりへの職員の意識は高く、ＩＣＴ機器を効果的に活用するなど、「読み解く力」を意識した授業づくりに努めた（職員評価100%）。 ○ 授業の理解度、満足度については、保護者、児童評価ともに95%以上であった。 ○ 学習規律は身についているが、集団の中での自己表現に課題がある。（児童79.3%）。	B	B	○ 次年度もテーマは変えずに、教科を国語科から全教科に広げて研究を進める。 ○ 「書く力」に関しては全校で習慣的な取組にする。 ○ 自分の意見や思いを発表する場や自己表現の場を増やす。	○ 小規模校のメリットを生かし、先生方が子ども一人ひとりにきめ細かに接してくださっている様子が見てとれる。 ○ 利用にかかる「質」に着目し、タブレット利用があくまで「手段」であり続けるような取組、工夫が今後重要になってくる。 ○ タブレットを使った授業が「楽しみ」という子どもに今後も興味をもたせる授業の継続に努めてほしい。 ○ ＩＣＴを活用し、好きなことを見つけ探求し、それをみんなにアウトプットできるようにしてあげてほしい。 ○ 自分で学習習慣を確立するのは困難なことで、時間をかけて指導していくしかない。 ○ ジャンプアップ週間については、毎年のように問題として指摘されている。その存続の是非やあり方まで踏み込み、保護者を交えた議論が必要。 ○ ジャンプアップ週間は、「ねらい」が十分に児童や保護者に浸透していないのではないか。少し趣向をかえてみてはどうか。 ○ 基礎・基本の定着の個人差が大きくなったのは、学校での学習時間が減った影響が考えられるので、今後の指導に期待します。
	○ 基礎・基本の定着 ※ 全国学力・学習状況調査　全国平均以上 ※ きめ細やかな指導、対応への評価　90%以上 ※ 学ぶ力向上策の実施、つけたい力の明確化	○ 全校学力学習状況調査の結果、国語、算数ともに県平均を大きく上回ったが、個人差が大きい現状がある。また、目的や課題に応じて「考えをまとめる力」に弱さがある。言語活動の充実が課題となっている。 ○ きめ細やかな指導への保護者評価が80%以下であり、個に応じた手立てが課題である。	B		○ 個々の学力差や能力差を踏まえ、子どもたちの力を伸ばすために、複数での指導や教員の専門性を生かした指導ができる環境を整える。 ○ 基礎基本の定着の取組に関して、積極的に保護者への周知を図る。 ○ 外部人材を活用した学力補充教室により、学力の底上げに取り組む。	
	○ 学習習慣の確立 ※ 家庭学習の習慣化、宿題の出し方等への評価　90%以上 ※ ジャンプアップ週間、学び方マスター週間への評価　90%以上 ※ 読書を習慣化するための工夫	○ 家庭学習の習慣化、宿題の出し方の工夫については、児童、保護者ともに90%以下となった。「自分で計画を立てて勉強する」「授業と家庭学習のつながり」が課題である。 ○ ジャンプアップ週間、学び方マスター週間のねらいが十分に理解されていない現状がある。 ○ 読書環境を整え、本に触れる機会を増やすことで、本を読む児童は増えている。	B		○ 宿題の取り組み方や内容に関して全教職員で共通理解を図り、授業との統合性をもち、弱点を克服するための取組にする。 ○ ジャンプアップ週間や学び方マスター週間の取組の周知を徹底する。 ○ 必読書(教員)の選定や図書委員会の取組を継続し、読書環境を整える。	
	○ マキノ中学校区小中一貫教育の推進 ※ メリットや可能性を実現する取組の実施 ○ マキノ西こども園との連携の強化 ※ 学びに向かう力推進事業を生かした取り組みの充実	○ 新型コロナウィルス感染症対策のため、研究授業ができなくなったが、各部会で実践交流を行うことができた。また、小小連携で各校の取組を交流することができた。 ○ 学びに向かう事業を継続し、西こども園と連携し、児童と園児の交流だけでなく、職員の積極的な交流を行った。成果と課題を共有し、滑らかな就学につなげられた。	B		○ 園小中一貫教育目指すべきゴールや大切にしたいことに関して共通認識を図ったうえで研究を進めていく。 ○ 園小交流、行事の共同実施、部活動体験など、最終的に子どもに還元できるような研究や取組を増やしていく。	
◎ 笑顔あふれ（心アップ） ○ いのち・人権・人とのつながり ・ 居心地の良い学級づくり ・ いじめをゆるさない学校づくり ・ 特別の教科「道徳」、人権教育の充実 ○ 豊かな人間性、社会性を育む ・ 自己肯定感をもつ児童の育成 ・ 聴き合う教室づくり ・ 認め合い、学び合い、高め合う学年・学校、集団づくり（自分を生かす） ・ キャリア教育の充実 役割や責任を果たし、役に立つ喜びを体得 ○ 特別でない特別支援教育の推進 ・ 児童を見取り、「困り感」に寄り添い、児童にとって一番良い方法を考え対応する ○ 凡事徹底の学校風土の構築 ・ 将来にわたって必ず身に付けておかなければならないことの指導を徹底 ・ 当たり前のことが当たり前にできる子	○ いじめをゆるさない学校づくり ※ 「学校が楽しい」への評価　90%以上 ※ 「いじめのない学校づくり」への評価　90%以上 ※ 教育相談の充実、生徒指導の組織的な対応	○ 「学校が楽しい」については児童、教員の評価は98％を超えたが、保護者の評価は90%以下だった。さらに「魅力ある学校づくり」への取組を充実させたい。 ○ 「いじめのない学校づくり」については児童、保護者ともに95%以上であった。学校全体で情報を共有し、組織的な生徒指導、丁寧な対応に取り組んできた成果と考える。	A	A	○ 一人ひとりが活躍できる場面を増やすことに努め、居場所があり、子どもが主体の学校づくりの支援を進める。 ○ 「報告、連絡、相談、記録、確認」の徹底、情報と対応策の共有を図り、組織的な対応を堅持し、児童、保護者の安心感につなげる。 ○ お互いに意見を聴き合う、伝え合う学級づくりを目指す。	○ 先生方、保護者、地域の方々が「あなたはあなただから素晴らしい」とすりこんであげることが大切であると考えます。 ○ コロナ禍で、十分な活動ができないことでストレスも抱えていると思うが、それが現れていないのは、職員の指導のたまものであると感じる。 ○ 人との交流は、コミュニケーション能力の向上だけでなく学ぶことは多いと思うので、その機会を増やしてほしい。 ○ 学校が楽しいと児童も評価しているので、学校全体で「いじめ」は絶対にしてはいけないことを理解させてほしい。 ○ 凡事徹底の学校風土は、何事も平凡なことが始まりであるとの認識を共有して継続指導してほしい。 ○ 地域人材の活用によって、少しでも負担が和らいだ先生方に「笑顔あふれる」ことが、学校全体での「笑顔あふれる」にとって重要な事である。 ○ 「地域人材の活用」を一般的な教科の枠内のみで考えるのではなく、委員会やクラブ活動でも検討してはどうか。 ○ 「体験せよ、体験は宝である」自立意識の向上が認められること、分担された役割の認識と行動に対する結果が成長につながる。 ○ 決まりやルールを守ることができると、世界が狭く、国際的になる中で、分け隔てなく活動できることは素晴らしいこと。 ○ 小規模校の魅力を生かし、寛大な空間づくりに取り組んでほしい。 ○ 参観の印象では、みんな元気に挨拶し、素直に成長しているように思う。
	○ 豊かな人間性、社会性を育む ※ 思いやりの心の育成への評価　90%以上 ※ 支持的な学級づくりへの評価　90%以上 ※ 聴き合う教室の実現、自尊感情を高める	○ 「思いやりの心の育成」「支持的な学級づくり」は、ともに児童、保護者の評価が95%以上であった。自尊感情や自己肯定感の高まりは、クラスや委員会など全校で互いを認め合う取組を工夫して行っている成果と考える。 ○ 学校行事や委員会活動を通して大きく成長していく様子を見ることができた。	A		○ 集団の中で自分の役割を果たす達成感を味わわせ、互いを認め合う関係づくり、励まし合う絆づくり、児童による児童のための活動、多様な人々との関わりを通して、思いやりの心を育てる。 ○ お互いに意見を聴き合う、伝え合う学級づくりを目指す。	
	○ 道徳教育、人権教育の充実 ※ 道徳の授業改善、人権教育の研修 ※ 子どもの発言や行動に敏感になり、人権意識を高める	○ 「考え、議論する道徳」を意識し、多様な考え方、感じ方ができるような発問や交流の仕方を工夫するなど道徳の授業改善に努めた。 ○ 学級で人権スローガンを考えたり、全校道徳を実施したりするなど、人権意識の向上に努めたが、さらに自分自身の問題として捉え、課題に向き合うための工夫が必要である。	B		○ 道徳的課題を児童が自分自身の問題と捉え、課題に向き合い、それが日常生活につながるような授業づくりに努める。 ○ 教師自身が人権感覚を磨き、認め合い、支え合う温かな人間関係を基盤とした学級経営に努める。	
	○ 学校行事、体験活動、特別支援教育の充実 ※ 学校行事、体験活動への評価　90%以上 ※ 自己有用感と自己肯定感を育むへの評価　90%以上 ※ 教育のユニバーサルデザイン化	○ 「学校行事、体験活動」「自己有用感と自己肯定感を育む」については、コロナ禍でも児童、保護者とも95%以上の高評価となった。自分の役割を意識させ、見通しを持たせることを重視したことで、自立意識の育成につながったと考える。 ○ 教育のユニバーサルデザイン化は意識できてきたが、児童の理解は不十分であった。	B		○ 課題意識をもって、達成できるように計画し、自ら考えられるように自立意識の育成につなげる。 ○ 教師の人権意識を高めるための研修を多く取り入れる。 ○ 児童が誰にでも優しくできるように特別支援の理解推進に努める。	
	○ 凡事徹底の学校風土 ※ しっかりあいさつができる子への評価　90%以上 ※ 範意識向上への評価　90%以上 ※ 当たり前のことが当たり前にできる子	○ 保護者評価は90%以下であったが、地域から「挨拶の声が大きくなった」という声を聞くようになり、児童の評価も90%以上に上がってきている。 ○ 当たり前のことが当たり前にできる児童は多く、決まりやルールを守っているの評価も100%であった。指導だけでなく、児童の自治活動を大切にしてきた成果であると考える。	A		○ あいさつの必要性を児童が考える場面をつくり、児童会や学級であいさつの取り組みを活性化させる。 ○ 教師が共通認識をもった上で、同じ歩調で粘り強く指導できるようにする。	
◎ 健やかに（元気アップ） ○ 魅力ある体育授業の工夫改善 ○ 保健・安全教育の充実 ・ 生活リズムを確立 「早寝・早起き・朝ご飯」 ・ 命を守る安全意識の向上 ・ 健康、体力向上を意識できる子を育てる	○ 魅力ある体育授業、体育的行事 ※ 体力の向上、運動への親しみへの評価　90%以上 ※ やり抜く力の育成への評価　90%以上 ※ 体育授業の工夫改善	○ 「体力の向上、運動への親しみ」の評価が、児童、保護者ともに80%以下であり、「新しい生活様式」で運動に親しむための取組の工夫が大きな課題である。 ○ 「やり抜く力の育成」の評価が、児童、保護者ともに90%以下であった。学校行事等だけでなく、授業でもより成功体験や達成感を味わえる工夫が必要である。	B	B	○ 学年部体育を継続し、個別の目標や個々の伸びを着目できるよう、ICTを積極的に活用していく。 ○ 運動の楽しさが体感できるような、週末運動などの取組を推進し児童の体力向上につなげる。	○ 体育など外部人材を活用してもらうことは、地域での活動につながることも考えられるので、ぜひ取り組んでほしい。 ○ 学年部体育で、年長者、複数の先生での指導で成果を上げて欲しい。 ○ 給食の時間に栄養士さんを招き一緒に食事をしながら、食べ物の大切さや健康への影響について学習する機会をもつ。 ○ 日常から危険な所や安全な場所を確認すること。 ○ 学校のみの指導は困難なので地域一体となり、家庭での食事風景のレベルアップが必要。外部ボランティアさんや「ひびきあい」と連携する。 ○ コロナ禍で運動に制限があった中、運動会などその対応がなされていた。 ○ マスク、手洗い、うがいの実行で、インフルの流行もなく、学級、学校閉鎖もなく、健康な学校生活が送れている。 ○ 南小の取組（マラソン、縄跳び大会等）十分な水準、規模でされている。
	○ 健康への意識向上 ※ 健康に気をつけて生活することへの評価　90%以上 ※ 食に関する指導への評価　90%以上	○ 基本的な生活習慣は概ね良好で「健康に気をつける」の児童の評価は、90%以上であるが、ゲーム依存傾向の児童が一定数いる。睡眠指導、時間の使い方を意識させるなど、生活リズムについての更に指導する必要がある。 ○ 栄養ボードの継続、給食クイズ等の仕掛け、講師を招いての食育指導を実施してきた。	B		○ 生活習慣を自ら見直すことができるような働きかけを継続し、PTA研修やひびきあい等で家庭にも啓発していく。 ○ 食育、マナー等について教育活動全体を通して、共通理解したことを指導していく。	
	○ 安全への意識向上 ※ 安全に関する指導への評価　90%以上 ※ 学校全体の危機意識・危機対応力を高める	○ 「安全に関する指導」の児童の評価は、95%以上であった。コロナ禍での指導など日々の安全指導や避難訓練の事前、事後指導の成果であると考える。 ○ 職員の「危機管理」の意識はコロナ感染症対策など昨年度より向上したが、危機管理能力の向上や危機回避やその対応についての研修は今後も必要である。	B		○ 危機管理を理解し、様々な事態に素早く対応できるよう組織力を高める。 ○ すべての学校教育活動を通して、計画的、継続的に安全教育、安全指導を実施し、児童の危機管理意識の向上を努める。	
◎ 教職員の力量アップ ○ 学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○ 「チーム」で勝負する教職員集団 ・ 授業改善を核とした授業力向上 ・ 児童を見取る力、感性を磨く ・ 人権意識高揚のための研修の充実 ◎ 保護者、地域との連携アップ ○ 地域とともにある学校 （コミュニティースクールの立ち上げ） ・ 目指す児童像の共有 ・ 地域資源の発掘、活用	○ 資質向上、学び続ける姿勢 ※ 授業力向上を目指した研究授業の取り組み ※ 学級経営力、学校運営への参画意識の向上 ※ ＯＪＴ研修の充実	○ 校内研究「読み解く力に焦点をあてた授業づくり」を中核として、児童が自分と他者の意見や考え方を比較しながら、考えを広げたり深めたりできる研究を進めることができた。 ○ 教師間で児童のことや授業のことなど、気軽に話し合える環境がある。 ○ 若手教員が先輩教員の授業を参観できる機会を計画的に実施することができた。	A	A	○ 今後も教育者として研鑽と修養に努め、総合的な力量を高めると同時に、自らの得意分野を伸ばす努力をする。 ○ 校内研究の指導案検討のＯＪＴの他に、タブレッド研修や図工研修など、ニーズに合った研修を取り入れ、授業力や教育力の向上に努める。	○ 教職員のチームワークと児童との信頼関係が授業参観で見受けられ、それぞれの児童の姿がよく見えているように見える。 ○ 集落住民への「ももせ」の回覧。市ホームページの「ももせ」の掲載は、随時行われており情報提供に努められている。 ○ 図書館ボランティア参加やマラソン大会のボランティアには、多数の参加があったことは、地域の連携がよくなってきているように思われる。 ○ 年度初めの休校期間、メールや戸別訪問での配布など、制約のある状況でよくしていただいたと感謝している。 ○ 学校通信を通じて、南小の教職員がどのような研修や勉強会をしているかについても、発信してもよいのではないか。 ○ マキノ中学校区における学校運営協議会の合同開催をしてはどうか。 ○ 地域との連携を大切に、他者に触れることで視野が広がると思う。 ○ 地域協働活動については、登録者へのフォローをしっかりしていく。 ○ ＯＪＴ、教育相談も工夫されており、さらに充実させてほしい。 ○ 子どもの育て方について、教員と保護者の取れ方に相違がないように細かい方針報告や呼びかけなどがあるとよい。
	○ 児童を見取る力の向上 ※ 相談できる教師、相談できる学校への評価　90%以上 ※ 一人で抱え込まない、報連相＆記録 ※ 組織対応力の向上	○ 「相談できる教師、相談できる学校」への評価は、児童、保護者とも95%を超えた。引き続き高い評価を得られるよう、「ともに子どもを育てる」思いを共有していきたい。 ○ 定期的に情報交換を行い、学校全体で情報を共有し、課題に対しては組織的に対応した。また、アンケートや教育相談を計画的に実施し、課題の早期発見、早期解決に努めた。	A		○ 小規模校の良さを生かし、全職員で全児童を見守る体制を続ける。 ○ おしゃべりタイムを継続するとともに、日々の子どもたちとの関わりを大切にし、信頼関係を築いていく。 ○ 子ども、職員間ともに話しやすい、相談しやすい環境をつくる。	
	○ 保護者の信頼にこたえる学校づくり ※ めざす学校像、子ども像の共有への評価　90%以上 ※ 情報提供への評価　90%以上	○ 「めざす学校像、子ども像の共有」「情報提供」の評価はともに95%以上であった。コロナの影響でＰＴＡ総会は実施できなかったが、学級懇談会や学習参観など工夫をして家庭との連携を密にした成果と考える。 ○ 学校だより、学級だより、保健だより、図書だよりを随時発行できた。	A		○ HPの更新、学校だより、学級だより、保健だより、図書だより等の定期的な発行を継続する。 ○ 玄関ホールを整備し、学校の取組を知らせる掲示を充実させる。 ○ 学級の様子を知らせる教室掲示を充実させる。	
	○ 地域とともにある学校づくり ※ 協働、相互参画による教育活動の充実 ※ 地域人材、素材の発掘、活用	○ 新型コロナウィルス感染症対策について、学校運営協議会で指導助言をいただきながら教育活動を進めることができた。コロナの影響で熟議の場を持つことができなかった。 ○ いろいろな教育活動で学校支援ボランティアの活用を計画していたが、コロナの影響で計画どおり実施することができず残念であった。	B		○ 学校運営協議会委員との熟議を行い、教育課題への取組を地域とともに考え、実行する体制を充実させる。 ○ ボランティア募集を継続し、地域人材や地域素材を計画的に学習に取り入れ、地域の力を学校運営に生かす。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○小規模校のメリットを生かし、先生方が子ども一人ひとりにきめ細かに接している。今後も、タブレット等のＩＣＴ機器を有効活用するなど、個に応じた指導、基礎・基本の定着、学習習慣の確立に努めてほしい。また、ジャンプアップ週間の取組を見直す必要があると思う。 ○コロナ禍でも子どもたちは素直に成長できているように感じる。人との交流の機会を増やし、多くの体験をさせることで様々なことを学び、成長につなてほしい。教師、保護者、地域の方が連携し、凡事徹底の風土を守り、一人ひとりを大切にする空間づくりに取り組むことが大切である。 ○学校が保護者、専門機関と連携しながら子どもとともに健康・安全について考え、意識を高めていく必要がある。また、子どもの体力向上に向け組織的取組を継続してほしい。 ○先生方には、子どもと共に学び続ける姿勢を継続してほしい。学校が、保護者、地域と「育てたい子ども像」を共有し、その実現のために今後も保護地域との連携を密にすることが大切である。	B	◎小規模校の良さを生かした学校づくりを推進する。 ○わかる、できる、考える楽しさが味わえる全員参加の授業を全職員で目指す。そのために、タブレットなどのＩＣＴ機器を有効に活用し、個に応じたきめ細かな指導、子どもたちが主体的で対話的な深い学びにつながる授業の工夫に努める。 ○自分も友達も大切にできる人間関係の基盤づくりのために、道徳教育、人権教育を充実させるとともに、いじめのない学校づくりを子どもたちと一緒に取り組んでいく。また、「学校の新しい生活様式」の中で工夫し、少しでも多くの体験活動を取り入れ、様々な学びの場とする。 ○自分の健康、体力に関心を持ち、自分の命は自分で守る意識を高めるために、保護者、関係機関と連携し、健康・安全教育を充実させる。また、最後までやり抜く力の育成を重視していく。 ○「学校・家庭・地域がつながり、地域の宝である子どもを守り育てる」ために、「育てたい子ども像」を学校、保護者、地域で共有し、その実現のために何が必要かを熟議していく。また、コロナ禍でも、地域人材、地域の素材を生かした教育活動を進めていく。

（様式１）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
品位・気魄・和合 「自主・自立・感謝」 校訓：「自ら行動し変化を生み出す」 ～自分の品位・気魄・和合の実践～	・授業がわかる９０％（生）　・家庭学習６０分以上５２％　・部活動の充実８８％（生） ・月２冊以上の読書５７％　・１０ｋｍロードレースへの意欲８９％ 〇学力向上への取り組み・・・グループ学習の充実と補充学習の徹底 〇いじめ点検・・・生徒・保護者月１回を実施　解決１００％ 学校関係者評価より ・家庭学習を１日６０分以上するために何のために勉強をするのかを理解させ、何をすればよいのかを示してやってほしい。 ・授業の中では自分で考えて、自分の言葉で話す機会を増やして学力の向上にさらに努めるべきだ。 ・夢をもてるような雰囲気の学校を目指していくべきである。 ・地域の力を活用する様々な手立てを講じていくことが大切である。学校運営協議会委員だけでなくPTA会員も巻き込んだ取組を展開していくべきである。	□自ら学びに向かう姿勢の育成 □自ら行動する生徒の育成 □豊かな心を育てる体験活動の推進 □考える力を育てる授業への改善 □地域学校協働本部の設置と地域の繋がりを深める活動の推進 □教師の高い経営参画意識と組織対応 □個性を生かし支え合える教師集団

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力の向上 基礎基本の徹底 家庭学習の定着 学び合う学習の充実 表現・言語活動の充実 総合的な学習の構築	「授業がよくわかる」と生徒の９０％以上が評価	・先生の説明はわかりやすかったと回答する生徒は９８％。しかし、基礎学力を定着させる取組を行う必要がある。	A	B	・生徒の学習意欲を高め、主体的に学ぼうとする授業への改善する。	・家庭学習においては、小学校の時はできていたのだが、中学校では課題が少ないのかとも思われる。親の責任も大きいので、学校と保護者が連携し、定着するよう工夫する必要がある。 ・授業参観をしたときに、子どもたちのタブレットを使いこなす姿に驚いた。一人一台の配置となったので持ちぐされしないよう、活用してほしい。 ・先生の説明はわかりやすいと９８％の生徒が回答しているのだから、基礎学力の向上は期待できるはずである。 ・進級試験は必要ない。平均点以下は補習をするようにしたらどうか。
	生徒９０％以上が家庭学習を毎日　６０分以上	・ほぼできたという肯定的な回答は、生徒は６４％、保護者は４４％が回答。	C		・家庭学習について保護者と連携し、習慣化するよう工夫する。	
	考える場面を設定した授業実践	・校内研究として、主体的に考える場面を設定することをテーマに授業研究を行ってきた。今後も授業改善の必要がある。	B		・思いや考えを述べ合う場面設定を設定し、理解を深める授業への改善を図る。	
	全授業における1分間スピーチの実施	・スピーチは定着した。話す内容や伝え方など、スピーチの質的向上を行う必要がある。	A		・自分の考えをまとめ、人にわかるように伝えることを目標にスピーチの内容を高める。	
	ICT機器を活用した授業実践	・タブレット端末を積極的に活用し、全生徒が活用に慣れてきた。３学期より全生徒にタブレットが配布されたことにより、授業の見直しが課題である。	A		・学習意欲を高め、理解を深めるためのICT機器の活用を全教科で積極的に行う。	
	進級試験を加味した学年末試験の実施	・進級試験を行っていない。基礎学力定着のための内容を精査し、どのように行うか検討課題である。	C		・各学年で身に付けるべき内容を精査し、学年末にその課題と向き合わせる。	
	全教職員による補充学習（テスト週間）	・学校運営協議委員に協力を得て、１０月後半より週３回ずつ入試対策のための補習を行うことができた。	B		・地域の方と協働し、定期テスト前の補習を行う。	
豊かな心づくり 道徳教育の充実 集団づくり・体験活動の充実 読書の推進 ボランティア活動の推進 いじめ防止を含めた生徒指導の充実	豊かな心を育てる道徳教育や人権教育の充実	・全学年の縦割り班で、「安心できる学校生活とは」をテーマに話し合った。全校生が一体となって、いじめをなくすための方策を考えた。	A	A	・道徳教育を校内研究の柱とし、豊かな心を育む一助とする。	・読書は、読み解く力につながるので充実させてほしい。 ・感想文を求めることで、読書への意欲が下がるのではないか。 ・友達と距離を置いている生徒もいるように感じた。みんなが同じというのには無理がある。 ・いじめ点検だけでなく講演会をしてはどう。
	「いじめ点検」を月２回実施　　いじめの解決　１００％	・「いじめを見た、した」ことがない生徒が７８％。いじめが発覚した際には即座に解決し、その後継続して見守りを続けている。解決はほぼ１００％である。	A		・いじめを許さない心の育成と集団作りに力を入れる。また、生徒会が主体として取り組む活	
	ボランティアへの積極的参加	・ボランティア活動参加を積極的にできない情勢であった。しかし、社会福祉協議会から依頼のあった医療用ガウン作りやポスター制作にはほとんどの生徒が積極的に行った。	A		・地域学校協働活動コーディネーターや学校運営協議委員と連携し、活動を推進する。	
	月２冊以上の読書　朝読書の充実	・２冊以上の読書は３４％。朝読書の時間には静かに読書をする習慣が定着している。しかし、それ以外の時間に自ら本を読もうとするまでにはいたっていない。	C		・図書館の活用や全校読書の工夫などを通して、活字に慣れ親しむ姿勢を育てる。	
健康な心身の育成 健康な生活リズムの確立 自己管理の定着 食育の推進 部活動の充実 克服体験行事の充実	夜11時までに寝る生徒が80%	・できたと答えた生徒は６０％。帰宅してからの時間の使い方を見直し、基本的生活習慣の改善が必要である。	B	A	・基本的生活習慣について保護者ときめ細かに連携し、改善に努める。	・就寝時間が遅いのはスマホ利用と関係があり、スマホの使うルールを自主的に設定できるようにする。 ・「学校が楽しい」というのは、学校が充実しているということだと、新学期に生徒に伝えるべきだ。 ・チャレンジウォークなどは地域資源を探索して回るウォーキングとし、保護者の参画を募るとよい。
	給食の完食　90%	・給食の残食はクラスによる差がある。野菜の積極的摂取が今後の課題である。	B		・食を通した体作りについて学ぶ機会を作るなど、食育指導の充実を図る。	
	部活動が充実していると感じる生徒が90%以上	・８９％の生徒が充実していたと回答。保護者も子どもの姿勢が積極的だったと評価しているのは９６％以上。	A		・部活動に対する生徒の意欲と充実感が継続するよう、効率的な指導を行う。	
	ﾁｬﾚﾝｼﾞｳｫｰｸ、10km ﾛｰﾄﾞﾚｰｽの達成感９０％以上	・チャレンジウォーク、ﾛｰﾄﾞﾚｰｽの充実感は９２％であった。どちらの行事も全生徒が制覇した。	A		・地域を探訪する活動へと切り替え、地域の人材や保護者と協働し、充実した取組を行う。	
	「学校に来るのが楽しい」と感じる生徒が　９０％以上	・学校へ来ることがが楽しいと感じた生徒は、８８％。	A		・充実感や達成感のもてる教育活動の展開と、丁寧なかかわりを継続し、安心感ある学校生活への支援	
保護者・地域とともにある学校の創造 地域との連携の強化 学校開放日の設定 積極的な情報発信 安心安全の学校 学校評価の充実	学校運営協議会・地域学校協働本部の活性化と連携強化	・学校運営協議会は３回開催。地域学校協働活動本部を設置し、コーディネーターの週一回の勤務により地域とのつながりができた。	A	A	・地域の方々に協力を得て、つながりのもてる具体的活動を進める。	・学校だよりにより、地域との協働活動が発信され、地域に広まったと感じる。 ・地域学校協働活動本部が中学校に設置紗れ、地域とのつながりが感じられるようになった。 ・学校ボランティア登録者に学校行事への招待をするとよい。
	行事における保護者や地域の方の参画	・コロナ禍での行事の持ち方を工夫し、その中で保護者や地域の方の参加を募ることとなった。	A		・地域学校協働活動とPTAと連携し、保護者や地域の方々の学校への参画を推進する。	
	「学校だより」「学年だより」の毎月発行　HPやﾒｰﾙ等での情報発信	・「学校・学年だより」はほぼ毎月発行し、９１％の保護者が学校のことがよく理解できると回答した。	A		・学校の状況を丁寧に発信できるよう、継続して実施する。	
	年間２回の学校評価（保護者・生徒アンケート）実施と結果公表	・４、５月が臨時休校であったため、１２月のみ実施した。結果を3学期の教育活動の改善に役立てた。	A		・保護者・生徒アンケートを実施し、保護者と生徒の思いを真摯に受け止め、きめ細かに対応	
	保護者対象「いじめ点検」を月１回実施	・保護者対象の点検を３回実施した。緊急性のあるものについては、即時に面談し解決を図ることができた。	B		・日々の生徒の状況を確実に把握するため、保護者との連携を深め、継続的に取り組む。	
小中一貫教育の推進 キャリア教育・学力向上を軸にした取組 小中合同授業研究の実施	「夢カード」を学校生活向上に繋げる効果的活用	・今まで中学校区全体で実施していた「夢カード」の見直しを図った。キャリアパスポートとの関連性を持たせて作成したものを、来年度から活用の予定であ	B	B	・本年度に見直しを図った夢カードを活用し、自分の夢や目標の実現に向けたかかわりを小中	・小中一貫教育の中で、スマホを持たせないように保護者が連携することはできないか。 ・小中学校の交流を増やしてやってほしい。 ・夢カードの活用について具体的に教えて
	小中学校のつながりを大切にした学習指導と生活指導	・中学校への入学を節目とすることと、小学校からの連続性を重視することの両面を大切にした学習指導と生活指導に努めた。	B		・小中学校の指導のつながりと学びのつながりを意識した教育活動の展開を行う。	
	事前研究・合同授業研究会への意欲的な参加	・コロナ禍にあり、合同授業研究が開催できなかったが、小中一貫教育の目指すこととその取組について見直しを図ることができた。	B		・目指すマキノの子ども像を共有し、道徳教育を柱とした小中一貫教育を取り組む。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・コロナ禍であったこともあり、本来行う学校行事ができずに、生徒たちにはかわいそうな一年であったが、チャレンジウォークやロードレースなどの学校行事が実施できて良かった。楽しいだけの行事ではなく、辛いことを乗り越えるようなことは中学時代に必要である。 ・思春期となり、複雑な思いを抱える生徒もいる。逃げられる場所があり、話せる先生や友達にいてもらいたい。きめ細かな見守りをお願いしたい。 ・ほとんどの生徒を見ることができずに、一年間が経ってしまった。来年度は学校運営協議会が教職員やPTAと話す機会を設け、生徒の現状や保護者の希望を話し合えるとよい。また、生徒会役員からも話を聞いて、皆の思いが共有できるようになればよいと思う。 ・地域学校協働本部が中学校に設置され、地域と学校が繋がれる第一歩となった。来年度は具体的な協働活動が進み、活性化させていきたい。	A	・新学習指導要領の全面実施に際し、「生きる力」の向上を目指して全教科において授業改善に取り組む。タブレットを活用し、効果的な課題解決学習を行い、学力の向上を目指す。 ・学校運営協議会と地域学校協働本部との連携を充実させ、地域の方々とのつながりある取組を教育活動に組み入れる。 ・マキノ中学校区の小中一貫教育の取組の一つとして、それぞれの学校運営協議委員が一堂に会し交流会を行う。このことにより、さらにつながりの輪が大きくなると思われる。 ・基本的生活習慣を見直し、規則正しい生活ができるよう、PTA活動の取組を工夫することにより、家庭学習の定着を目指す。 ・生徒の心の育成につながる道徳教育の充実を図る計画を立てている。研究を進めるにあたり、学校運営協議会委員や地域学校協働本部コーディネーターや地域ボランティアの方々にも参画を依頼する。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式Ｉ）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津東小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
心身共に健全で 創造性豊かな子の育成	＜Ｒ１学校評価（自己評価）＞ （児童）「勉強がわかりできる」の割合82%　学校が楽しい77% （教員）わかる授業94%、ICTを活用した授業74%、 問題行動の早期発見84% （保護者）いじめ問題への取組81%、早寝早起き朝ごはん86% （学運協）学校教育目標は地域の中に浸透しているとは言えないので、広報や発信に努めること。	＜中期的目標（R2～R4)＞ 〇言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。 〇成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり 〇すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
（かんがえ） 基礎学力の定着と読み解く力の育成	「勉強がわかり、できる」の児童の評価80%以上。	「勉強がわかり、できる」に対する児童の評価は、83%。「子どもがよく分かると思う授業をする」教員の評価は、94%。児童の評価は、到達目標に達している。	B	B	児童の評価については、職員会議で確認し合った。結果を真摯に受け止め、引き続き分かる授業づくりに心がける。	・先生方は、よくわかる授業づくりに努力されているのだろうが、それぞれの指導力に差があるのも事実である。研究授業は、指導力の向上を目指した取組に期待したい。 ・じっくりと答えを導き出す学習も大事に取り組んでほしい。 ・コロナ禍で家庭学習の重要さが再認識されたと思う。家庭学習に課題がある児童は、学習の遅れが出る傾向は否めない。そんな児童への援助にも気を配ってほしい。 ・国語力の向上は、他の教科でも基本となる。読書に親しむ工夫が欲しい。
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施。	「読み解く力」の育成に特化した職員研修は実施できていない。グループ学習は、コロナ禍の影響から回避する時期が多く、十分な取組となっていない。	C		「読み解く力」授業づくり研修の参加者の報告書をもとに職員研修を行い、共通理解・共通実践ができるようにする。	
	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合90%以上。	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合は88%とほぼ目標に近い結果であった。タブレットの使用頻度は高く、教職員用はいつもすべてが使用中となっている。	A		タブレットの増設は今年度中に行われる。効果的な活用が図れるよう、引き続きOJT研修を進めていく。	
（おもいやり） 自他を愛する豊かな心の育成	「学校に来るのが楽しい」の児童の評価85%以上。	いじめアンケートや教育相談期間による面談など、個々の児童の気持ちに寄り添う指導を大事にしてきた。「学校に来るのが楽しい」に対する児童の評価は、80%で昨年をやや上回ったが、到達目標には届かなかった。	B	B	①個別のみとり②安心安全な学校・集団づくりを取組の柱として、子どもたちの心情に寄りそった指導を継続していく。	・コロナ禍で学校へ行きたいと思う児童がもう少し上回ってもおかしくないと感じる中、到達目標に届いていないのは残念である。 ・いじめ問題への取組に対する保護者の評価が53%と低いのに驚いた。学校の取組を紹介する広報活動などで、教員一人ひとりのいじめに対する思いを伝えていただくことを提案する。 ・校内人権の日の教員メッセージは良い取組だ。身の回りの具体的事例から人権について考えることは大事である。
	校内人権の日に、教員が交代で人権啓発のメッセージを伝える。	人権教育主任が作成した原稿をもとに、毎月の校内人権の日に、教員が交代でメッセージを伝えてきた。放送を聞いた後に、学級指導を行い、児童の実態に応じた説話を担任が行っている。	B		人権にかかわる身近な話題から、児童が生活や自分自身を振り返るよい機会となっている。継続的に取り組みたい。	
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価85%以上。	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」に対する保護者の評価は、53%。ただし、「わからない」という回答が37%であり、学校の取組が保護者に上手く伝えられていないことが分かった。	B		学校の取組が分かるような広報活動とともに、保護者や子どもの相談に真摯に応えられるようにしていくことが肝要である。	
（たくましい子） 体力・気力を培う活動の推進	「すこやかタイムをはじめ、教育活動全般で体力づくりを図る」の教職員の自己評価90%以上。	教職員の自己評価は、96%と高かった。コロナ禍の合間に運動会とマラソン大会が設定でき、自己目標を持たせて取り組めた。	A	A	コロナ禍の中で、みんなで運動できる楽しさを感じながら取り組めたことが高評価につながっている。	・コロナ禍ではあるが、目標を達成するため、今津東小独自の事例集を作成する必要があるのではないか。 運動好きな子が多いと感じる。マラソン大会も歩いている子を見なかった。 ・人間成長の一つの要素は習慣になることだと思う。健康で安全な生活のため、手洗い、早寝早起き、朝ごはんなどの習慣化への取組が欲しい。
	健康で安全な生活を意識させる指導の工夫。	フッ化物洗口（１～4年生で実施）は対象人数が増えたが、工夫して取り組めた。コロナ禍の中で、感染予防のさまざまな手立てや啓発・指導に教職員一丸となって取り組んできた。	A		コロナ対応の取組は、引き続き継続させる必要がある。避難訓練は全員が集まることが難しいなら、分散開催なども考えたい。	
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上。	コロナ禍のために、今年は縦割り活動や学年での交流や学習を取りやめてきた。従って、本指標に係る評価は実施できない。				
地域とともにある学校	地域学習を年間計画に位置付け、各学年とも年１回以上実施。	年間計画への位置付けはできていたが、コロナ禍のために、地域に出かけたりゲストティーチャーを迎えることは控えてきたため、本指標についても評価は実施できない。		B		・「地域とともに」が難しくはあるが、コロナ禍ではどんどん離れていってしまう懸念があるので、工夫が必要。 ・はなまる広場の力を借りて、学校の課題はある程度は解消できるが、地域とともにある学校として、今度は学校が地域とともに歩む姿勢が何より大切だろう。そのためにも、地域の課題や関心、困りごとを整理する必要がある。
	学校運営協議会の熟議を経た意見について、「具体的な改善が見られた」との意見を全委員からもらえる。	「コロナ禍での学校の様子や児童の実態をありのままに発信する」ことは学校だより等で続けてきた。「学校の見える化をどう進めていくか」は、課題として残されている。	B		学校運営協議会での熟議を経た意見を具現化すべく、はなまる広場等の支援を受け、より一層地域とのつながりを深めていく。	
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくり。	コロナ禍ではあったが、今津中学校区において、統一研修日を設け、部会別研修や共同授業研究等の教員研修を実施した。	B	B	成果と課題を明らかにしながら、中学校へのつなぎを意識した指導内容の確認や授業改善が図れるようにしていく。	・コロナ禍での研究推進の方法を早急に考えていくべきである。 ・中学校へのつなぎの取組は良いことだと思う。
	小中学校の児童生徒の交流の促進。	コロナ禍ではあったが、小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、中学校での部活体験や「ようこそ先輩事業」を行った。	B		11月中旬に実施した部活体験は、時期もよく児童の感想も高評価であったので、事業の継続をめざしたい。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇全体的に、コロナ禍のため教師と児童、学校と保護者や地域の意思疎通が希薄になっていると思う。広報やメール配信などをこまめに行い、もっとオープンに学校の様子を知らせていく必要があると感じる。 〇学校のいじめ対応をもっと周知する努力が必要。アンケート以外に、学校が何に取り組んでいるのかを広報していくべきである。 〇学校の思いと学校運営協議会委員の思いが合致しているかと言えば、今年はコロナ禍の中、なかなかそうはいかなかった。地域学校協働活動も停滞してしまった。しかし、コロナ禍を逃げ口上にしてはいけない。それでもできることを、学校と学校運営協議会が一緒に知恵を出し合って考えていこう。 〇「地域とともにある」とはどういうことか。学校が支援をもらうことにとどまらず、地域と一緒に活動できることが大事である。学校行事は、保護者や学校運営協議会委員のほかにも、ミシンや読み聞かせなどのボランティアとして関わって下さっている方にも参加してもらうような働きかけが大事である。また、学校運営協議会を通して、地域の様々な声が届けられるよう、委員は地域の声を吸い上げてくるような仕組みになるとよい。	B	〇校内研究会の授業研究会はコロナ禍で学年部でしか集まれなかったが、教職員の指導力向上に寄与する内容で行うべきとの指摘を受け、次年度も国語科を窓口に内容や方法を工夫して、闊達な研究や切磋琢磨ができるように心がけたい。 〇タブレットを使った授業やプログラミング教育、ICT教育の現状については、授業参観や授業公開日を設けて、保護者や地域の方に知ってもらうことが理解を深めることになる。学校運営協議会でも、引き続き参観の機会を設けたい。 〇いじめ問題への対処は、引き続き早期発見、早期対応に努めるとともに、学校の取組や「いじめを許さない」決意等を保護者や地域の方に周知する方法を工夫していきたい。また、学校運営協議会やPTAの会議でも話題になるように努めたい。 〇学校運営協議会では、「地域とともにある学校」を熟議題として学校が果たす役割を議論してきた。はなまる広場を中心とした学校支援とともに、学校が地域にどうつながりまちづくりに関わっていけるのかさらに議論を深めできることを見つけたい。 〇コロナ禍での学校運営は今後も続く。コロナ禍だから「できない」「取りやめる」ばかりでなく、できるやり方を工夫することが求められている。学校に関係するすべての知恵を結集し、よりよい学校経営に努力したい。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式Ｉ）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津北小学校

学校教育目標	すすんで　やさしく　たくましく 人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成
昨年度の評価概要	・学校では、時代のニーズにあったことを教育課程に組み入れてやらなければならないが子どもが学びに向かう姿勢を育てる基本的なスタイルは崩すことなく取り組んでいただきたい。その中で学校でやるべきことと家庭でやるべきこととを様々な機会をとおして発信していくことが大事である。 ・親がわが子に関わるのと同様に、地域の大人が地域の子に適切に関わることが重要であり、地域全体で子育てを進めていくという認識を広めることで、豊かな心を育み、いじめをなくす取組にもつながっていくものと考えらえる。 ・地域と保護者の協力なしには今の学校を維持していくことは難しい状況にあることから、コミュニティスクールとしての在り方を地域にも発信をしていき、共に学校づくり、子育てを進めていくこととことが大切であろう。
中期目標	・学力の基礎基本の定着を図り、自分の考えたことを表現につなげる。 ・行事を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。 ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健･安全　指導の展開。 ・地域の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学びあう子の育成のための力点 ◎ 考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫 ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践 ◎ICTの活用 ・興味関心を抱かせ、思考につなぐ資料や考え方の提示 ・情報機器を使った調べ学習とまとめ、発表機会の設定	・「授業が分かる」と回答する児童 ・・・85%以上	2学期末で「1学期末よりよく分かるようになった」と答えた児童95%、保護者も93%で意欲的に学習に取り組んでいると答えている。また、高学年で「担任以外の先生から学ぶことが楽しい」92%となっている。	B	B	今後進んでいくであろう教科担任制を含め魅力ある授業づくりに進めるとともに。複数支援体制により基礎・基本の徹底を図る。	・学習への意欲は概ね伸びていると思えます。読書等読み解く力につながる課題は家庭にも協力していただくことでさらに期待できると思います。親も子も共に育つ時間を家庭学習と捉えて両者が共に達成感のある日々の提案が望まれます。 ・授業態度は学年により違いがあるが前向きに取り組もうとする様子は伺われる。授業が困難な時には保護者の支援も視野に入れては良いのではないか。繰り返しの学習などボランティアを休み時間に導入するとか地域に開かれた環境づくりも必要かなと思う。 ・学校はやはり「授業がわかること」が第1ですので９５%という数字は素晴らしいと思います。残り５%の児童に引き続き「わかった」を体験できる指導の継続をお願いします。家庭学習・読書はやはり家庭の協力も必要と思います。読書は貸し出し数など掲示されてはいかがでしょうか。 ・ＩＣＴの活用も含め様々な方法で子どもたちが興味を持つことができるようにまた理解しやすいように工夫されている授業が行われていると思う。
	・家庭学習時間の定着化 ・・・20分　（1，2年生） 10分×学年　（3年生以上）	家庭学習の時間は、以前より増えたと回答する児童４３%、保護者は５７%（１学期は４３%）であり、毎年課題に挙がっている項目であるが粘り強い取り組みが必要である。児童による個人差が大きい。	C		読書を含めて家庭学習の時間確保が本校の課題である。ゲーム等の時間の制約など家庭にも協力を依頼して取り組む必要がある。	
	・話し合いを取り入れた学習活動 主体的・対話的で、深い学びの実現 各教科で単元のまとめ等で随時実施	読み解く力をつけるため単元構想に力を入れて主体的に学ぶ授業に取り組んだ。コロナ禍の中での制約もあり話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりする活動は、まだ十分でない。	B		ふだんからペア学習やグループ学習の形態を取り入れた授業を進める。また、学級会等で問題解決や意見提案ができるよう指導する。	
	◎ICTを使った学習活動 ・情報機器の効果的な使い方について各教科の学習活動を通じて学ぶ。	タブレットが導入され、各学級とも積極的に活用ができている。次年度に予定をされている一人１台のタブレット導入に向けて教員の研修を進めて有効的に授業に活用をしていきたい。	A		今年度の各学年での授業実践をもとに、効果的な活用方法について情報交流をする。また、校内での研修会を持つ。	
◎いのち・人権を大切に ・「いのち」の大切さを全教科・領域を通じた指導 ・学級や縦割り活動における、好ましい人間関係づくり ◎いじめをなくそう ・日常生活の中で、「楽しい学校」について考えさせる。 ・人権集会を契機として自分たちからいじめをしない環境づくり	◎いのち・人権・思いやり ①やさしい言葉をかけられた経験 85%以上	今ずっとなかよし集会を２回実施した。友達と１学期より仲良くすごすごしていますか９７%となり、多くの児童はおもいやりをもって過ごせているが言葉遣いについてはまだ十分でないと考えている教員が多い。	B	B	職員で共通理解を進め、児童の呼び方や日ごろの話し方、言葉遣いなど意識することで人権を尊重する環境をつくる。全校を全職員で見守る意識を高める。	・学習に向かう姿勢は個人差があるがどの子に対しても意欲の持てる援助を行うことで培われるものと思う。子どもの発信する言葉、言葉づかい、表情などからくみ取ることができるので授業内外で対話を深めその子の思いに添える学校であってもらいたい。家庭との連携も大事で親の思い、子の思いの双方向の共有を深めてもらいたい。 ・ちょっとした出来事でも先生が訪問して連絡をしてもらえるので安心しています。定期的な個人面談等大変だと思いますが本人からというよりまわりから児童の様子がわかることもあると思います。最近少しずつ学校のことを話してくれる量が減ってきたので。 ・どういう言動がいじめになるのかまた周りからいじめと捉えられるのか個々の受け取りの差もあり今後さらに難しくなる課題かと思います。
	◎いじめのない学校づくり ①学校が楽しいと回答できる児童 90%以上	学校での生活が以前より楽しくなったかに対して児童は９３%、保護者は９２%が楽しくなったと答えているが、以前よりいじめは減ったかは５１%（児童）にとどまり、児童へ丁寧にかかわる必要がある。	B		いじめアンケートや教育相談を活用して個々の思いを聞き取る。休み時間や登下校の様子などにも注意を払い、気になる児童には言葉かけをしていく。	
	◎いじめのない学校づくり ②場にあったあいさつがしっかりとできる 85%以上	「元気にあいさつができていますか」は、児童は８５%、保護者は８２%となり、９０%を超えるように取り組む必要がある。朝のあいさつ運動は児童会が中心になり１年間継続して取り組めた。	B		児童会を中心に朝のあいさつ運動を来年度も継続して取り組む。社会科見学やバスの乗り降りなど機会をとらえてあいさつを意識的に実践する。	
健やかなからだづくりのための力点 ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備 ◎体力づくりの推進 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための保健指導を推進	◎児童の体力向上への意欲を高める 授業づくりや運動環境の工夫 ①外遊びをする子　　85%以上　②運動が好きと答える児童　95%以上	外で元気に遊ぶは、児童８６%、運動を好んですると答えた保護者は８０%である。児童は、休み時間等はよく外に出て運動をしている。	A	B	縄跳びやマラソン大会などで個人の目標を決めて取り組む工夫をする。マスクの着用やうがい、手洗いなどの意識を高めていく。	・体力づくりは良好に取り組まれているようである。 ・運動（体育や休み時間など）に関して積極的に取り組まれていると思います。ゲーム機は我が子に持たさなくても友達との関りがあるので難しいです。「持たせて我慢させる」様にしていきたいと思う。 ・3学期は特に「〇〇大会」と活動する機会も多いように感じ「北小の子は本当に運動好きなんやなあ」という印象でした。
	昼休みを利用した児童会の企画（なわとび大会やじゅんどろ大会）で体力増進の機会を設定	じゅんどろ大会は全校で楽しく取り組めた。なわとび大会もそれを目標に練習する児童の姿が多く冬場の体力づくりに役立っている。	B		読書や絵を描くことを好む児童もいるので、学級遊びの企画をして外遊びの楽しさも経験する機会を設定する。	
	「早寝・早起き・朝ごはん」の取組をすすめ、コロナ対策を含め、健康で規則正しい生活を目指す。	「10時までに就寝」は保護者92%ができていると回答。6年生になると79%になる。高学年ほど夜更かしの傾向が強い。また、マスクの着用、うがい手洗いの徹底等習慣化するよう指導を継続する。	B		ゲームやテレビ等の時間が多いので、毎日の過ごし方について保護者との連携をとっていく。3密にならないよう徹底する。	
地域とともにある学校 ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学ぶ場を創出する 小中一貫教育の推進 ◎発達段階に応じた学習規範の統一 ◎小中教員による授業づくり	学校運営協議会 ・学校と地域のつながりについて、場面や方法について協議し、地域の学校づくりを推進する。	学校運営協議会では、地域との結びつきを深める手立てやほかの地域のよい実践例などの紹介があり貴重な意見をいただける場となっている。コロナ禍での運動会の運営の方法やこれからの学校行事の見直し等の助言もさらにいただきたい。	B	B	今年度は、学校にボランティアさんを呼べずに今まで積み上げてきた部分が停滞をした。キャリア教育の観点からも年間計画に位置付け地域人材の活用をさらに図っていく。	・コロナ禍でもできるところから地域とのつながり、人とのつながりを模索してもらいたい。 ・小規模校なので地域との連携は大切ですが「自分の子」だけというご家庭も増えていると思います。ＰＴＡも含めどのような活動ができるのかまた考えていけたらと思います。 ・今年は本当に子どもたちにとっても学校に関わる方たちにとっても大変な1年でしたが行事等よく考えて実施していただけたと思います。
	小中合同による授業づくり・協働授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題にせまる。	小中一貫教育の日を学区内で設定し、２学級において授業公開を行い、小中一貫教育の推進を進めた。年度当初の全員研修会や部会研修が集まれず、部会での話し合いや課題の共有が十分できなかった。	B		15歳にどんな力をつけておくべきかをその姿を明確にして、学習規律を含め地域の児童生徒をどのように育てるのかの共通理解の場を持つ。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・教育の場が児童にとって厳しい状況の中であっても、地域の中で大きな役割を担い祭りや伝統行事を学校が支えて、繋いでくれている。もちろん学習面、いのち、人権の大切さ、健やかな身体づくりの取組も大きく評価できる。 ・これからも地域とともにある学校が更に多方面に発信アピールできるよう期待する。 ・保護者の信頼感もおおむね良好であるが満足感を持っていない保護者のニーズをつかんで手厚い支援を提供できるようにしてもらいたい。そのためには地域の力も必要かもしれないので連携を考えてもらいたい。個人情報の問題はあるが孤立を防ぐには情報の共有も時としては有りかと思う。日常的に子どもたちとの対話、やり取りを充分に進めてほしいと願います。 ・全部の先生が全校児童のことをよく見ていて下さるなと感謝しています。家庭学習や読書、いじめや地域の方とのかかわり方等大変なこともあると思いますがそれは学校内で完結できることではないのでこれからますます外部やＰＴＡの役割は大きいと思います。協力できることはできるだけしていきたいと考えています。 ・この1年間を通じて学習面だけでなく学校が日々の子どもたちのことを考え努力している姿が見られました。半面私も含め保護者との温度差を感じずにはいられません。言葉遣い、いじめ、あいさつ、自宅学習の時間等対象年齢の子どもたちはかわっても毎年課題としてあがる項目のように思います。保護者にもっと積極的にかかわっていただけるような発信も必要ではないかと思います。 ・	B	・長年の課題となっている家庭学習の充実や読書の習慣化を図るために、保護者に向けて成功事例やエピソードを積極的に紹介していく。また、ひびきあい活動やＰＴＡの研修計画の中に、この内容を取り入れて保護者の意識を高めていく。 ・朝のあいさつ運動を継続して、元気よくあいさつができる習慣をつける。学校、保護者、地域が協力して言葉遣いやどういう言動がいじめになるのか日頃から指導をして、子どもたちの人権意識を高めていく。 ・目標をもって運動できる機会を工夫して、運動が好きな子どもづくりを継続するとともに、自らの健康と安全にも気を配れるように、日頃の指導を徹底する。 ・コロナ禍の中であっても工夫して地域とつながる場面を考えていく。学校での生活や学習の様子を保護者や地域に知らせる工夫をして、学習だけでなく様々な場面で地域の方とふれあい、地域を愛する心情を培っていく。PTAや学校運営協議会から地域への呼びかけを行い、地域とともにある学校として全教職員が取組を推進する。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式1）

令和2年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成 【校訓】 真理の探究・正義の実践・平和の愛好	○学力の向上…C ・家庭学習を1日1時間以上している。（生徒32%） ・家庭学習の取組が定着している。（教職員22%） ○豊かな心づくり…B ・道徳の授業で生き方についてしっかり考えた。（生徒84%） ・道徳の授業を重視し、充実に努めた。（教職員96%） ○健康な心身の育成…B ・部活動を頑張った。（生徒73%） ・支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実を図った。（教職員91%） ○地域連携…B ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している（保護者77%） ・学校と地域が連携を取り、子どもの教育を進めている。（保護者73%）	○積極的に学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育む体験活動を実施する ○学友会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂範する教師集団づくり

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①よくわかる授業が行われている。	生徒アンケートで「学校の授業はわかりやすい」と答えた生徒→89% 保護者評価で「コンピュータなどを効果的に使いわかりやすい授業が行われている」と答えた保護者→80% 教職員評価で「ICTを活用してわかりやすい授業づくりができた」という教職員→71%	B	C	タブレット端末1人1台の環境が整備されたことから、その有効活用について校内研修等で研究を進めていく。	・家庭学習がしっかり定着してい ない状況がやはり気になる。 ・小中一貫教育において改善に向けた取り組みが必要である。 ・タブレット端末が1人1台になったので、日頃の授業で有効に活用し、情報活用能力の育成に努めてほしい。
	②授業中自ら学び話し合い活動ができる生徒を育成する	生徒アンケートで「グループ学習で自分の意見を言えている」と答えた生徒→83% 保護者評価で「グループ活動を効果的に使いわかりやすい授業が行われている」と答えた保護者→89% 教職員評価で「グループ活動を取り入れ、主体的・対話的で深い学びの授業改善に努めた」と答えた教職員→32%	B		新しい生活様式を踏まえた中で、ペア学習やグループ学習など話し合い活動の進め方について研究を進める。	
	③家庭学習が毎日1時間以上できる生徒を80%以上にする。	生徒アンケートで「毎日1時間以上学習している」と答えた生徒→45% 保護者評価で「家庭学習の課題は適切（宿題、自主学習）である」と答えた保護者→65% 教職員評価で「家庭学習の取組が定着できている」と答えた教職員→36%	D		引き続き家庭学習の意義を理解させ、宿題の出し方を研究したり、やり切らせる指導を工夫したりする。	
	④朝読書、朝学習が徹底されている。	生徒アンケートで「朝学習・朝読書にしっかり取り組めている」と答えた生徒→61% 教職員評価で「朝読書・朝学習の取組は定着している」と答えた教職員→64%	C		朝の会の運営と朝読書・朝学習の推進の両立のあり方を検討する必要がある。	
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことや生き方について考えた」と答えた生徒→86% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、充実に努めた」と答えた教職員→79%	B	B	考え、議論する道徳の授業のさらなる推進に向けて、発問の構成や自己内対話などを軸に授業実践を積み上げていく。	・道徳の授業が充実していることや、挨拶がしっかりできていること とは高く評価できる。今後もさら に成果を期待したい。 ・コロナ禍にあっては、今中祭の実施には苦慮されたと思うが、今後も新しい生活様式を踏まえ、その運営や内容等を生徒とともに考えてほしい。
	⑥集団を育成する行事を実施する。	今中祭など行事ごとの生徒の振り返りシートを見ると、達成感や充実感をもっているものと受け止められる。 教職員評価で「学級・学年の団結や活力を養うための行事が実施できた」と答えた教職員→36%	B		新しい生活様式の中で、体育祭や文化祭の運営について検討する必要がある。	
	⑦学友会活動を活性化する。	生徒アンケートで「学友会活動は活気があり進んで活動している」と答えた生徒→80% 保護者評価で「生徒が学友会活動に積極的に取り組めるように指導・支援が行われている」と答えた保護者→80% 教職員評価で「学友会の委員会活動の活性化が図られた」と答えた教職員→75%	B		日常的な委員会活動の活性化に向けて、課題を整理して上で、その方策を考える。	
	⑧挨拶がしっかりできている。	生徒アンケートで「朝、周りの人に気持ちよく挨拶をしていますか」と答えた生徒→87% 教職員評価で「元気な挨拶の習慣づけが実践されているか」と答えた教職員→61%	B		挨拶の励行については、一定の成果は見られる。教師側の評価は低いので、その意識を高めたい。	
健康な心身の育成	⑨学校が楽しいという生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒→88% 保護者評価で「日常生活の指導が丁寧になされている」と答えた保護者→87% 教職員評価で「支援が必要な生徒の情報を共有し支援の充実が図れている」と答えた教職員→83%	B	B	生徒が主体的に活動する場を工夫し、互いによさを認め合い、高め合える集団づくりに努める。	・学校が楽しいと肯定的に回答している割合が、約9割を示していることはとてもよい。また、昨年度と比較し、不登校の割合も減っていることは、日頃の先生方の取組の成果だと思う。 ・また、掃除や部活動への取組でも高い割合であり、そうした主体性をさらに伸ばしてほしい。
	⑪毎日の清掃がしっかりできる生徒を90%以上にする	生徒アンケートで「毎日の掃除にしっかり取り組めている」と答えた生徒→98% 教職員評価で「清掃指導の徹底と学校の環境美化が実践されている」と答えた教職員→71%	A		清掃活動は生徒の奉仕の精神を育む価値のある活動の一つとして大切にし、その活動の質を高める。	
	⑫校内駅伝マラソン・体育祭に参加する生徒を95%以上にする。	新型コロナウイルス感染症の影響により、駅伝・マラソン大会は中止とした。また、体育祭については文化祭とセットで実施し、全校ダンスのみを行った。	—		新型コロナの感染状況を鑑み、実施の可否や内容等については、生徒の健康、安全・安心の確保を最優先にして、検討する。	
	⑬部活動が充実している。	生徒アンケートで「部活動に休まずに参加している」と答えた生徒→86% 保護者評価で「部活動が効果的に運営されている」と答えた保護者→78% 教職員評価で「部活動の取組・運営は充実している」と答えた教職員→71%	B		部活動は自主性や連帯感、社会性を育む意義のある活動であり、限られた時間の中で効果が上がるよう取り組んでいく。	
地域連携	⑭サポーター会や地域の団体との連携を進める。	保護者評価で「PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者→75% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体との連携は機能している」と答えた教職員→50%	C	C	サポーター会や地域の諸団体と積極的に連携し、学校と関わっていただける人口を増やす。	・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、PTAや地域との協働は当初の計画どおりに進まなかったのはやむを得ないと思う。 ・今後は感染状況を見ながら、どのような形で展開できるかを模索いただきたい。
	⑮地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「授業参観や懇談会の機会は適切に設定されている」と答えた保護者→62% 「学校と家庭が連携をとり子どもの教育を進めている」と答えた保護者→77% 教職員評価で「PTA活動は学校の教育活動と連携して取り組んでいる」と答えた教職員→60%	B		新型コロナウイルス感染状況を踏まえて、授業や行事において家庭や地域の方と協働する機会を設定していく。	
	⑯生徒の地域活動への参加を推進する	生徒アンケートで「地域の活動に参加したことがある」と答えた生徒→42% 教職員評価で「生徒の地域行事への主体的な参画が推進できた」と答えた教職員→43%	D		新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、地域でのボランティア活動に取り組める機会を提供していく。	
	⑰保護者の学校に対する満足度を80%以上にする。	保護者評価で「学校はいろいろな相談をしやすい雰囲気である」と答えた保護者→78% 「学校や学級からの通信や案内は適切に配布されている」と答えた保護者→90% 「いじめなどの問題が起こらないように生活環境に配慮している」と答えた保護者→83%	B		学校の様子などを積極的に情報発信するとともに、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、学校運営に苦慮されたと思う。特に、コロナ禍におけるストレスを抱えた生徒への支援、新しい生活様式の実践、感染状況を見た上での学校行事の実施の可否や変更、臨時休業による授業時数の確保など多岐にわたる対応は、大変だったと推察する。 ・そうした中、上記17項目の評価を見せてもらって、学校としてはよくやってもらったと思っている。また、生徒や保護者の評価から一定の成果が認められ、感謝申し上げたい。なお、評価の数字を見た時に、先生方の評価が総体的に低いのは、思うように教育活動が推進できなかったとの事実を反映した数字と受け止めている。 ・また、中学校では次年度は新学習指導要領の完全実施と聞いている。その趣旨や内容等を踏まえた教育実践をお願いしたい。 ・今後もコロナ禍は続くと思われるので、そうした中、先生方は様々な視点から知恵を出し合い、これまでとは違った方法や内容を模索していただきたい。また、その際、当委員会やサポーター会として協力できることがあれが、遠慮なく申し出てもらいたい。	B	◎「新しい生活様式」に基づく学校運営について ・次年度もコロナ禍が続くことが予想される。今年度の取組を基盤にして、全体で知恵を出し合い、確認しながら学校運営に努めたい。また、つねに生徒の健康、安心・安全の確保を最優先に考え、授業内容や学校行事等の在り方を模索していきたい。 ◎学習指導要領全面実施に向けて ・基礎基本の定着、思考力・判断力・表現力の育成、「主体的・対話的で深い学び」などの実現に向けて授業改善を図りたい。 ・タブレット端末（1人1台）の効果的な活用は喫緊の課題である。全体での研修を深め、共通した実践につなげていきたい。 ◎「地域とともにある学校」づくりに向けて ・今年度、PTAからは教室の消毒作業やトイレ掃除などで助力いただき、物理的にも精神的にもありがたかった。 ・次年度以降も、外部人材の活用を積極的に進めていきたい。そのために、機会をとらえて様々な情報の発信に努めていきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

（様式１）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校教育目標	『心身ともにたくましく、ふる里を愛する人間性豊かな　子どもの育成』 なかよく　たっしゃで　きばる子 （共生）　（自立）　（創造） 徳　体　知

昨年度の評価概要	学校関係者評価　A 学校教育目標を目指して、学力・心・生きる力の育成を図り、学校・保護者・地域が一体となって児童の育ちの保障をしていく積極的な取組がとてもよい。 少人数での小中一貫教育ゆえに、教員が一丸となって機動的・能動的に対応し成果を上げている。知恵と工夫の結果と思う。児童数・世帯数減少の中で、保幼小中の連携はとてもよい。様々な場面で相互交流があることで就学や進学の際に不安が減っていると感じる。朽木ならでは、少人数ならではのよさを子どもと共に保護者も感じ、地域の中の学校という意識がさらに定着してほしい。 園から小学校の滑らかな接続の部分において、「気づき・考え・行動する力」が繋がり、さらに積み上がることを願う。今後も小規模校のメリットを生かし、いずれ経験する大集団の中でも自信をもって自己を表現できるように、思考力とコミュニケーション力をつけて欲しい。

中期的目標	1. 地域とともにある学校を目指す ＋『夢』『志』をもって学び合う学校づくりを推進する ・中学校区保幼小中一貫教育7年目　・コミュニティースクール3年目 ・スポーツデー開催＆朽木文化祭参加　・学習発表会の開催 2. 授業改善・指導力を向上し、新学習指導要領につなぐ ・道徳・外国語・ICT機器活用・学び合いに重点を置いた授業改善・授業研究 ・地区でキャリア教育に取り組み、「くっつき愛シート」を全学年つないで実施 3. 「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与えて、プレゼン力の伸長を促進（コミュニケーション力の育成）

	評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
なかよく（徳）	**①仲間・集団づくり** ・心に響く道徳授業 ・いじめを許さない学校づくり ・特別活動・縦割活動の工夫	保護者への道徳授業公開　（各学年 2回以上／年間） 小中学校で水曜2校時を「道徳」の時間として、計画通り進める	コロナ禍で学習参観を見合わせていたため、道徳参観は3学期に1回実施。 各学年のカリキュラムに基づき、心をはぐくむ道徳授業を展開（毎水曜日）。	B	A	小中で道徳授業を水曜の午前の時間割に位置付けて参観しやすいようにしたが課題が多い。合同授業研で行うのも一案。保護者参観は継続。児童発表の場を複数回持てるよう工夫する。	○仲間と共に学び、仲間や地域と共に朽木を愛し、生きる力を養う取組ができている。いじめの基となる自分にされて嫌なことは誰に対してもしないことを感じ守れている。道徳に関する学び、朽木の子ならではの学びをこれからも深めていけるとよい。 ○学習発表会は、非常に工夫された運営で、イベントの要素もあり、特に児童の成長を段階的に見られたのがよい。今後の委員の方の活動の参考になるのではないか。児童に聞くところでは、いじめは気振りにも感じない。今後も取組を望む。 ○次年度は、新旭養護学校の居住地交流の実現を願う。西小学校との交流のように、リモートを含めて検討してほしい。コロナ禍で制限がある中、内容が縮小しても実施された活動もあり、子どもたちにも工夫が伝わっていたように思う。
		児童集会での個人発表機会　（1回／年間）	一堂に会しての児童集会は実施していないが、始業式・終業式後の「みんなの広場」（Zoomにて実施）において、年間1回の個人発表実施（100%）。	A			
	②共生する力・生き方学習継続 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林・田んぼ・自然体験活動 ・他校との交流活動の実施	(低学年)稚鮎放流・川に学ぶ学習・町探検（中学年)・森林学習 ・どんぐりプロジェクト（高学年)朽木サイクリング　米作り	コロナ禍のもと、各学年部とも内容を工夫して実施（100%）。 各種団体・地域連携や保護者ボランティアの協力を得て実施。	B		地域の自然や地域人材との連携により、朽木ならではのふるさと学習を充実させ継続する。学習発表の場を例年3学期に設定し、児童のプレゼン能力・発表力を伸ばす場とする。	
		キャリア教育に繋ぐ学習発表機会（1回／年間 3学期実施）	感染リスクを避けるため、全校が一堂に会することはできなかったが、各学年1年間の学びを保護者の前で発表（2/12学校開放日として開催）。	A			
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携)　（各学年1単元／年間）	社会福祉協議会と連携を図り、充実した学習ができた（100%）。 1年入門 2・3年聴覚障害 4・6年高齢者 5年ボランティア	A		「学校いじめ防止基本方針」の見直し・改訂（11月）を行ったが、次年度以降も随時見直しを行い取組を充実させていく。子どもの立場に立った支援・相談体制と各種機関との連携を一層図る。	
		学級づくり　アンケート「いじめ許さない」意識（100%） 「いじめゼロ」児童集会・意見発表（毎学期）	「いじめ・いじわるをしないようにしている」（児童98%） いじめ防止の内容を含めた学級目標の発表と振り返りを実施（100%）。	A			
たっしゃで（体）	**④命を大事にする環境づくり** ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・ｱﾝｹｰﾄ等調査結果の活用	『命の授業』2・4・6年 『ストップいじめ講話』高学年（1回／年)	計画に従って実施。感染症対策の徹底により、健康・安全への意識は高まっている。「健康や安全確保を考慮した教育活動展開」（保護者92%）	B	B	校外活動中の事故の反省を生かし、チェックリストを使い、十分な安全対策を講じながら教育活動を行う。各種調査記述内容に即応した聞き取り面談・対応を、引き続き適宜実施していく。	○朽木ならではの保幼小中一貫教育の中で、なめらかな接続が期待できる。新学習指導要領に基づき、スタートカリキュラムの作成ができるとよいのではないか。校外活動においても、事前体験学習を十分に行い、やめることなく継続されたい。 ○「できること」の目標を持たせ、プロセスを身に付けさせ、「できた」喜びを感じさせられている。できたことを話す児童の顔を見るのが嬉しい。 ○朽木一周サイクリングの安全対策マニュアルを今後しっかり引き継いで、すべてのことへ活かしてほしい。保護者や地域との協力をより強めて、子どもたちのために動いていってほしい。
		「学校が楽しい」と思う児童　（100%） アンケート調査結果活用　結果即指導対応ケース会議　随時	「学校は楽しい」（児童90%）　いじめアンケート等の活用や教育相談週間・ケース会議の取組により、児童個々に応じた受け止めや対応ができた。	B			
	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の 工夫実施・中学校区取組（100%）	9年目取組としてシートを改訂工夫して実施。回収率100%。 今年から保幼小中一貫教育の一環として朽木こども園も取組に参加。	A		今後も中学校定期考査の時期と合わせたノーメディアの取組とする。内容がマンネリ化しないよう内容を検討。栄養教諭による食育指導は、学活、保健、家庭科等の一環として今後も継続。	
		栄養教諭による食育指導　（各学年 100%）	給食の食材生産者にも来ていただき、担当栄養教諭とのTT指導により全学年で実施（100%）。6年生は養護教諭も入ってのTT指導。	B			
	⑥体力向上策の継続 ・『健やかタイム』の充実 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	スポーツデーに代わる秋季運動会の開催（9月末平日開催） 放課後健やかタイムの実施　（3回／週）	9月30日の平日に小学校単独開催。感染リスクを避けるための時間短縮や種目の工夫で実施。健やかタイムはコロナ禍のため実施できなかった。	A		コロナ禍での取組成果と課題を整理し、児童の思いを中心に据えながら、保護者・地域とともによいものを構築していく。健やかタイムを見直し、「できる」技が増える喜びを感じさせたい。	
		鉄棒・一輪車・縄跳び・竹馬遊び等の技を増やす児童（100%）	「みんな遊び」を児童自らが相談して計画し、楽しく実施。 逆上がり・竹馬・一輪車等できる種目を増やそうと積極的に取り組めた。	B			
きばる（知）	**⑦学力向上のための授業改善** ・「学び合い」授業の追究 ・課題解決的な学習の確立 ・高学年一部教科担任制	「授業が楽しい」「勉強がわかる」児童（100%）	「勉強は楽しい」（児童88%）　「勉強はよくわかる」（児童96%） 「個に応じた学習指導に努め学ぶ楽しさを味わわせている」（保護者86%）	B	B	少人数ならではの良さを生かすとともに、ICT機器の効果的活用による個別最適化の授業とカリキュラムマネジメントを進めていく。各種調査結果を丁寧に分析し、授業改善に生かしていく。	○市内先進校として、ICT機器タブレットを活用した意欲的な学習ができている。学習発表会においても、1年から6年生まで毎年の学習の積み上げをとても感じることができ、一人ひとりの学びが確かなものになっていることはすばらしい。 ○コロナ禍が理由なのか、自主学習への取組率の低下が気がかりなので指導をお願いしたい。 ○道徳授業参観では、先生が誘導することなく子どもたちの意見をそのまま出して共有し合えるとよいと思った。意見を出しやすい雰囲気は感じられた。
		学力調査・確認テスト結果活用	学力調査問題（6年生）と「学びの基礎チャレンジ」（4～6年生）の実施結果を、授業改善を中心に学ぶ力向上対策に生かしている。	B			
	⑧指導方法の工夫 ・ICT機器活用授業 ・外国語活動・道徳指導の工夫 ・朝学習の充実（漢検等）	ICT機器等を活用した授業　（毎日） 朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着	教科・学習活動や学年に応じて毎日効果的にタブレットを活用（100%）。 火曜朝学習の全学年漢字検定(10～1級→初段～10段)で学習意欲向上。	A		市内先進校としてICT機器タブレット等を活用した教育活動の充実に向け、更に実践を蓄積する。漢字検定は、学習意欲の向上につながり、成果も出てきているので継続していく。	
		外国語活動・道徳授業（毎週水曜日2校時実施）の充実	ALTとの外国語科・外国語活動は内容が充実。「道徳授業などで、相手の気持ちを考える、ルールを守るなどを一生懸命考えた」（児童94%）	A			
	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書朝学習補習授業BUT ・図書貸出冊数増(図書ｻﾛﾝ活用)	家庭学習時間10分～15分×学年　（95%以上）	「宿題や自主学習に進んで取り組んでいる」（児童81%） 「進んで家庭学習に取り組んだ」（保護者71%）	B		図書サロンの本の貸出は、コロナ対策で個々の児童対象から学級全体への貸し出しに変更された。そのため、個々の児童への貸出冊数が把握できなくなったため、今後取組指標を再考する。	
		読書量の増加（1・2年）180冊／年（3年)120冊／年 （4年)100冊／年　（5・6年）80冊／年 以上	「学校や家で進んで本を読みました」（児童88%　保護者74%）。週3日朝読書に取り組み、落ち着いた雰囲気の中で学校生活をスタートしている。	B			
チーム学校	**⑩地域とともに・繋がり響きあう学校** ・コミュニティースクール3年目 ・学校情報提供・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	・学校運営協議会・地域学校協働本部との連携 ・各種広報 学校だより月2回、保健だより月1回、小中一貫通信学期1回 メール配信　毎週土曜日(次週予定)　HP随時更新	・朽木地区学運協・地域学校協働本部3年目。 学運協で地区内の課題について意見交流。 協働活動はコロナ禍の制約がありながらも活動を工夫して実施。 ・各種広報については目標回数をクリアしながら発行。	B	B	コミュニティースクール4年目に向け、学校や地域の課題を関係者で共通理解し、その解決に向けての方向性を見出していく。コロナ禍でもできる地域学校協働活動を構築していきたい。	○コロナ禍ではあるが、地域学校協働活動としていろんな発信をしていただき、子どもとふれあうことができている。 ○面談に大きな制約があり、目標不達は仕方ない。 ○コロナ禍でも朽木では可能なことを積極的に考えていってほしい。

学校関係者評価	総　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○コロナ禍ではあるが、できる範囲の中で地域と共につながり、響き合う学校づくりの活動ができるように取り組んでいかれたい。児童の生きる力「自ら学び、考え、判断して行動する」力を養い続け、学校の学びが社会に出てからも生かしていける土台として、積み重ね培っていかれたい。少人数ならではの教育の良さを積み重ね、地域の中の学校が、児童が輝くように、今後も期待できる。 ○学校訪問の機会が激減し、成果のチェック、評価が非常に難しい。このような中でも、登校見守りで児童の成長を見るなど、感動することはたくさんありました。臨時休校時には、聞いた児童全員から「学校に行きたい。」と返事があった。保護者の方からは、「本当に先生方には感謝します。」と聞いています。危機の中での先生方の働きに深く感謝いたします。創意・工夫・即実行のたまものです。 ○一保護者として、発表の場、伝える場の多さを実感している。少人数ならではの良さだと感じている。これからますます児童数、家族数（PTA会員数）の減少が見込まれるため、「地域と共につながり響き合う学校」を子どもたち自身、保護者自身が本当に実感できるくらいになるまで取り組まなければならないと思う。	A	・近年の児童数減少に伴い、PTA会員数も減り、これまでと同じような学校行事やPTA活動を実施していくことが難しくなってくる。学校は、これまで以上に保護者や地域との連携を深め、保護者や地域を巻き込んで楽しみながら関わってもらえる取組にしていくことが必要。そのためにも、「結の会」を中心とした地域学校協働活動のさらなる充実を目指すこと。 ・保幼小中一貫教育について、こども園から小学校、そして中学校へとつないでいく取組や回数を増やしていく。その結果、何らかの変化がみられるとよいので、しっかり検証を行い、朽木独自の保幼小中一貫教育を推進していくこと。 ・ICTの活用が進む中でも、児童が実際に触れて、聞いて、身体で感じる学びも大切にすること。また、タブレット端末の利用に際しては、視覚への影響に配慮した指導を徹底し、児童の健康が守られるよう留意すること。 ・朽木地区の森林体験はじめ森林資源を生かした教育活動を大切に継承・発展していくこと。 ・朽木ならではの、手厚くきめ細かく指導できる良さを生かして、児童一人ひとりの思いを把握しながら、相談や支援をしていくこと。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式Ｉ）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木西小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
針畑を愛し 心身ともにたくましく生きる 心豊かな子どもの育成 〇明るく健康な子どもの育成 〇深く考えやりぬく子どもの育成 〇心豊かな子どもの育成	〇子どもの数が少ないこと、家庭環境と育ちの過程が様々であることは西小の特徴で、それが学校運営にとって難しいことだと思われる。しかし、話し合う場を重ねることが出来れば、それは小規模校としての利点である。多様な価値観を調整し、来年度は更に課題の解決に向けて前進して頂きたい。 〇「チーム西小」の体制構築について。教職員については、一教育者、一人間として、保護者や地域住民と心を開いてコミュニケーションをとって欲しい。組織的壁や事なかれ主義を感じる。保護者、地域住民は、節度と良識を持って教職員との話し合いに臨む姿勢が大切である。小規模な地域だけに、できるだけオープンな場作りが必要（子どもと大人共に）。 〇運動会、文化祭、感謝祭どれもすべて素晴らしく、先生方の取組には敬意を表す。 〇どの子どもたちも、学年以上の力がついている。子どもたちの生き生きとした活動が、針畑地域の元気の源となる。今後も、地域の人々をまき込んだ学校経営に尽力を。	針畑で学び取った力を生かして自らの志を達成するとともに、学んだことを地域や社会のために役立てようと行動する人の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
〇 明るく健康な子どもの育成 １．適切な言葉遣いの習慣化 ２．体力の向上 ３．安全・健康への自己管理 ４．自主的・実践的態度の育成 ５．防災・安全教育の推進	①ＴＰＯに応じた挨拶、言葉遣いの定着を図る。（朝、帰り、来客時）【毎学期末評価】	登校時や下校時には、大きな声で元気な挨拶ができている。目上の人に対する言葉遣いだけでなく、友達に対する言葉遣いが乱れることがある。	B	B	家庭とも連携し、ＴＰＯに応じた言葉遣いを児童自らが考え実践できるようにしていく。	・各家庭の環境や思いが子どもに対して大きいと思う。よって、教師と保護者のコミュニケーションに工夫が必要かと感じる。 ・週１回、下校時の見守りをしているが、別れ際にきちんと「ありがとう」の言葉を言ってくれる。神社の前を通るときには、必ず手を合わせている姿を見て、感心している。 ・元気で笑顔もよく、あいさつもしっかりしてくれて、こちらもうれしくなる。
	②体育の授業や長休みを活用した全校での運動遊びをする。【毎日】	日常的に全員で運動遊びをしている。特に、一輪車、マラソン、卓球、バトミントンなど、季節に応じた運動遊びは目標をもってがんばることができた。	A		子ども同士で季節に応じた全校遊びができるよう働きかける。	
	③身の回りの整頓や生活リズム定着に向けた指導を行う。【随時】	コロナ対策の消毒・マスク着用など常に指導し続けたことで気をつけられるようにはなってきた。さらに衛生面に気をつけて生活することが必要。	C		衛生面に心がけるよう継続的に意識づけをしていく。教師サイドのチェックも必要。	
	④「気づき、考え、行動する」の実践できるようにする。【毎学期末自己評価】	自ら周りのことに目をやり、気づき、自分で行動するというところまで至っていない。	C		具体的な場面で、児童個々に応じたタイムリーな言葉がけにより意識させていく。	
	⑤保護者や地域・関係機関等と連携し、実践的な防災・安全教育を実施する。【年間３回】	今年度、地域防災組織と合同訓練は荒天のため、できなかったが、消防署との非難訓練は行うことができた。	A		次年度も様々な災害を想定した訓練を地域と合同で実施していく。	
〇 深く考えやりぬく子どもの育成 １．自分の思いを豊かに表現し、深く考える指導の工夫 ２．学習意欲の向上と基礎・基本の徹底 ３．家庭学習の工夫と習慣化 ４．体験を通した学びの充実 ５．保幼小中一貫教育での学びの充実 ６．外国語教育の充実 ７．読書活動の推進	①極少人数の良さを生かした授業改善「自学自習」と個に応じた指導の工夫を行う。（授業研究会【年間２	算数科を中心として児童の実態に合わせて単元構成や資料提示を工夫することにより、自学自習に向けての態度・工夫ができてきたが、まだ不十分。	B	B	「自学自習」ができる場の設定、課題解決学習について、今後も研究を進めていく。	・学習内容はわからないが、一人ひとり個性があり、教科の好き嫌いはあるだろう。それを把握して指導していけばよいのではないか。
	②効果的なＩＣＴの活用により、「授業が楽しい、よくわかる」を児童が実感する授業を目指す。	ＩＣＴ機器の有効的な活用方法を工夫し、学習意欲の向上と基礎・基本の定着を目指してきた。ＩＣＴ活用には慣れてきている。	B		一人一台の活用方法を工夫し、効果的に学習を進めていく。	
	③家庭学習の方法を工夫し、習慣化を図る。【家庭学習実行率100%】	児童個々の力に応じて、目標や興味をもって取り組める内容を課題として取り組ませた。習慣化ができていない。	C		粘り強く取り組ませ内容を充実させる。やったことを認めて励まし意欲づけを図る。	
	④地域の人、豊かな自然、文化を生かした体験学習を実施する。【年間７回】	コロナ禍の中、地域の特色を生かした体験学習ができた。（トチノキ巨木群観察、トチ餅づくり、へしこ漬け、文化祭＆感謝祭、地域行事など）	A		各教科や領域と関連させて、事前・事後学習を通してしっかりと振り返りをさせる。	
	⑤東小での交流学習・遠隔授業交流や中学校教員による出前授業の実施。【年間複数回】共同授業研究会への参加。【毎学期】	2学期には、東小やこども園との交流活動は、有意義な内容で実施できた。ＩＣＴを活用した遠隔授業交流も定期的にできている。	B		遠隔授業の有効的な活用について研究する。中学校教員による出前授業も実施する。	
	⑥コミュニケーション能力の素地を培う外国語指導助手とのＴＴ授業を推進する。【低：10時間　中：35時間　高：70時	1学期は、週１回、外国語指導助手と担任とのＴＴ授業が実施できた。2学期以降は、コロナ感染症により、実施できず、遠隔授業を行ってきた。	B		Ｚｏｏｍ交流をさらに工夫し、より良いものにする。ＴＴ授業が再開できれば、ＴＴ授業の工夫を。	
	⑦朝読書の実施、家読の奨励、新聞記事の活用等のにより、本に親しむ機会を増やす。 読書量の増加【月：中5冊、高3冊】	図書サロンによる本の入替は定期的に実施。読み聞かせボランティアのお話会は12月に実施。朝読書の時間確保が課題。	B		本にふれる環境を整え、幅広く本に親しみ読書の楽しさを感じられるようにする。	
〇 心豊かな子どもの育成 １．人に「感謝」できる心の育成 ２．いじめを許さない学校づくり ３．考えを深め、心に響く道徳教育の推進 ４．きめ細かな教育相談の実施 ５．系統立てたキャリア教育の推進 ６．マイスクール事業の推進	①人に感謝し、感謝されることを喜びと感じる心の育成と仲間づくりを行う。【毎学期末自己評価】	運動会や感謝祭などの取組を通して、友だちや周囲の方々の支え、地域の方々の温かい励ましがあることを機会をとらえて伝えてきた。	B	B	言葉遣いの指導と併せて、思いやりのある言動につながるよう指導していく。	・感謝の気持ちやいじめをしないことは、指導だけでなく、周りの環境が大切。 ・学校が楽しいと思えることが大切では。 ・和太鼓演奏にみられるように毎年上達しているのを感じる。3人の気持ちも合っているようだ。これからも和太鼓演奏は有意義だと思う。
	②児童会によるいじめ防止の取組を行う。【通年】	毎月の生活のめあてを考える際に、人への思いやりや協力し合うことの大切さを全員で話し合い、より良い仲間づくりにつなげてきた。	B		児童会での定期的な話し合いを大切にし、その内容を具体化する。機を逃さない指導を行う。	
	③毎週金曜日４校時を全校道徳の時間と位置付ける。【毎週】地域の人や保護者に参画いただく道徳授業を実施する。【年間１回】	行事等の関係で、毎週の全校道徳の時間が設定できないこともあった。９月には参加型の道徳参観にすることができ、授業改善も進んできている。	B		遠隔授業交流により、多様な考え方に触れる機会を増やす。東小との時間を合わす。	
	④きめ細かな教育相談の実施と、全職員による情報共有と対応に努める。【随時】	子どもと些細なことでも話す機会を大事にしてきた。家庭での様子や学校生活など、子どもの思いや考えがよくわかり、指導に生かすことができた。	B		きめ細かな観察・児童理解を心がけ、教職員間で情報共有、共通理解を図っていく。	
	⑤「夢ファイル」等を活用したキャリア教育を推進する。【通年】	日常の学習活動を振り返りながら「夢ファイル」への書き込みを蓄積。その中で、児童自身が自らのキャリアや将来について考えることができた。	B		学校生活の足跡を記録するなど、振り返りの蓄積をキャリア形成につなげていく。	
	⑥和太鼓演奏の技能向上を図り、その成果を校内外で積極的発表する。【年間５回以上】	地域での発表、他校園での交流を通して自信もつき、励みになっている。志多らによる指導も有意義である。ＯＢ、ＯＧとの共演もできた。	A		発表ありきでなく、「練習の成果を披露したい」という気持ちの高まりを発表につなげたい。	
〇 地域とともにある学校づくり １．保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築 ２．コミュニティスクール（２年次）の取組推進 ３．「チーム朽木西」の体制構築	①学校だよりやＨＰ更新等による情報発信に努める。保護者や地域住民のニーズを把握（学校評価等）し、教育活動に生かす。【通年】	学校だよりによる情報発信はできた。ＨＰの更新はできず。保護者会等を通して、学校の現状や今後について協議する場がもてた。	C	B	市の方針に従い、新しいＨＰの更新を進める。	地域の交流は、その機会が限られている。もっと機会を持つことが必要だが、西地区では、難しい問題だ。
	②学校運営協議会で目標やビジョンを共有し、課題解決に向けた熟議を継続的に行う。【年間5回】	学校が示す目標やビジョン、今後の課題等について共有いただき、広い視野からの提言もいただいた。その内容は学校運営に生かしている。	B		学校・地域の現状や課題について熟議を重ね、学校運営の改善を進めていく。	
	③教職員やＰＴＡ、地域住民との協働体制を構築し、「チーム学校」としての取組を推進する。	コロナ禍の中、学校行事・地域行事に向け、現状と課題を踏まえ、今後の学校運営について協議を重ねることができた。	B		コミュニケーションを密にし、保護者・地域との協働体制を確かなものにしていく。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	〇「チーム西小」小人数の学区なので、今後も先生・保護者・地域住民のコミュニケーションを計り、オープンな学舎に。 〇地域とともにをモットーの学校なので、子ども・先生方ともども地域の住民もできることを協力していきたい。 〇運動会、文化祭等地域住民と触れ合うことは、児童にとっても地域にとっても大変有意義なことであると思っている。今後も継続を。 〇今年度は、コロナ禍の影響で思うようなことができなかったためか、項目の中に昨年より低い評定が目立った。 〇子どもは、それぞれ得意なところがあるので、それを引き出し、自分に自信を持てる子どもに育ててほしい。	B	〇小規模校の利点を生かして、学校と保護者、地域住民とのコミュニケーションを密に取りながら、地域とともにある学校づくりを更に進めていく。地域の自然や文化、人材を活用した取組は、児童の主体性を生かしながら、教科横断的に取り組む。 〇そのベースとなるのが保護者会や学校運営協議会であり、学校・地域の課題について話し合って信頼関係を深め、より良い方向性を見出していく。 〇運動会や文化祭、ふるさと感謝祭、地域訪問等は、保護者や地域と協議の上、コロナ感染症の状態を見ながら内容を改善し、継続実施する。また、地域と合同の防災訓練をはじめとして、関係機関・団体と連携した教育活動を積極的に進める。 〇和太鼓演奏は児童の表現活動の柱と位置づけ、マイスクール事業として更なる技量の向上と取組成果の発表につなげていく。 〇一昨年度からの校内研究のテーマである「自学自習」の力の育成は、本校の児童に最も必要な力であり、次年度もこのテーマで研究を深めていく。ＩＣＴを活用し、遠隔授業交流や遠隔合同学習もすすめる。

４段階評定（Ａ　目標を十分に達成　　Ｂ　ほぼ目標を達成　　Ｃ　やや不十分　　Ｄ　改善を要する）

（様式１）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木中学校

学校の教育目標	杉の木とともに大地に根を張り ＝朽木の自然と地域の人々とともにふる里を愛し、ふる里を語れる 幹を太らせ ＝豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める たくましく伸びる ＝夢や目標をもち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く

昨年度の評価概要	・中身を磨いてさらによい朽木中学校をつくっていってほしい。「朽木中が好き」「朽木中でよかった」と心から言える生徒の割合を100%にすれば、生徒数が少なくても素晴らしい学校になると思う。「どうすればみんなが朽木を誇りに思えるか？」ということを、これからも生徒、先生、地域で考え、議論していきたい。 ・小規模校ゆえ、限られた教職員スタッフで朽木の子どもの健全育成のために尽力いただいていることに感謝する。明確な目標を立て、その実現に向けて実践していただき、ほぼ目標を達成していただいていると思われる。今後も各先生方の持ち味を生かしながら、教職員が一致協力し、やりがいのある教育推進をお願いする。

中期的目標	□『学び合い』学習の充実 □目的意識と主体性を発揮できる場面の設定 □小中一貫教育の発展 □朽木を愛する心を育む体験活動の推進 □キャリア教育の充実 □学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
「主体性、自主・自律の精神の育成」 ■主体的な活動による自主・自立の精神の育成 □自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化 ■地域貢献活動の推進	■「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組	体力トレーニングや読書など、計画的に取り組むことができていた。内容を濃いものにするために、個別のアドバイスを進めていきたい。	B	A	計画段階で個別のアドバイスをきめ細かく行い、それぞれに有意義な取組となるようにする。	目標のある活動に対して主体性を発揮し、意欲的に取り組めている。JMTの内容については自由度を上げることで深まるのではないかと思う。貢献活動について取り組んだ成果を生徒に返すことを地域がすべきである。
	□学級活動、生徒会活動における主体的、創造的な取組	「合笑祭」(文化祭・体育祭)の企画・運営を生徒会が主体的に行い、97%の生徒が充実していたと回答した。	A		生徒に目標を持たせ、生徒の主体性を育てられるよう、教師が支援する。	
	□縦割り集団を生かした活動(行事・日常・清掃)への取組	全校で取り組む活動に関しては、すべて縦割り集団で行い、異学年の生徒と協力、尊重の様子が見られた。	A		行事や活動など、可能な限り全校で行い、縦割り集団での取組機会を増やす。	
	■地域貢献活動への積極的な参加	活動場面の機会をわずかしか設定することができなかったが、掃除や雪囲いの設置、防護ガウンの制作にやりがいを感じていた。	B		地域の各機関と連携をとり、活動の機会を増やして生徒の自己有用感を向上させる。	
「学習指導」 ◆『学び合い』を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造 ◇家庭学習の習慣化 ◆保小中一貫教育による系統性のある学習指	◎「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上	「わかりやすい」と回答した生徒は93%、「授業が楽しい」と回答した生徒が90%であり、さらに学習意欲を高める工夫が必要である。	B	B	ICT機器の活用などを工夫し、学習意欲を高めることに努める。	指標に到達はしているが評定がBとなっているのは、意欲や主体性、学び合いの質の高さに視点が置かれているからであり、それが家庭学習に表れていると予想する。意欲を高める工夫が必要である。BUTはいい教育活動と評価する。
	◆全教科で『学び合い』の手法を取り入れた質の高い授業実践	感染症予防のために話し合い活動を制限したが、「学び合いで自分の考えを深められた」と97%の生徒が回答しており、生徒もその意義を感じていた。	B		感染症対策を講じながらできることを各教科で工夫し、学び合い学習を充実させる。	
	◇宿題、自主学習、読書等の家庭学習（週末の課題）が、1日60分以上の生徒が75%以上	「家庭学習を60分以上行った」と回答した生徒は70%であった。課題の与え方や、点検方法と併せて、その必要性を十分に理解させられなかった。	B		課題の与え方や、課題の事後の扱い方を工夫し、家庭学習への取組意欲を高めさせる。	
	◆年間6回以上の小中合同授業（Build Up Time）の実施 年間6回の保小中合同授業研究会の実施	感染症の影響により、BUT、授業研究会ともに回数は少なくなった。回数の少ないBUTで、児童生徒はそれぞれのねらいを見据えて取り組んでいた。	A		生徒はBUTのねらいに即して取り組めている。活動内容(教材)を、吟味する。	
「道徳、生徒指導等」 ●いじめを許さない生徒指導の推進 ○生徒個人に寄り添った教育相談の充実 ●豊かな人間性・社会性を育む体験活動の推進 ○道徳の授業の充実	◎居心地のよい学校・学級づくり 90%以上が学校・学級は安心して過ごせると評価	「安心して楽しく過ごせる」と回答した生徒は83%であった。活動内容やその方法などについて多くの制限が加えられたことも影響していると考える。	B	B	感染症の対策をする中で活動範囲や活動内容ををエ夫し。集団づくりに取り組む。	生徒の様子の把握に努めていること、また、スクールカウンセラー等との連携の成果として、生徒が居心地の良さを感じていることは、高く評価できる。キャリア学習を進める上で校外に出かけることが困難であれば、身近な社会人を学校に招聘し、ワークショップのような形で語り合える場を設定してみるのもいい。
	●「ストップいじめ行動計画」に基づくいじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催（毎日）	毎朝15分程度の情報交換会を行い、生徒の様子について共通理解を図った。毎月の生徒の振り返りアンケートからも生徒の様子を把握できている。	A		毎朝の情報交換会で共通理解できている。今後も継続し、生徒理解に努めたい。	
	○SCと連携しながら、生徒の思いに寄りそった相談活動の充実	スクールカウンセラーは生徒や保護者の面談を行い、その情報を教員が受け、教育相談に活かすことができた。	A		SCの面談や、教員がSCから助言を受けることを継続し、教育相談の充実を図る。	
	●夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が75%以上	活動場面に目標をもって取り組んだことで充実感を得たようである。全校では83%の生徒が肯定的な回答をしていたが、3年生の肯定的な回答は50%であった。キャリア教育がメインの修学旅行が大幅に変更したことの影響と考えられるが、他の活動での工夫が不足していたことを反省する。	A		体験活動などの際には目標を示し、意義を理解させることで達成感をもたせたい。	
	●系統立てたキャリア教育の推進と充実		B		校外での学習が難しい中、社会を広く理解して自己の生き方を考えられる工夫をする。	
	○道徳の教科化に向けた職員研修会の実施	教科の履修を優先したため、道徳についての研修がやや薄くなったが、個別に教材研究を重ね、22の価値項目、すべてについて指導できた。	B		今後も研修を重ね、指導方法や評価の内容・方法について学び続けたい。	
「健康の保持、増進」 ▲体力の向上と健康の増進 △望ましい生活習慣の育成	▲部活動は充実していると答える生徒が85%以上	89%の生徒が肯定的に回答した。下校のバス時刻や他の活動との関係で活動時間が短くなりがちだが、運動の苦手な生徒も努力している。	A	B	活動に関して制限が続くことが予想される中、内容を工夫する。	コロナ禍の中、肯定的な回答にはほっとする。以前ほど体力を使えていない分、睡眠も難しいと思う。
	△規則正しい生活習慣の定着	朝食の摂取は97%であるが、時間に余裕をもって登校する生徒は70%、夜11時までに就寝する生徒は60%である。	B		生活習慣チェックの取組を継続することで、生活習慣の意義を理解させる。	
「つながり響き合う教育」 ▼学びの連続性を重視した教育の推進 ▽学校と地域の協働による文化の創造と発信	▼滑らかな接続を目指す、保小中一貫教育による職員の連携、協力、協働	回数の少なくなった合同授業研究会やBUTには熱心に取り組むことができたが、「小中一貫教育で連携を深められた」と回答した職員は半数であった。	B	A	こども園、小学校との連携を深めるために、その内容や方法、組織について改善する。	0歳から15歳の幅広い生身の人間の交流は、中学生が自分と対峙するとき、自分の気付かない部分(自己有用感)を知ることがある。地域との連携が生徒にとって大切な連携になることを願う。
	▽学校運営協議会、地域学校共同本部との協働による教育活動の取組	地域学校協働活動推進員のはたらきかけや、地域の諸団体の協力により、特に環境整備にはお世話になった。	A		地域の方が学校に入る機会や、生徒が地域に出る機会を今後も大切にしていきたい。	
	▽学校と家庭・地域との連携、学校理解や啓発のための「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行	92%の保護者から「学校だよりや学級通信等で学校の様子がよくわかる」と回答いただいた。	A		生徒の活動の様子や、今後の見通しなどについて、より伝わるよう内容を工夫する。	

	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	コロナ禍での取組の難しさの中で、生徒がいずれの項目に対しても良好な回答をよせていることは評価したい。主体性が課題としてあがっており、主体性が発揮されるには興味・関心を引き出す選択肢があることや、取組への思いを発信し合う場の設定が大切である。いろいろな機会を捉えて考え、多面的な意見から学ぶことが生徒を鍛えていくように思う。 「自分磨きタイム」「合笑祭」「BUT」など、多くの体験を通じて生徒は成長している。小規模校ならではの特色を活かした教育を進め、健全な成長に寄与して欲しい。	B	令和3年度の教育活動を展開する上で、次の2点を「めざす生徒像」として取り組む。 1. 自ら考え、主体的に学び、目的意識を持って行動できる生徒 2. 自分の大切さと共に他の人の大切さを認め、つながることができる生徒 また、小規模校ならではの特色として「職員が生徒にきめ細かく関われること」「生徒全員に活躍場面があり、生徒は自己有用感を持てること」「生徒はお互いのことがよく見え、思いやりの気持ちを表現する必要に迫られること」などがあることを意識し、様々な体験活動を通して、上記の「めざす生徒像」を追求していきたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式Ｉ）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇小学校

学校教育目標	豊かな心と自ら学び考える意欲をもつ 心身ともにたくましい安曇っ子の育成 じょうぶで　がんばる　やさしい子

昨年度の評価概要	・概ね目標を達成できている。児童と保護者との意識の異なる部分、目標を下回った理由などを分析して、次年度に生かしてもらいたい。 ・常に子どもたちにとって居心地がよいとは、安心できる居場所があること、勉強がわかること、気にかけてくれる仲間や先生がいることだと思います。ぜひ、次年度もこのことをしっかりと職員間で共有して取り組んでください。 ・来年度、広瀬学区での行事を考えていることは、地域づくりの観点からも高く評価できる。協力もするので、ぜひ実現を願いしたい。 ・保護者が子どもが楽しく学校に通っているの回答に94.7%と、子どもより高いポイントであり、学校に対しても信頼感が感じられます。 ・子どもたちが、今後社会の中で生きていくうえで、何が大切であるかを考えて「生きる力」を培えるように指導されていることに感謝します。 ・少しずつではあるが、学校支援の輪が地域の中で広がっている。今年度初めて地域との九九道場ができたこと、中学校に小学1年生が踏み入れたことは、大きな成果ではないでしょうか。 ・地域の人との関わりによってわかることも出てくると思うので、年度当初から計画的に学校の担当者と推進委員とが、相談しながら進められるとよい。

中期的目標	・基礎、基本の確実な習得と、学び合いを活性化し、主体的、対話的で深い学びの創造 ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開 ・ＩＣＴの活用による、　わかる、できる授業の創造 ・道徳教育の充実で豊かな人間関係を育成し、いじめを絶対に許さない仲間づくりの推進 ・健康、体力づくりと、豊かな心の育成 ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携とキャリア教育の一貫した取組 ・地域学校協働活動を核とした地域とともにある学校の推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
〇自ら学び考える教育の創造 ・魅力ある分かる授業と基礎的基本的な学習内容の定着と主体的な学習の推進 ・ＩＣＴを活用した楽しく、わかる、できる授業の創造 ・リバーウォッチング活動や福祉学習を核とした生活科、総合的な学習の時間の推進 ・読み解く力を育成し、自分の言葉で表現する児童の育成 ・算数科パワーアップタイムによる、基礎基本の徹底 〔学力向上ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ８の具現化〕 〔学力向上アクションプランの実践〕	・授業が楽しい、わかるの児童評価が９０％以上 ・パワーアップタイムで、基礎的な力がついた９０％以上	・授業が楽しく、よく分かる８７．７％（児童） ・子どもは学校の学習内容をだいたい理解しているようだ８９．５％（保護者） ・パワーアップタイムで、基礎的な力がついた８１．６％	B	B	・ＩＣＴを積極的に活用することで視覚的な支援を行い、「よくわかる授業」を実践する。 ・一人一台のIpad（タブレット型パソコン）を活用した効果の上がる授業研究を組織的に推進して実践する。・読み解く力を育成し、しっかりと教科書の内容や課題を理解できるようにする。	今後のことを考えると、小学生からICT機器に触れられる環境はありがたいことですが、そのことで先生方の負担が一気に増えないかが心配です。子どもとの触れ合いや、目が行き届かなくならないかと心配である。 ・タブレットが全員に配布されるが、安心・安全な使用でなければならない。子どもたちへの丁寧な関りが必要であり、先生と児童、児童同士、先生同士のつながりをより一層深めてほしい。 ・総合的な学習の時間の見直しをぜひとも、琵琶湖から世界への視野にたった児童を育てて欲しい。タブレットなどを上手に使いこないし。それぞれの学力向上に努めて欲しい。読書活動の更なる工夫と推進をお願いします。
	・相手の話をしっかり聞けた、児童評価が９５％以上	・先生や友だちの話をしっかり聞けた９２．２％（児童）	B		・学級の中で、何でも言える何でも聴いてもらえるような温かな雰囲気を醸成する。 ・学級会議のもち方を研究して、効果を上げている学校の取組に学び実践する。	
	・リバー学習をはじめとする学校行事は、楽しいの児童評価９０％以上	・リバー活動をはじめとする学校行事は楽しい９３．４％（児童） ・子どもはリバー活動をはじめとする学校行事に喜んで参加している９５．６％（保護者）	A		・総合的な学習の時間の見直しを、プロジェクトチームを立ち上げて取り組む。 ・各行事終了時に、必ず反省（チェック）を行い、次年度の見通しをもつようにし、ＣＡＰＤサイクルがしっかりと回るようにする。・コロナ禍の中で学んだ行事の精選を生かしながら、より成果を上げられるように工夫して実践する。	
	・効果の上がる校内研究、校内研修（ＩＣＴ・プログラミング）とＯＪＴの推進	・年度当初に、ipad（タブレット型パソコン）の使用やプログラミング学習について、職員研修を実施した。・1日1回の使用割り当てではあるが、多くの教員が授業で活用している。また、その他ＩＣＴについても活用し、授業での視覚的な支援を行った。	A		・「わかる」「できる」授業を創造するために、効果的なICT機器の利用について職員研修を引き続き実施する。・豊かな人間関係づくりを研究テーマにすることも視野に入れて検討を行う。	
	・朝読書、図書訪貸出、委員会活動による読書活動の活性化	・あたなは、進んで読書活動をしていますか７４．３％（児童）・コロナ禍のため、ボランティアによる読み聞かせは実施できなかったが、安曇川図書館の訪問貸し出しが再開された。・また、読書に親しめるように、保護者に本をいれるためのかばんを作製してもらい、机にかけていつでも読書ができる環境をつくった。	B		・モジュールによる朝学習を廃止して、毎朝読書タイムを設けて落ち着いた中で1日がスタートできるようにする。・各学期に読書週間を位置づけ、読書活動がさらに推進できるように働きかける。・安曇川図書館と連携し、訪問貸出の中で朝読書に適した本の紹介をしていただく。	
〇豊かな心と人間関係づくり ・児童によるいじめ啓発活動 ・言葉遣いや言語環境の整備 ・心をつなぐあいさつ運動 ・インクルーシブ教育の推進 ・ソーシャルスキルとコミュニケーション能力の育成 ・教育活動全体を通じた道徳科の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進	・学校が楽しい児童評価９０％以上 ・学校、学級は居心地がよい児童評価８５％以上 ・自分も他者も大切にする児童の育成	・学校が楽しい８７．７％（児童）・子どもは楽しく学校に通っている９４．６％（保護者） ・学校、学級は居心地がい８０．４％（児童） ・あたなの学級はみんなで仲良く協力し合っていると思いますか８１．３％（児童）	B	B	・豊かな人間関係が築けるように、ソーシャルスキルトレーニング等を積極的に実践し、また活発な学級会議を実践する。 ・人権教育との連携を図ったり、委員会活動で児童自らがいじめ防止について啓発活動ができるようにサポートする。	・縦割り活動は、個々のコミュニケーション力の向上につながるので、さらに充実をお願いします。コミュニケーション力が高まれば、相手の立場に立った考え方や行動ができるので、いじめ防止にもつながると思う。 ・登校中のあいさつは、この一年でよくできるようになったと実感している。自分の気持ちを外に出しにくい児童もいる。気軽に相談できる体制を整えてほしい。 ・昼休みに一人で外で遊ぶ子やいじめにあっている児童が、地域の方々と触れ合う中で少しでも解消できるとよい。コロナ禍が落ち着きもっと工夫した取組ができるとよい。
	・いじめをしない、許さない児童の育成 ・自尊感情を育む、教職員の働きかけ ・先生は自分の良いところを認めてくれる児童評価９０％以上	・いじめの未然防止、発生時には組織的で迅速な対応を心がけた。 ・学期始めに必ず、スタートアンケートを実施して、職員間で情報の共有をし児童に寄り添った。 ・人権週間の定着と工夫ある実践を行った。 ・年度当初から、児童にとって居心地がよいとはどんなことなのかを考えて、学級経営にあたった。 ・先生は自分のよいところを認めてくれる８３．７％（児童）	B		・効果のある合理的配慮についての情報共有を行い、職員間での研修を深める。・児童観察をさらに深め、一人ひとりの良さを認め、自尊感情を高められるような指導支援を行う。・縦割り、ペア活動をさらに推進し、自己有用感を育む。	
	・ソーシャルスキルトレーニングの実施 ・個別の教育支援計画、合理的配慮に基づき、きめ細かな指導と支援の実践	・ソーシャルスキルトレーニングの必要性を感じていたが、計画的に実施できなかった。次年度構想会議の中で、次年度に向けた検討を実施した。 ・特別支援教育推進会議を定期的に開催し、情報の共有や個に応じた短期的な目標づくりを行った。	B		・今年度は、ソーシャルスキルトレーニング等を全校で実施できなかった。次年度は、計画的に実施できるようにエ夫して取り組む。・特別な支援が必要な児童について、職員間で情報を共有するとともに関係機関につなぎながら保護者と協力して児童の支援にあたる。	
	・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進 ・縦割り活動、ペア活動による良好な人間関係の育成	・今年度は昨年度に引き続き、縦割り掃除を実施した。また、ペア活動として上学年が下学年に読み聞かせを行い、自己有用感を高める機会となった。 ・特に3年生は立志祭に向けて、事前学習や当日の活動で身近に藤樹先生を感じることができた。	B		・縦割り活動をさらに充実させ、縦割り掃除を年間で取り組む。 ・1・6年、３・5年、2・4年のペア活動にも積極的に取り組む。 ・中江藤樹先生の教えを年間通じて、指導できるように計画・実践する。	
〇たくましい心と体づくり ・業間運動、鉄棒や縄跳び、マラソン等の体力づくりの推進と自己の体力の課題改善に向けた取組 ・体育科授業での継続した取組 ・縦割り掃除の取組 ・食育の推進や早寝早起き等生活リズムの定着	・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、教科体育の充実を図り、特に高学年での体力の向上を図る	・コロナ禍のため、県一斉の新体力テストは実施できなかったが、５・６年生で１１月に本校独自に実施して、体力の課題を共有した。児童は元気に外で遊ぶなどして、適度な体力の向上を図った。また、体育科と連携して縄跳びにより冬季の体力を高めた。	B	B	・自己の体力の課題を知り、その克服に努められるように年間を通じて、体育科の授業を中心に指導する。・鉄棒、縄跳び、マラソン週間等、児童にとって取組意欲を喚起できるようにエ夫する。	・コロナ禍で、体育の授業内容も難しいかと思いますが、個々の筋力・体力向上に努めることにより、精神向上にもつながると思うので、よろしくお願いします。生活リズムについては、家庭内でさらなる向上は可能だと思います。 ・体験はいかなる場面でも生きた体験をすることによって、子どもは伸びる。今後もそのような体験活動を期待している。 ・安曇っ子は、様子をみていると、元気にたくましく育ってきているように思う。
	・掃除の時間、もくもくと頑張っていると答える児童評価90%以上を目指す。	・一定期間、縦割り掃除に取り組み、頑張って掃除をする児童が増えた。 ・もくもく掃除にとりくんでいる児童評価は、９１．１％であった。	A		・縦割り掃除の中で、6年生のリーダーとしての資質を育成し、先輩を見習い、憧れる存在とする。・掃除の時間の合言葉「じもぴ」を徹底する。 （じ・・時間を守って、も・・もくもくと、ぴ・・ぴかぴか）	
	・生活アンケート等を実施し、家庭に啓発して、子どもたちの生活習慣の改善を図る。 ・早寝・早起・朝ごはんの生活習慣が身についている。	・安曇川地区小中一貫教育の生徒指導部会で、ゲームやＳＮＳ等のアンケートを実施し、実態把握と家庭での指導方法についてお便りでお知らせした。 ・子どもは、早寝・早起き・朝ごはんの生活リズムができている８９．０％（保護者）	B		・ゲーム、インターネットの使用について約束事を決めているの保護者評価７７．４%、その内約束を守れているが７０．３%であった。これらの数値をさらに向上させるために、積極的に啓発活動を行う。また、基本的生活習慣についても家庭との連携を図りながら向上を目指す。	
〇小中一貫教育の推進 ・学力向上や生徒指導面での連携推進 ・児童にも教師にとってもメリットを感じる「つながり響きう合う教育」の実践「change　for　jumping」	・部会の再編により、教師のつながり感を高める。	・コロナ禍により十分ではなかったが、国語、算数・数学、外国語、道徳、生徒指導、特別支援部会、キャリア教育、地域協働部会を開催し、効果的な連携協力が図れるように取り組んだ。	B	A	・中学校が取り組んでいる「学び合い」について、9年間を通じて「学び合い」が実践できるように研修して取り組む。 ・今年度編成された部会をさらに、児童生徒目線で発展させる。	ボランティア活動をしてくださる地域社会の方々と接する機会の中で、子どもたちが学ぶことは大変良いことだと思いますので、引き続きよろしくお願いします。広瀬小学区でのマラソン大会は、大変すばらしいことなので、今後もぜひ続けてください。 ・地域連携はコロナ禍のためにうまく進まなかったところも多かったが、子どもたちと直接かかわらない取組も生まれた。ＰＴＡの協力がもっと得られないかと思うこともある。 ・小中一貫では、特に教科の算数などの連携が重要である。学力をつけるための基礎基本や自主学習の小中のつながりを検討してもらいたい。
	・６年生の合同学習は、中学校進学への不安解消に役立った児童評価９５％以上	・コロナ禍のため、中学校での6年生体験授業（合同学習会）など、メインの事業が中止となった。 ・中学校入学説明会を各小学校で実施して、中学校から生徒会役員自らが先輩として参加し、学校生活などについて説明した。	B		・次年度は、合同学習を実施する方向で、工夫を凝らして開催する。	
〇家庭、地域等との連携 ・学校便り等による保護者、地域への情報発信 ・学校運営協議会による地域学校協働活動の推進、学校関わり人口の増加、「つながり響き合う教育」の実践 ・新しい安曇小学校文化の創造	・あど小通信を月１回以上発行する。 ・新たな学校支援ボランティアの発掘と組織化 ・学校運営協議会の適切な運営	・担任の小まめな学級だより、月一回の学校だよりで、学級や学校の様子について情報発信ができた。 ・お便りや連絡文書等で、学校の様子をだいたい把握している９３％（保護者） ・地域学校協働活動として、花壇ボランティアが組織化されるなどコロナ禍ではあるが、着実に成果を上げている。	A		・必要な情報を必要な時に、正確に発信できるように努める。 ・メール配信の登録を保護者に働きかける。 ・ホームページは、市小中学校で統一したものができる予定である。	
	・地域学校協働活動推進員との連携により、地域人材の積極的な活用 ・広瀬学区でのマラソン大会の実施	・地域学校協働活動推進員のコーディネートによって、コロナ禍の中ではあるが多くの分野で学校支援をいただき、学校関わり人口は確実に増加している。 ・統合による新しい文化の一つとして、広瀬学区でのマラソン大会を無事に実施できた。また、地域学校協働活動として多くのサポーターの方々の協力を得た。	A		・今年度の取組を継承しながら、花壇ボランティアからさらに地域学校協働活動の輪を広げる。 ・学校が必要な時に、必要な人材を確保していただけるように、さらに推進員さんとの連携を深める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・様々な指標に対しての達成状況において、新型コロナウイスルという未知の外力の影響をうけながら、日々到達目標に向けご尽力いただきましたことに対する評価は満点だと思っております。また、その中で、改善方策について具体的にかつしっかりと再目標を定めていただいているので、今後も協力させていただきます。本来ならば家庭教育の中ですべきことですが、「ダメなことはしっかりとダメ」、「悪いことをすれば叱られる」と毅然として態度でご指導いただきたいと思います。 ・安曇小学校の子どもたちは、明るく元気な子どもたちだと思っている。課題のある子どもたちも多いとおもわれるが、仲良くグラウンドで遊ぶ子どもたちの姿は、大変微笑ましいので、ぜひ笑顔があふれる取組をお願いしたい。 ・当初は挨拶できなかった子どもたちが、ここにきて挨拶を返してくれることが多くなった。これは評価に対すると思う。朝の表情観察はたいせつにしていきたい。 ・進んで挨拶ができる子どもが増えた、元気に話しながら笑いながら登校する姿はとってもずばらしい。学校の雰囲気もいろんな子がいるでしょうが、落ち着いた感じを受ける。画像でのミニ集会など先生方もいろいろと工夫されて、今後さらに新しい取り組みなどしていかなくてはなりません。先生方の研修、勉強に期待しています。	B	〇学力向上について ・朝学習を取り止めて、朝読書にして落ち着いた1日のスタートとなるようにする。また、朝読書の選書については安曇川図書館の訪問貸出と連携する。 ・一人一台のタブレットを有効活用し、個別最適な学習について研修して、楽しいわかる授業の実践に向けて取り組む。 ・昨年より実施しているパワーアップタイムを本校の課題である「書く力」の育成としてリニューアルして取り組む。 ・全校リバーを今後中止として、新たな枠組みで学年の総合学習を実施する。特に安曇川にこだわらないで、地域、平和、琵琶湖学習などを行う。 〇居心地のよい学校づくり ・学級会議を推進して、自分たちの課題を自分たちで解決する力を育成する。 ・人が県関係づくりに課題があるため、ＳＳＴやアサーショントレーニングなどを活用して、豊かな人間関係の構築を目指す。また、自尊感情を高められる　　よう、丁寧な児童の観察を行う。好機を見逃さないようにする。 ・いじめは、絶対に許されないということをしっかりと指導し、気持ちが抑えられない時の避難場所として、校長室を開放する。また、児童自らがいじめ撲滅のための啓発活動を積極的に実施できるように指導する。 ・校務支援ソフトを効果的に使用して、児童の個人情報を蓄積して、生徒指導等に役立てる。 〇家庭、地域との連携 ・今年度形になってきた定期的な花壇ボランティア活動から、裾野を広げて他の地域学校協働活動につながるように推進員と更に連携強化を図る。 ・地域学校協働活動のサポートを受けて、広瀬学区でのマラソン大会を継続実施する。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式Ｉ）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校教育目標	校訓　「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び　心豊かでたくましい　子どもの育成

昨年度の評価概要	・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって、青柳小学校独自の教育活動を今後も継続して発展させてほしい。 ・青柳小学校独自の「一家庭一家訓」の取組を継続し、そのことを振り返りをしてほしい。ただ取組をしてから年月が経過しているので、主旨を保護者にしっかりと周知させてほしい。 ・たて割り活動を継続して、上級生、下級生の仲が良いことを大事にしてほしい。 ・地域学校協働活動の連携の更なる強化をしてほしい。

中期的目標	めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子 めざす学校像 地域とともに歩む学校

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」の点検見直しにより学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、家庭学習の習慣化を図る。 ・ＩＣＴの積極的な活用を図る。	○学力の向上 ・「我が校の学ぶ力向上策」について学期ごとに評価、改善を加え、実効性のあるものにする。 ・家庭学習の習慣化のため、PTAと連携して展開する。「一家庭一家訓」の実践と振り返り、主旨を明確化する。	・１０月に実施した全国学力学習状況調査では「国語の授業がよくわかる」と回答した児童は９０％、「算数の授業がよくわかる」と回答した児童は９４％であった。 ・算数科、国語科においては学級担任と加配教員、会計年度職員による連携を絶えず密にして評価、学習内容の定着度合いの等の確認を確実に行うことができた。	A	B	・本校が基本としている学習規範をを基盤とした、「我が校の学ぶ力向上策」を全教職員が強い意識をもって継続していく。そして、何より落ち着いて学習に取り組むことを大切にする。	・一家庭一家訓の取組は、青柳小学校独自の取組なので大切にしてほしい。今年度、連絡帳に貼る等の工夫をしてもらったが、学校評価を見るとあまり浸透していない。これは、立てる目標のレベルが高いのが原因かもしれない。 ・コロナ禍であることや、日程を合わすことが難しいかもしれないが中学生が母校に来てくれて後輩に中学校の事などを話してもらう機会を増やすことは重要である。
		・PTAと連携して、一家庭一家訓の取組を実践し、学校だよりで紹介した。また家訓を児童の連絡帳に貼り、絶えず意識を持たせる取組を行った。 ・学校評価の質問内容を工夫して、家庭での自主学習だけでなく、塾での学習、文化・運動の習い事を学習として含めると９２％となった。	B		・本校の特色ある取組である。子ども連絡帳に貼り意識することをさらに継続したい。また、ＰＴＡと連携して継続した啓発（学校だよりに掲載等）と振り返りを確実に行う。	
		・コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、年度の前半は外部からの講師をほとんど招くことはできなかった。ただし、後半より様々な場面で外部講師を招き生き方に関する学習に取り組むことができた。 ・ｉＰａｄ、書画カメラ、プロジェクターをかなりの頻度で活用できた。 ・保護者評価の「あなたのお子さんは、学校の学習が分かり楽しく勉強している。」は一学期８８％、二学期９０％であった。	B		・キャリア教育の視点を充実させ、キャリパスポートへの取組を確実に実践していく。 ・年齢が近い中学生や高校生等の活躍している姿や進路選択の経験談を聞く場面を設ける。	
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として、各教科においてその特性を生かしながら言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ・外国語活動を通してコミュニケーションを図る資質、能力の育成。 ・「考え議論する道徳」の充実。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫教育標準カリキュラムを活用しめざすＩ５才のすがたを共有して各段階での教育活動に取り組む。	○言語活動の充実 ・校内研究のテーマ「子どもたちの思考力を高めながら主体的に学ぶ授業の創造」の確実な実践。 ・「考え議論する道徳」において多様な考えを大切にする授業の充実。 ・ＩＣＴ機器の積極的な活用。 ・外国語活動を通して「聞くこと・話すこと等」の言語活動の充実。 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる。」（児童評価90%以上） ○現学年での学習活動が上学年のどの学習につながるかを意識した授業作りに取り組む。	・コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、児童同士が話し合う活動はあまりできなかった。しかしながら、学力向上の学校訪問の４年生の国語科の授業ではｉＰａｄを積極的に活用し、児童が主体的に学ぶ授業を実践することができた。県教委の指導主事、市教委の指導主事より高い評価を受けた。 ・「考え議論する道徳」については、試行錯誤の状態である。	A	A	・コロナウィルス感染症の収束の度合いによるが、複数で学び合う活動や自分の意見をしっかりと書く活動を実践する。 ・安心感や信頼感をもって、自分の意見を発表できる学習集団作りを行う。	・小規模な学校において、専科教員をおくことはあまりメリットにならないように思う。中学校の専門の先生に小学校に教えに来てもらうことはできないのだろうか。 ・コロナウィルス感染症の関係で、来年度どうなるかわからないが、安曇川中学校区の子どもたちが、いっしょに集まって学習することはとても良いと思う。特に小さな規模の学校の子どもたちの不安の解消につながる。
		・高島市の小学校より週２回派遣されている英語専科教員やＡＬＴにおいて、専門性の高い授業が実践できている。 ・ｉＰａｄ、書画カメラ、プロジェクターをかなりの頻度で活用できた。	B		・児童一人一人に配布された、ｉＰａｄの有効利用とどの教科のどの単元やどの場面で使用するかを明確にする。 ・授業改善を意識した授業の参観を行う。	
		・学校評価において「先生は勉強でわからない時、ていねいに教えてくれる。」は一学期９４％、二学期９４％であった。 ・安曇川中学校区の小中一貫教育の各部会において、小中の教員が各部会における目指す子どもの姿をいっしょに考え、共有することができた。コロナウィルス感染症拡大防止の観点から例年の合同学習会は実施できなかったが、小中の教員が集まり目指す子どもの姿を議論できた。	A		・放課後の教職員同士が子どもや教材の情報交換を気軽にできる、雰囲気を継続する。また、学習規範を基盤にした「わかった、できた」と実感できる授業の構築に努める。 ・コロナウィルス感染症の収束度合いで変わるが、中学校区の合同学習会の取組を充実させる。	
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・誰に対しても思いやりの気持ちをもって接し、いじめを許さない集団を育成する。	○集団づくり ・生徒指導に関する情報交換やケース会議により、適切かつ早期に対応する。また、いじめは絶対に許さない。 ・「縦割り活動や全校的な行事では自分から進んで活動している。」（児童評価90%以上） ・「進んであいさつや返事をしている。」（児童評価90%以上）	・児童評価において「先生は、いけないことをした時は厳しく注意をしてくれる。」は一学期９４％、二学期９７％であった。 ・生徒指導主任や児童虐待対応教員、特別支援コーディネーターが常に中心になってケース会議等を開催し様々な課題に迅速に対応している。	A	B	・厳しさの中に優しさのある、また、優しさの中に厳しさのある指導を継続させる。 ・「いじめは絶対に許さない。」という毅然とした態度で全教職員が一丸となって臨む。	・コロナ禍の中で、修学旅行、運動会、マラソン大会等、様々な工夫をしてもらったので、それを新たな土台として工夫を重ねていってほしい。 ・いじめは子ども同士で納得させて解決させることが大事ではないか。また、子ども同士とことん話し合わせることも大事だと思う。今の時代は、パワハラもそうだけど、相手がどう感じたかで決まるので難しい
		・コロナウィルス感染症拡大防止の観点から、多くの児童が集まることに制限はあったが、様々な対策を取りながら工夫をして運動会、藤樹デー等で積極的に縦割り活動を取り入れた。 ・児童評価の「たてわり活動や全校的な行事では協力して（進んで）活動している。」は一学期９２％、二学期８９％であった。	B		・本校が大切にしてきた縦割り活動を引き続き継続して取り組んでいく。 ・コロナウィルス感染症の収束度合いにもよるが子どもたち同士が互いに話し合ったり、自分の考えを深めたりする活動を意識的に実践する。	
		・児童評価の「おはようございます。」「さようなら。」などあいさつをしているは、一学期が９７％、二学期９３％である。 ・いじめ事案については、全教職員が毅然とした態度で取り組んできた。しかしながら、事案によっては解決に至っていないものもある。	C		・「有言実行」を意識し、教職員が常に範を示して、自らあいさつができる子どもを育成する。 ・様々な活動を通して、自信をもたせ、さらに誰もがもっている自分の良さに気づかせ自己肯定感を高める。	
○藤樹学習と地域との連携 ・学校運営協議会、地域学校協働本部が一体なった学校、地域づくりを行う。 ・地域の文化や伝統を取り入れた体験的な活動を実践する。 ○教職員の資質向上 ・言語活動の充実等、本校の重点内容の研修に努める。 ・学校運営への参画を自覚し、自らの分掌に責任を持つ。 ・ＡＣとの確実な連携。	○藤樹学習と地域との連携 ・「学校では藤樹先生に関係する学習をしている。」（児童評価90%以上） ・「掃除をがんばっている。」（児童評価90%以上） ・学校支援と地域支援を意識した保護者、地域との連携 ○教職員の資質向上 ・子どもにトコトン関わる。（学習や運動など） ・積極的な研修への参加とOJTの推進。 ・保護者、地域としっかり連携し学校支援と地域支援を充実させる。	・児童評価で「学校では藤樹先生やその生き方や考え方について勉強をしている。」は一学期９４％、二学期は９７％であった。 ・児童評価で「掃除を頑張っている。」は一学期９６％、二学期は９７％であった。 ・地域貢献として、秋花壇用、春花壇用としてサルビア、マリーゴールド、パンジー、ビオラ等の花の苗をこども園、ふじの里、道の駅、文芸会館等に配布することができた。 ・藤樹デーでは、各学年に地域の講師を招き、藤樹先生やキャリア教育に関する講話を聞く時間を設けることができた。	A	A	・日常の中で、中江藤樹先生の教えを理解させ、藤樹先生生誕の地を校区にもつことを児童の誇りとさせる。 ・地域学校Ｃｏとの連携をさらに進める。 ・週休日の子どもたちの健全育成を目的とした、１８年の歴史のあるＡＣ（青柳コミュティ）との連携を確実に行う。	・何と言っても青柳小学校は中江藤樹先生が生誕された地を学区にもつ学校なので、その教えを基盤として教育活動を展開していってほしい。 ・書道の作品展での活躍がすばらしい。書道の得意な先生の熱心な指導や外部講師の方の指導が、その結果に出ている。
		・一日を通して、朝から下校まで子どもへの声かけ、見守り活動を積極的に行うことができた。 ・今年度も大垣女子短期大学より松村教授を招聘して、支援を必要とする児童への関わりについて全教職員が指導および助言を受けた。 ・単級であるため、学級担任の力量が学級経営を大きく左右するマイナス面をカバーするために地域の教職員のＯＢ等の協力を得て複数での学習支援を行うことができた。	B		・関わることを最重要として、子どもトコトン関わることを全教職員が確実に実践する。 ・単学級のため、学級担任の力量によって学級経営が大きく左右され、そのことが保護者の信頼感と関係が深い。その解消のため絶えず情報交換や教材研究等を相談できる職員室経営を進める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・中江藤樹先生の生誕の地であるという誇りをもって、青柳小学校独自の教育活動を継続して発展させてほしい。 ・コロナ禍で、様々な制限のある中で色々な工夫をして教育活動に取り組んでもらっていることに頭が下がる思いである。 ・修学旅行、運動会、マラソン大会等とても工夫されて実施された。 ・普段の登校や下校を見ていると、集団づくりをしっかりとやってもらっていることがよくわかる。 ・コロナ禍を経験して、この一年間、様々な工夫をして、新たな基礎ができたので、今度それを発展させてほしい。 ・青柳小学校を訪れると、廊下や児童昇降口等の掲示物にとても工夫が見られすばらしいと思う。先生方の努力の証である。 ・いじめの事案があり、解決には至っていないかもしれないが、そのことを改善するために毎日、対策会議をして努力してくれている。 ・来校すると、クラスがまとまっていて落ち着いていることがよくわかる。講師として来校しても頑張って取り組んでくれる。	A	・青柳小学校の学校経営の重点である「中江藤樹先生の教え」をしっかりと継続していく。特に「致良知」、「孝行」、「知行合一」、「五事を正す」等の教えを実践することが、自分の夢や目標を実現する基礎となることを意識させる。 ・本校が大切にしている、学力の向上の基本は学習規律の確立であることを全教職員が意識して実践していく。 ・コロナウィルス感染症の収束具合によるが、縦割りを基本とした異学年交流を充実させ、上級生としての自覚をもたせ下級生が「自分も何年後かにそんな上級生なりたい」と思えるような雰囲気を醸成させる。 ・一人一台導入された、ｉＰａｄを積極的に活用し、使うことだけが目的ではなく児童にとって「どの場面」で活用することが「わかる授業に」つながるかを考え、使い方の工夫を考えＰＤＣＡサイクルで実践していく。 ・１８年の歴史をもつＡＣと地域学校協働活動を通して、学校支援と地域貢献を確実に実践し、子どもの健全育成と地域との連携を強める。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式１）

令和２年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立本庄小学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
校訓「たくましい子　本庄の心」 地域への愛着と誇りを持ち、地域を 支えようとする意志と能力を持つ子ども	○自分の思いをしっかり言え、人の意見に耳を傾けて考えられるようになってほしい。 ○先生が良いところを認めていることはとても大事。 ○地域学校協働活動に地域の方にもっと入ってほしい。児童のためにも地域の方の生きがいにもなるような活動を工夫してほしい。 ○授業参観や学校行事等は、祖父母や地域の方にも案内してほしい。 ○図書室リニューアルに伴い、児童の読書意欲が上がることを期待している。 ○挨拶、けじめ、後片付け等は、地域と学校ではやや差がある。 ○少人数によるなれ合いが心配。。けじめ、厳しさと優しさのある校風になってほしい。 ○目標に達しているとそれで良しと思いがちだが、低評価の一人二人の子に目を向けてほしい。 ○『働き方改革』の中で質を落とさず時間を減らすことは、さらなる努力と工夫が必要。	○基礎基本の充実を図り、思考力を伸ばす。 ・言語にこだわった学習に力を入れる。 ○次図から考え、ともに学び合う力をつける。 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる。 ○豊かな心、たくましい体を育てる。 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
確かな学力の定着	授業改善の推進 「学習内容がわかる」90%以上 「学習は将来役に立つ」90%以上	児　童：「学習内容が分かる」９８%、 保護者：「授業は分かりやすい、楽しいと言っている」１００% 児　童：「学習は将来役に立つ」９７%	A	B	『読み解く力』の向上とタブレットの有効活用に焦点化し、教科を問わず授業改善に取り組む。	・「学習内容が分かる」98%の高率は素晴らしいが、１人「ぜんぜん思わない」と答えた子が気になる。　・宿題に読書を取り入れる、家族で市の図書館等で落ち着いて過ごすなどの手立てが必要。　・少人数ならではの授業内容を充実してほしい。　・携帯端末の利点と欠点を教える側が理解することが大切。　・決められた時間・場所での学習の習慣づけが大切。
	読書習慣の定着・読書の質の向上 読書量（低:200冊、中:150冊、高:100冊以上） 「家庭で本を読んでいる」90%以上	児　童：「目標ページを目指して読書をしている」８０%、 保護者：「家庭でよく本を読んでいる」４０% 教職員：「活字文化の向上に繋がるよう読書指導を工夫できたか」９０%	C		質の高い読書、図書室の活用促進、家庭での読書習慣定着を重点として、読書の楽しさに気づかせる。	
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 「低学年20分、中･高学年10分×学年」90%以上	児　童：「目標時間以上、家庭学習できている。（低・中） 工夫して自主勉強をしている。（高）」９７% 保護者：「決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができている」９０%	B		各自の目標や興味に応じて主体的に自主学習するよう指導する。家庭での計画的な過ごし方を考えさせる。	
心身のたくましさの充実	基本的な生活習慣の定着 はっきりと挨拶や返事ができる子（90%以上） けじめのある生活を送ることができる子（90%以上）	児　童：「はっきりと挨拶や返事」９８%　「地域の人に挨拶」９７% 保護者：「家庭や地域でよく挨拶ができている」８８% 児童：「けじめのある生活」９５%　保護者：「早寝早起き朝ご飯」９３%	B	B	自分で気付き行動できるよう、挨拶や返事、靴揃えなど身近なことを具体的に指導（躾）する。	・遠泳やマラソンに自己目標を設定し、突破を目指す取組はたいへん良い。来年度以降も続けてほしい。　・各行事に一生懸命取り組めていたので素晴らしい。　・休校を経験したからこそ、けじめのある生活、家庭での役割など、些細なことに気づき行動できる子どもたちに成長を感じた。　・挨拶はなぜ必要か本質を教える必要がある。
	自尊感情の醸成 周りの人は自分のことを考えてくれている(90%以上) 自分のことがすき（90%以上）	児　童：「先生は良いところを認めてくれる」１００% 「自分のことが好きである」８６% 保護者：「良いところを見つけてほめている」８５%	B		常に児童の心に寄り添い、良さを認めることで自己肯定感を高める。保護者への理解と協力を進める。	
	向上心や忍耐力の育成 自己目標の達成（マラソン、遠泳等）（90%以上）	・遠泳は実施できなかった。運動会は半日開催であったが、児童は一生懸命に取り組めていた。マラソン大会は、各自が目標タイムの突破を目指して継続的に努力できた。	A		目標をしっかり自覚させることで練習や準備の段階から真剣に取り組ませ、より深い達成感を感じさせる。	
豊かな心の育成	豊かな感性を培う体験活動の充実 『地域で、地域と、地域を』学ぶ活動の推進 （自然と歴史に親しみ、人と関わる）	児　童：「ふるさと本庄のことが好きだ」９２% 保護者：「地域の良さや素晴らしさを話すことがある」４４% 教職員：「地域の力を取り入れた教育・授業」７３%	B	B	各学年の発達段階に応じて地域学習を計画的に実践する。地域教材のさらなる発見、開拓を進める。	・「人権尊重…」89%は結構なことだ。クラスみんながいじめを許さない心を育ててほしい。　・「学校生活は楽しい」、「仲の良い学級だ」の残り２%の意見をしっかりと受け止めてほしい。　コロナ禍の影響で、地域とどう繋がるか問題もある。点ばかりでつながりのある線や面になりにくい。人との関わり方が尊重や人権優先でかなり難しい。
	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 友だちを大切にし、呼びすてをしない子（90%以上） 学級や学校が楽しい（100%）	児　童：「友だちを大切にし、呼び捨てしない」９８% 「学校生活は楽しい」９８%　「仲の良い学級だ」９８% 保護者：「楽しく学校生活を送っている」９７%	A		学級活動や児童会活動、縦割り活動等の教育目標に即して人間関係づくり、集団づくりを進める。	
	健全な倫理観の育成 道徳の授業改善（考え、議論する授業） 人権週間における人権学習の取組	児　童：「道徳の勉強は楽しい。生活に活かしている」９７% 教職員：「人権尊重の態度が育っている」８９%	B		多様な価値観に触れ価値観を高め合える道徳の授業改善を図る。個性を認め合える集団づくりを進める。	
地域、保護者と連携した安心安全で開かれた学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会･地域学校共同活動の充実 授業参観・学校行事への保護者参加（90%以上）	・コロナの影響により、当初予定していた行事や活動を実施することができなかった。 ・授業参観等にほとんどの保護者が参加してくださった。	C	B	感染予防対策をより一層徹底し、状況を見極めながら地域学校協働活動を再開する。	・小小・小中の交流を深めてほしい。 ・コロナの影響もあるが、今後も地域や保護者と協力し、充実した学校生活を送れるようサポートしてほしい。 ・感染予防対策に万全を期しながらできることからやるべきである。人とのつながりは大切だ。　・非常時に管理職に依存できない。教職員個々の危機管理能力が必要。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 小中連携による授業改善 園小中連携による児童支援	・６年生の合同学習は実施できなかったが、国語・算数・外国語活動・道徳の研究授業を実施できた。 ・入学予定児童の体験入学を実施できなかった。	A		小小・小中合同の授業研究会をさらに充実させる。感染予防対策を講じ園小の交流の機会を設ける。	
	安心安全な学校づくり 避難訓練の予告なし実施（年３回） 安全点検（月１回）　　分かる学校だよりの発行	児　童：「学校は安心」９７%　「安全に気をつけ廊下走らない」７１% 保護者：「健康や安全への配慮」９８%　「コロナへの対応」９５% 教職員：「保健安全について適切に指導できた」１００%	B		避難訓練をさらに工夫し、児童自ら命を守る行動がとれるようにする。日常の安全への意識を高める。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○アンケート結果は良好である。教師と児童、児童同士の結びつきも強く、みんなで仲良く頑張ってくれているということだと思う。 ○今年度はコロナの影響で心配していたが、本庄の子どもたちはいつもと変わらず毎日登校し、何事にも一生懸命取り組めていたと思う。 ○保護者が関わる行事が実施できなかったので、来年度は工夫して何かできないか考えたい。 ○読書については何年か課題に挙がっているが、未だに評価が低い。家庭での読書ができるようどうしたらよいかを子どもたちに考えてもらい、実行してはどうか。 ○コロナの影響により学校行事がかなり縮小されてしまったが、その中でも子どもたちはその場その場で対応し、今自分が置かれている立場・状況を受け止められていて、子どもの力を感じた１年になったと思う。その中でも授業時間数の確保、進行と日々努力された先生方には感謝している。心が不安定になった子どもたちもいたかと思うが、「先生は良いところを認めてくれる」の１００%は、先生との関わりで得られたことである。この環境の中、たいへん難しい課題だが、地域の方々と触れ合い感謝をし、本庄で育ったことを誇りに思える子どもたちを育ててほしいと願う。 ○小規模校特有の利点、欠点があるかと思う。 ○人と人、家庭と家庭、社会全体の関係が希薄になる中、コロナが追い打ちをかけて厳しい環境となっている。 ○過去にとらわれないニュースタンダードの構築が急がれる。手探りでできることから始めてはどうか。地域内の声かけはする。	B	【確かな学力の定着】 ★『読み解く力』向上に重点を置き、授業改善を図る。特に教材への深い理解・学び合いや深め合いの質の向上を図るための教師の働きかけに注目して授業力向上を目指す。（県の「『読み解く力』プロジェクト研究」への参加）　★児童の思考力や表現力の質の向上を目指し、語彙や表現法、言い回しなどのバリエーションを増やすための取組を行う。その一つとして読書指導をさらに徹底する。（滋賀県教育委員会より読書指導の専門家を招聘し、指導を仰ぐ。）　★宿題や自主学習の内容や方法等を学びの喜びを感じられるよう再検討し、学習習慣の定着を図る。　★ipad等のICT機器の活用法を追究する。 【心身のたくましさの充実】 ★引き続き体育的行事の充実に努めるとともに、児童の健康や安全に配慮して実施時期や内容について改善を図る。　★挨拶や返事などの人間関係を築くための基礎をしっかり躾ける。　★忍耐力の向上や人の役に立つ喜びを体感させるために勤労体験学習の機会を増やす。 【豊かな心の育成】 ★生活科や社会科、総合的な学習の時間を中心に地域を学ぶ取組を充実させ、地域への愛着や誇りを高める。　★児童会活動やクラブ活動、学級活動を工夫し、児童の主体性や協調性、自治能力等を高める。　★道徳や人権学習等の充実により、価値観や倫理観を高める。 【地域・保護者との連携、安心安全で開かれた学校】 ★『ほんじょうカフェ』の活用を促進する。　★学校行事等に祖父母や地域の方々もお招きする。　★学校運営協議会と地域学校協働活動の連動した取組を推進する。　★避難訓練や安全教室等をさらに工夫し、児童の安全意識を高める。　★登下校の安全を高めるための対策を講じる。

４段階評定（A　目標を十分に達成　　B　ほぼ目標を達成　　C　やや不十分　　D　改善を要する）

（様式１）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立安曇川中学校

学校教育目標	昨年度の評価概要	中期的目標
『確かな知性　かがやく良知 たくましい心身』	小中一貫教育については、合同学習や部活動体験、中学生との交流はよいが、小中9年間で一貫性のある指導の充実を目指すべきである。学び合い学習による授業改善については、校内研を核に推進したこと、生徒の学ぶ力を高めることや基本的生活習慣（学習習慣）を定着させること、学力向上に尽力することを継続してほしい。ツールドびわ湖を新しくキャリア教育をベースにした事業にすることについて大いに期待をしている。生徒指導（いじめ対応）については、学校全体の指導体制や関係機関との連携、課題生徒のニーズに応じた適切な支援ができたことはよい。生徒会の活動は保護者や地域、小学生からの注目を浴びている。コミュニティスクールや地域学校協働活動については生徒との交流やボランティア精神の向上を柱に安中カフェ・地域ボラセンやボランティア祭りなどの新たな取組への一定の成果と、今後への期待をする。教職員の働き方改革は、部活動や生徒への配慮など大変な状況は理解でき、その中で進めてもらいたい。	地域に誇りと愛着をもち 地域に役立ち 貢献できる生徒の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○小中一貫教育を推進する ・小中一貫した児童生徒の交流と学習指導を充実する。	・年間2回の小中学校をつなぐ児童生徒の交流活動に取り組む。	新型コロナウィルス感染拡大防止のため小学校合同学習は実施できなかった。入学説明会も分散して実施となったが、部活動紹介や学校生活の紹介を新校友会の役員が各小学校で行う予定である。例年、合同学習の成果として「新しい友達、中学校での授業の受け方、など知れて、安心して中学校に行ける。」という感想が多くあるが、その中学校への期待を膨らませることができなかったのが残念ではある。	B	B	学校ごとに開催した入学説明会に校友会役員が出向くことで小学6年生の安心感を得ることができた。今後も小中の生徒の繋がりを作る活動を展開していく。	・本庄小の保護者から、「校友会役員の生徒の皆さんが、中学校で日頃感じていることを話してくれ、大変分かりやすかった」と聞いている。コロナ禍でなかなか子どもたちの交流は難しいと思うが、入学生の不安解消にもなるので、是非そういう機会を続けてほしい。 ・小学校の子どもたちなりに不安に感じていることが、聞けたりしてよかったとも聞いている。小中一貫教育の一つの柱として繋いでいってほしい。、
	・小中学校教員による教科部会を機能させ、共同研究等の取組を推進する。	小中教員が6つの部会で、それぞれに目指す姿を共有し、9年間の学びをどのように展開していくかという話し合いが持てた。また、小中教員が合同で授業研究を行い、目指す姿にどのように結びつけるかなど、研究を進められた。今後は統一した児童生徒の9年後の姿を共有し、学び方をつないでいくことや教え方をつないでいくことを深めていきたい。さらに昨年度からの課題である規範意識の向上や家庭学習などの定着についても取組を進める必要がある。	A		目指す子どもの姿を各部会ごとに設定したが、それを一つにまとめ分かりやすくする。同時に、安曇川中学校区の小中一貫の柱といえる取組の構築を図る。	
○確かな学力を育成する ・生徒の学ぶ力を高める授業改善を推進する。 ・主体的・対話的で深い学びのある授業を展開する。 ・学力向上スタンダード8の実践	・校内研究を推進する。年間3回の授業研と全教員の授業を公開する。 （生徒自らが学ぼうとする授業となったかの確認）	生徒「集中して授業に取り組めている」83%　保護者「子どもは集中して取り組んでいるといっている」67%　全国学力学習状況調査は全国的な結果は出ていないが、国数ともに苦手な部分などは浮き彫りにされているので、苦手を克服し、自ら学びを進めていけるような授業の展開を工夫したい。今年の状況で全職員が集まった授業研究はできず、学年別開催となった。	B	B	生徒の学びが深まった、主体的な学びとなったという視点での授業展開をさらに進める。意欲的な学びに繋がる発問や工夫を進めていく。	・コロナ禍の中、日を分けるなどの工夫をして授業参観を3学期に実施したのは良かった。分散して密にならなかった。 ・全クラスとも意欲的な学習態度であった。また、生徒がしっかりとマスクをつけているのがよかった。1クラスだけ少ししんどいのではと思うこともあった。生徒の日頃の様子を知るという意味で、このような機会を工夫して設けていくことは大切である。 ・iPadが全員分入ったことは素晴らしい。スマホの所持率が上がり、指の操作だけで事足りることが多いが、大学などに行くとキーボードを使わなければならないことが出てくるので、このようなタイプのiPadを有効活用してほしい。 ・宿題の量や出し方を考え、家庭学習の定着に向けた取組を進めてほしい。自主学習であっても積み重ねになるような工夫をお願いしたい。 ・読み書きの力も忘れずに付けていただきたい。
	・学び合い学習を取り入れた授業を教員全員が実践する。 （授業が分かる：生徒80%、保護者60%） （ICTの効果的活用）	生徒「授業がわかりやすい」85%　保護者「子どもがわかるといっている」60%。「先生は工夫して分かりやすい授業を行っていると思う」生徒92%保護者67%と意識の差が見られたが到達目標には達してる。iPad等の情報機器を使っての授業への評価は生徒の94%が高評価で、今後も継続していく必要がある。	A		iPadは効果的に活用されている。更なる工夫を取り入れ、iPadを使うことが目的化しないように気を付けながらも、分かる授業づくりに効果的なICT活用を行っていく。	
	・学力向上アクションプランに基づき、学力向上を図る。 （家庭学習の定着、課題の出し方など）	家庭学習が習慣化している生徒61%　保護者58%と、昨年度より若干の改善が見られる。ただ明らかに定着しているという生徒は少なく、課題の出し方、ノースクリーン、小学校との統一した取組などを進めていく必要がある。	B		学習時間増より学習機会増につながる課題設定や内容の深化で定着に繋げていく。	
○豊かな心を育成する。 ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。	道徳の時間の内容の充実を図り、心と行動の変容を捉える評価の研修を推進する。	「道徳で学んだことを日々の生活に生かしている」生徒80%　「道徳や体験活動、行事で学んだことを日々の生活に生かせている」保護者57%、と意識の差が見られる。道徳の授業改善を進め、自分の心と行動に変容が見られるような指導を展開していく必要がある。	B	B	独りよがりにならない道徳の指導の工夫を行うため、先進校の取組に学んだり、学年内の授業研究をすすめていく。	・道徳での学びは大切である。地域コーディネーターが毎朝校門であいさつをしているが、毎日やる中で生徒の姿の変容が見られた。新校友会役員が週3回あいさつ運動を実施する中で中学生だけでなく小学生にもあいさつをし、小学生も大きな声で挨拶を返すというよい雰囲気ができつつある。このような関係づくりに繋がる道徳教育であってほしい。 ・かつて車椅子を利用している人から、「車椅子を押してもらいたいと思うことより、あいさつをしてもらうのがいい」という話を聞いた。無理やりさせるあいさつではなく自然と広がっていくことを願っている。
	体験活動を通して、豊かな心を育む。 1年：地域探訪　2年：キャリア学習　3年：体験的進路学習	コロナ禍の中、充実した体験活動を進められたのは1年生の地域探訪のみであった。キャリア教育の視点も含め、2年生で実施する人権学習、キャリア発達を促進する相談活動を主体とした3年生での進路学習には一定の成果が見られる。ただ、生徒、保護者、教師、地域が一体となって取り組める体験活動を再構築していくことも検討課題として残したい。	B		コロナ禍でもできる体験活動を模索し実践する。職場体験学習も地域の協力を仰ぎ、可能な限り進める。（特に次年度は3年生、2年生と、2学年で実施するため）	
○健やかな体を育む ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる力を育成する。	・保健指導、性教育、がん教育など健康の保持増進に特化した授業を行う。 ・体育の授業、部活動指導により心と体の成長を促す。	「部活動に意欲的に取り組んでいる」生徒93%　保護者83%と部活動に対する取り組み評価は高い。保健体育、食育、健康推進、性教育などコロナ禍における感染予防対策を十分に取りながら、日々の授業や特別な授業などを推進することができた。	A	A	今年度に引き続き、感染症対策を十分に行いながら、部活動などに取り組む。健康教育にも力を入れ、心と体の成長に努める。	・部活動が圧迫されていく現状の中で、どうやって体力づくりをしていくかが課題である。部活動には地域の力が必要だろうし、部活動に頼らない日常の活動の中での体力づくりを意識させる取組をしてほしい。
○支持的風土のある集団づくり ・すべての子どもの多様性が認められる豊かな人間関係を育む集団づくりを推進する。	・校友会や学級活動を柱にして支え合い高め合える集団づくりを推進する。（学校は楽しい：生徒90%保護者80%）	「学校が楽しい」生徒92%　保護者94%。「校友会活動は盛んで、意欲的に取り組んでいる」生徒73%　保護者64%。「学校祭に主体的に参加し、充実していた」生徒94%　保護者87%、と学級のまとまりが求められ、活動時の雰囲気が左右する取組への評価は高い。今後、生徒、保護者、地域の方から意見を参考に、開かれた学校教育を展開していきたい。	A	A	校友会活動の活性化を図るため、過去にとらわれない活動を創造させる。学校祭への取り組み方も精選を図る。	・いじめをなくしていくために、生徒自身がロールプレイなどで疑似体験をして、いじめをしている人・されている人の気持ちをお互いに理解し、なくしていこうという気持ちをもてるように、教師主導でない活動をぜひ続けてほしい。 ・いじめに直接かかわらない周りの子どもたちが駄目だといえる雰囲気づくりに力を注いでほしい。 ・学校に来れない生徒へのサポートを適切に行うため、各種機関と必要な連携を継続してほしい。
	・人権意識を高め、思いやりのある良好な人間関係を育む。（いじめを許さない：生徒90%） （学級はまとまりがある：生徒80%）	「いじめや仲間はずれ、嫌がらせは絶対に許さない、自分もしない」生徒96%保護者86%であった。学校生活の決まりを守っているという生徒も96%と多く、支持的な雰囲気は育っている。校友会活動のAIBや日頃の教育相談、生活ノートの機能、学期ごとのアンケートや見守りなどを継続し、小さないじめも見逃さない生徒の雰囲気づくり、教師のきめ細かな関わりなど危機意識を常に持って取組を続ける。	B		AIBの活動を充実させ、生徒の手でいじめを許さない雰囲気づくりを進めさせる。学級活動での合意形成を進める話し合い活動に力を入れる。教師の人権意識の高揚を図る研修に取り組む。	
○地域とともに歩む学校づくり ・学校・家庭・地域が連携し、子どもを育てる体制を構築する。	・学校運営協議会と地域学校協働活動をタイアップし、地域教材や人材の活用を推進し、生徒の育ちを支援する ・安中カフェを進化させ、生徒との交流を深める。	コロナ禍により安中カフェ、ボランティア祭りなどは制限せざるを得なかった。そんな中でも安曇川中学校サポートボランティアチームを発足させ、地域での生徒の様子の交流を中心に見守りをしていくこととした。学校運営協議会との連携を進め、このチームが主体的に動く活動を展開していきたい。 「地域の活動やボランティアに参加した」生徒は28%であった。今後も、地域の方々とともに支え合い、協力して地域を元気に、活性化を目指した活動を展開する予定である。	B	B	安曇川中学校サポートボランティアチームのメンバーの増員を図る。活動もボランティアからサポートへの広がりを主体的に進められるように働きかけ、地域学校協働活動と連携していく。	・継続的に学校サポートボランティアチームの活動への参加を呼びかけ、地域学校協働活動との連携を深めていきたい。 ・学校運営協議会のメンバーも幅広くし、多様な考え方や意見を取り入れ、学校の運営や生徒の健全育成にあたるという本来の活動を大切にしていきたい。

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	小中一貫教育の取組についてはコロナ禍の中でできなかったことも多い中、部会ごとの目指す子どもの姿の作成や合同授業研究などをしたことは評価ができる。さらに安曇川中学校区の小中一貫教育を充実させてほしい。授業改善については、学び合い活動ができにくい状況の中でも、話合い活動やiPadの積極的な活用をしていること評価できる。今後は更なる学力向上に向けた学校独自の取組などにも力を入れていただきたい。また、ツールドびわ湖に代わる地域と保護者と学校が一体となった活動も展開できればと考える。生徒指導の側面では、今年は全般的に落ち着きが見られ、授業への集中も見られることは評価できる。いじめ対応や、発達面での課題を抱える生徒への支援なども、関係機関と連携を図りながら進めていただきたい。また、教師主導ではなく生徒自らが自分たちの生活を向上させていけるような働きかけや取組の推進を図っていただきたい。地域コーディネーターが複数体制となり、朝のあいさつ運動や様々な活動に従事する中、生徒会や多数の生徒の変容が見られた。施設設備の面で、トイレの老朽化が懸念されるので、早急な全面改修への働きかけを進めてほしい。今年度は、部活動数の削減の協議・決定をしたが、数々の状況を考慮しながら将来的な展望をもって新たな部活動運営を構築していってほしい。安曇川中学校サポートボランティアチームの今後の活動の広がりに期待する。以上のことから、総体的にB評価とする。	B	次年度の小中一貫教育は、目指す子ども像を一本化し、学びを繋ぐ小中一貫教育、安曇川中学校区の特色を作り出していく。部会も再編し、次につながる取組にしていく。 新学習指導要領の全面実施に向け、主体的・対話的で深い学びを推進するため、生徒自らが学ぼうとする課題設定や授業計画を行うとともに、iPadを有効活用し、学び合い活動を重点的に取り入れた授業改善に取り組む。教職員が切磋琢磨する校内研究の充実を図る。 生徒指導の充実を図り、自己存在感・自尊感情・自己有用感を高める指導を、教育相談活動とタイアップしすすめる。また、3年間を見通した体験活動をベースにしたキャリア教育の充実を図るとともに、今まで学校と保護者、地域が一体となって創り上げてきた活動の再構築を構想し、次世代に繋がる発展的な取組を練り上げる。 校友会活動を中心に据えたいじめ防止の具体的な取組を推進し、特別活動や道徳教育の充実による人権意識の高揚、生徒指導委員会や生徒支援委員会、いじめ防止対策委員会による教職員間の横の連携をさらに機能させ、平和で安全な学校、地域に良さを発信する学校づくりをめざす。 学校の施設設備面では指摘のあるトイレ改修の要望を出しながら、自前でできる工夫で安心できるトイレ利用を進める。安曇川中学校サポートボランティアチームの拡大、学校運営協議会委員の拡大などで、主体的な活動を推し進める。地域コーディネーターとのタイアップを今年以上に推し進め、地域と学校が繋がる様々な取組を継続・構築していくとともに、中学生のボランティア活動の活性化で地域に貢献できる生徒の育成にも尽力したい。

4段階評定（A　目標を十分に達成　B　ほぼ目標を達成　C　やや不十分　D　改善を要する）

（様式１）

令和2年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島小学校

学校教育目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成

昨年度の評価概要	○ 小中一貫教育の推進 【わかる授業：B73%(保)、楽しい学校：B84%(児)、ICTを活用した授業：B63%（教）】 ○学力の向上 【家庭学習の目標時間達成：B 81%（児）/74%（保）、読書活動：B 65%（児）45%（保）】 ○豊かな人間関係づくりと社会性の育成 【いじめのない学校づくり：93%(児)/78%(保)、進んであいさつする：B 88%（児）/69%（保）】 ○児童の自主的体験的な活動を重視する。 【家庭での手伝い：B 73%（児）/65%（保）、学校でのそうじや当番活動への取組：95%(児)】 ○開かれた学校づくり 【地域と連携した教育活動：B 82%（保）、学校・学年・学級だよりの効果：B 88%(保)】

中期的目標	<中期的【3年間】目標(中間年)> ○「主体的、対話的で深い学び」の実現をめざし、カリキュラムマネジメントに基づく授業改善を図る。 ○基礎基本の習得を徹底し、学び方を身につける。 ○道徳教育を基軸に児童の個性や可能性を 最大限に伸ばす指導を進める。 ○児童理解を深め、人間的ふれあいを基調にした指導の充実を図る。 ○児童の自主的体験的な活動を重視する。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
【確かな学力の定着のための力点】 ●タブレット等のICT機器を活用した指導の工夫改善を進める。 ●「家庭学習の手引き」による指導を進め、ゆめノートを活用した自主学習の習慣を確立させる。 ●読書指導と読書環境の充実により、読書活動活性化する。	・小中教員の交流授業を拡充し、指導方法の改善により、学力の向上を図る。【授業でのタブレット活用100%（教師）】【「わかる授業」85%以上（児童）】	第2ステージで理科、英語、体育、音楽の4教科において、中学校教員と連携した教科担任制を実施できた。また、前期には小学校教員が、中学校の学習支援を行った。【「わかる授業」87.9%以上（児童）】	A	B	●ゆめノートを活用した家庭学習は、個人差が大きくなってしまいがちである。取組強化期間には、意欲の高まりがみられることから、サイクルで強化期間を設けることにより、学習意欲の向上につなげる。 ●読書活動の充実に向け、図書室の有効活用を工夫する。特に高学年には、朝読書にきちんと取り組ませるための手立てをもち、読書意欲を高めたい。	・教科担任制の取組はとても良いと思う。 ・学年が上がるにつれ図書室の利用が少なすなる。クラス全体で使う日の割り振りをするとよい。 ・家庭学習の取組が十分にできていない。次年度数値が上がるような工夫が必要である。
	・ゆめノートを活用した家庭学習の充実に取組む。 【家庭学習の時間を達成した児童が85%以上】 【1・2年:30分,3・4年:30～50分,5・6年:60～70分】	家庭学習の取組状況については、保護者と児童いずれも昨年度に比べて、大幅に数値を下げている。【家庭学習 保護者-19.9%/児童-11.1%】	C			
	・年間1・2年50冊3・4年30冊5・6年20冊以上読書 【読書活動 70%（児）50%（保）】	朝読書や図書館貸出カードのポイント制などに取り組んだが、読書活動の充実につながらなかった【保護者28.7%/児童58.9%】、	C			
【豊かな心の育成のための力点】 ●特別の教科「道徳」の充実に努め、自分事として生き方を見つめる道徳教育を推進する。 ●キャリア教育の視点を生かし、生き方を考える教育を推進する。 ●芸術や講演などの機会を通じて、心を耕し、豊かな感性を磨く教育活動を展開する。	・キャリア教育の視点を生かした道徳カリキュラムの作成を図る。	研究の成果物として、キャリア教育の視点を位置づけた道徳年間計画の見直しができた。	A	B	●本年度実施できなかった中学校や、地域・家庭と連携した道徳教育を推進するため、本年度策定した道徳年間計画の着実な実践を図る。 ●コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、文化芸術に触れる機会を設ける。	・文化芸術活動や生の芸術に触れる体験は心の豊かさを育む大事な機会であり、来年は是非とも検討すべきである。 ・道徳が楽しいと答えている率が増加し、また、自己肯定感も同様に増加しているので、今後の活動の充実に期待する。 ・やむを得ない事情はあるが、家庭・地域と連携した道徳教育の充実を期待する。
	・道徳の教材開発と家庭地域と連携した道徳教育を推進する。【家庭での手伝い：80%（児）/75%（保）】	家庭、地域の連携した道徳教育を推進できなかった。	C			
	・各ステージの活動を充実させるとともに、ステージを越えた児童生徒の交流、教職員の交流を推進する。 【九九道場,読み聞かせ,1/2成人式、MyCity高島】	ステージ活動は縮小して実施したため、期待する成果には至らなかった。	B			
	・全校の前で自分の考えや思いを発表する機会を増やす。	コロナ対応のため全校的な集会活動が実施できなかった。	－			
	・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。	当初計画の文化芸術鑑賞活動は中止された。	－			
【望ましい人間関係を土台にした生徒指導の推進のための力点】 ●人権意識の高い、いじめを許さない集団づくりのために、年間を通じて人権教育の充実に取り組む。 ●相手の立場を尊重し、礼儀正しい節度ある生活態度（あいさつ、時間を守る、掃除）を育成する。	・「ゆめタイム」や児童集会、行事等を通じて、友達や多様な人々との交流の機会を増やす。 【「学校が楽しい」85%以上（児童）】	多様な人との交流は、校内外通じて縮小したため、人とのコミュニケーションを経験させる機会は持てなかった。学校が楽しいとの回答は、87.4%（児童）/82.5%（保護者）となっている。	B	B	●縦割り集会や縦割り掃除を通じて、学級・学年集団を越えた交流機会を増やし、人と上手に関りつながる力の育成をはかる。 ●日常的な観察やアンケート等を通じて、いじめの認知件数を高め、深刻な事態に至らないよう、毎週の子どもの情報交換会だけでなく、いじめ生徒指導委員会の定例化を図る。	・学校が楽しいとの回答は高く、学校づくりの表れであると思う。一方で、一部の児童の問題について下級生への影響もあり、落ち着いた学校生活になるよう、学校、地域、家庭の協力が大切である。 ・いじめについては、特定の児童に被害があることから、引き続き十分なケアが求められる。また、保護者の評価が下がっているのか、取組のPRが足りないためではないか。
	・いじめのアンケートや啓発によるいじめ未然防止。 【いじめ認知件数10%減少】	いじめ被害にあっていない 95.8%、いじめの目撃 92.6%（児童） 【いじめ認知件数 R2：14件、R1：16件】	B			
	・人権意識を高めるための日常的な指導を充実する。	毎月の人権の日や12月の人権集会、道徳の授業、さらにはコロナ感染等を通じて、児童の人権意識を高める指導を継続してきた。	A			
	・縦割り遊びを設定し、望ましい縦割集団と真面目に取り組む態度を育成。【あいさつ、時間、そうじ85%以上（児童）】	縦割り遊びは実施できなかった。【そうじや係り活動 93.7%（児童）】 【あいさつの取組 68.6%（保護者）/90%（児童）】	B			
【小中一貫教育の推進】 ●小中合同授業研究会の充実を図る。 ●小中連携を推進するために、教員の交流指導を拡充する。 ●ステージ活動と全校縦割り活動の中で、主体性を引き出す児童生徒活動の推進する。	・「主体的・対話的に学びを深める子の育成」をテーマに小中合同授業研究会を充実させる。	定期的に道徳科の授業研究会を合同で実施し、指導力向上に努めた。その成果は、1月19日に関係者を対象に発表できた。	A	A	●学校運営協議会から地域協働活動への提案を求め、互いの存在意義を高めあう活動を検討する。 ●引き続き、小中一貫のこれまでの成果を、児童生徒や保護者が実感できるように、意識調査と広報を工夫する。	・小中一貫教育の成果は一定たっせできていると思われるが、家庭に向けての広報活動を増やす必要がある。 ・教科担任制と7年生の中学校校舎でのスタートは継続されることを評価する。
	・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る	【再掲】第2ステージで理科、英語、体育、音楽の4教科において、中学校教員と連携した教科担任制を実施できた。また、前期には小学校教員が、中学校の学習支援を行った。【「わかる授業」87.9%以上（児童）】	A			
	・学校運営協議会を定期的に開催し、評価をPDCAに生かして地域学校協働活動との連携を図る。	学校運営協議会と地域学校協働活動との連携が十分ではなかった。	B			
【健康な心と体の育成のための力点】 ●自らの命を大切にし、健康で安全な生活の実現を目指し、行動しようとする態度を育成する。 ●基本的生活習慣の確立をめざし、睡眠と食に関する指導を充実する。	・部活動体験を拡充する。 【増加率 参加者20%、実施回数30%】	6年生の部活動体験は、12月から毎週木曜日に拡充することができた。今年は文化部にも活動の幅を拡げることができた。	A	B	●児童の家庭での望ましい時間の過ごし方を身に着けさせるために、PTAと協働した活動を実現したい。	・コロナ禍で、テレビゲームの時間がとても増えたと思う。ノースクリーンデーはマンネリ化しており、PTAとより一層協力して進める必要がある。 ・部活体験で文化部が経験できたことは良かった。
	・PTAとの協働活動として、『ノーテレビデー』の取組を定着させる。	PTAとの協働活動が十分ではなかった。	C			
	・食育や睡眠の大切さを理解させ、基本的生活習慣を確立するための指導して生活に生かす。	早起き、歯磨きの生活習慣の定着について【80.7%（保護者）】 自分から進んでうがいや手洗いをして、病気の予防に心がけていますか。【91.1%（児童）】 コロナ対策を行うことで唯一子どもの生活にプラスになったことは、健康意識が高まったことである。	A			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	●コロナ禍により、大幅な行事の見直しやカリキュラムの工夫をされたことは、教員の大きな負担となったことである。その中で可能なことを実施していくことに苦労したことと思う。児童・保護者を含めて今までのように一堂に会しての集団活動が難しい中ではあるが、参観等により学校生活自体の発信も進めていく必要がある。 ●昔と違い、児童への接し方や、問題行動等の指導に気配りが必要になってきている。その反面、保護者の要望や意見が多くあり、対応に苦慮されていると思う。普段の教育活動はお便り等で知らせていただいているが、もう少し対外的にアピールできれば、保護者の理解も得られ、一定の評価につながるのではないかと思われる。 ●高島学園は、少子化の進展により、実質的に35人学級が先行されている。また、小中一貫教育についても、10年の着実な積み重ねにより、その地歩を固めている。コロナ禍の中で、簡単にはいかないと思わるが、教員以外の社会人を招きいれた学習を工夫すれば、児童の自ら学ぶ意欲の向上につながるのではないだろうか。	B	◎児童の安全安心の観点から、今年度、さまざまな学校行事を縮小または削減した。またそれに伴い保護者が、学校生活を目にする機会を縮減されることとなった。コロナウイルスの感染状況を見ながら、今年度の実施状況を改善し行く必要がある。そのことにより、関係者評価に指摘された、家庭・地域へのPRになり、開かれた教育課程にしていく。 ◎7年生を中学校校舎でスタートさせる大きな転換を行ったことから、施設ではなく教育活動で小中をつなぐために、ここ3年で取組んできた小中協働の教育活動の一層の充実を図る。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式１）

令和2年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立高島中学校

学校教育目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成

昨年度の評価概要	〈R元 学校評価 概要〉 ○学力（B）…学校生活の充実（A）授業がわかる（A）学習意欲（B）家庭学習（C） ○豊かな心（A）…清掃活動（A）あいさつ（B）教員の熱意（A）学校生活の充実（A） 道徳教育（A） ○健やかな身体（A）…行事・部活動（B）体験活動（A）学校生活の充実（A） ○地域とともにある学校（B）…情報の公開・発信（B）地域貢献活動（A） ○小中一貫教育（B）…「子どもおよび学習のつながり」（B）道徳教育（A） ●学校関係者評価（B）

中期的目標	○「主体的、対話的で深い学び」を実現するカリキュラムマネジメントに基づく授業改善 ○学習規律および基礎基本の習得の徹底 ○道徳教育を基軸とした個性や可能性を最大限に伸ばす指導の充実 ○確かな生徒理解と組織的な生徒指導の充実 ○生徒の主体的な活動の充実 ○家庭・地域とともにある学校づくりの推進

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
○学力の向上	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には85%、2学期には86%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A	B	①生徒指導の機能を生かした授業を展開する。 ②引き続き、タブレット等のICT機器の活用、思考ツールの活用、グループでの活動の導入等の工夫を図りながら個別最適な学びを保障して、思考・判断・表現する力の育成を図る。 ③家庭学習の定着のために、タブレットを活用しての学習方法や学習課題について工夫するとともに個別に相談に乗り、指導助言や補習をする。	・落ち着いて学習に取り組めており、教員の指導に工夫がなされ、成果が出ていると考える。 ・家庭学習については、長年の課題であるので、タブレットの活用も含めて検討し、改善を図ってほしい。
	授業がわかりやすいと感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には90%、2学期には87%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	意欲的に学習に取り組めた生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には74%、2学期には80%の生徒がAかB評価をしており、増加傾向にあるといえる。	B			
	家庭学習に意欲的に取り組めた生徒（7年70分、8年80分、9年90分） Ａ Ｂ 評価で60%以上	１学期には56%、2学期には55%の生徒がAかB評価をしており、昨年度よりも増加傾向にあるといえるが、目標には及ばない。	C			
○豊かな心の育成	清掃活動に協力して頑張れる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には91%、2学期には93%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A	A	①多くの生徒に基本的な生活習慣が身についていると考えられるが、社会性がより身につくよう、一層、指導の強化を図りたい。特に、学級活動や生徒会活動といった生徒自身の力、考えによる活動の充実を図りたい。 ②生徒と教員との信頼関係については、昨年度よりも生徒の評価が高まった。日常の教職員の丁寧な関わりが功を奏したと言える。研修を実施するなど一層の改善を図りたい。 ③9年間を見通した年間指導計画に基づき、道徳科と教科等とを関連づけ、道徳科の授業改善を図ることにより、生徒が自分自身について考えるようになった。今後は、この2年の研究成果を継続して活用することが肝要である。	・高島学園ならではのよさが表れている。引き続き、生徒のよさを引き出してほしい。 ・コロナ禍により、学校に対する生徒の期待感が高まったのではないか。他人や自己を見つめる道徳が成長につながっていると考える。 ・コロナ禍において、「高中祭」や9年の校外学習を実現したことを高く評価したい。 ・コロナ禍で制約がある中、生徒たちの連帯感や結束が高まり、それが自己評価や学校への信頼感につながったのではないか。
	家庭、学校、地域でしっかり挨拶ができる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には92%、2学期には90%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	時間が守れる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には95%、2学期には93%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には85%、2学期には86%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	教員が親身になって質問や相談に応じてくれると感じている生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに93%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
	道徳科の授業でよく考える生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに86%の生徒が、「自分のことについてよく考えている」と回答した。また、１学期、2学期ともに82%の生徒が、「道徳の勉強はためになる」と回答した。	A			
○健やかな身体の育成	部活動に満足している生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には82%、2学期には80%の生徒がAかB評価をしており、減少傾向にある。	A	A	①活動の充実を図るため、部活動を再編し、部活数を減らすことについて検討する。 ②教室ではできない学びを保障するために、明確な目的のある自然体験活動等の体験活動を来年度は可能な限り実現させたい。	・部活動については、何をもって満足しているのか、生徒の意識にずれがあるのではないか。 ・再編を図りながら、部活動でも学校全体が盛り上がるようにしてほしいl。
	学校生活が楽しく、充実していると感じる生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期には85%、2学期には86%の生徒がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A			
○開かれた、 信頼される学校づくり	学校、学園情報を定期的に発信し、保護者や地域の人々の来校機会を数多く設定する。	１学期には86%、2学期には85%の保護者がAかB評価をしているので、目標を達成していると言える。	A	B	①各種通信やホームページで随時、情報発信した。コロナ禍ではあるが、適切な来校の機会の設定や内容を検討したい。 ②地域住民の積極的な招へいを図るとともに、コロナ禍における地域貢献活動を模索したい。	・コロナ禍において、活動が制限されるのは仕方がない。 ・コロナ禍であっても、コーディネーターの中村さんのおかげで、地域とのつながりが実現できていることは評価できる。
	地域の行事やボランティア活動に参加する生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	全校生徒が地域の独居老人にメッセージを送った。	C			
○小中一貫教育の推進	「子どものつながり」「学習のつながり」の充実を図る。	教科担任制については、教員が専門性を発揮し、中学校の学習につながることを踏まえた指導ができた。第2、3ステージの活動については、新たな活動を実施することができた。	B	A	①7年の教室を中学校校舎に配置することを受けて、各ステージの活動の一層の充実を図る必要がある。 ②研究主題を新たに設定し、研究体制を整え、一貫教育のさらなる充実を図りたい。	・一貫教育が始まり、10年以上経過しているので、その目的等を保護者に再周知する必要がある。
	道徳科の授業でよく考える生徒 Ａ Ｂ 評価で80%以上	１学期、2学期ともに86%の生徒が、「自分のことについてよく考えている」と回答した。また、１学期、2学期ともに82%の生徒が、「道徳の勉強はためになる」と回答した。	A			

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・コロナ禍においても、学校の適切な指導により、生徒が充実した学校生活を送っていると感じた。 ・コロナ禍において、精一杯努力して、取り組んできたことを評価する。 ・生徒指導面でのトラブルが少なく、指導そのものが余裕を持って進められている。来年度の入学生には課題があったと聞くが、教職員が一致団結して、子どもたちを導いてやってほしい。 ・今年度の小学6年生のような混乱した状況に陥らないための方策も一貫教育の研究・研修の中で検討してほしい。 ・コロナ禍によりすべてが変わる中、創意工夫を凝らして学校を運営したことに感心した。生徒も学校の大切さや家庭学習の難しさを再認識したのではないか。 ・保護者と学校が共通認識を持って、一貫教育を一歩一歩進めてほしい。	A	・学園研究において、学力向上・児童生徒理解・児童生徒の交流に係る部会を設け、一貫教育のさらなる推進を図りたい。 ・タブレットの整備を受け、授業における活用と家庭学習における活用を検討し、学力向上に努めたい。 ・特別支援教育と生徒指導を融合して児童生徒理解を図り、適切な指導支援を行いたい。 ・学級活動や児童会生徒会活動において、子ども自身が主体的に活動する場を設け、子どもの力による学校づくりを推進したい。 ・道徳教育の研究成果を継続して活用することにより、児童生徒の心の育成に引き続き努めたい。 ・キャリア教育をとおして、将来、社会に参画しようとする社会性を育てたい。 ・部活動の再編による適正化を図り、その教育的意義を果たすよう努めたい。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式Ｉ）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭南小学校

学校教育目標	かがやくひとみ　～自律できるたくましさを育む～
	【目指す学校像】 ◎笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で下校 ○一人ひとりの居場所がある「安心」できる学校 ○自分もやってみようと「意欲」がもてる学校 ○子ども・教職員・家庭・地域 みんなで「協働」する学校
	【めざす子ども像】 ○自分も仲間も大切にできる子 ○自らあいさつする子 ○自ら努力し続ける子 ○自ら考え、聴く子

昨年度の評価概要	
◎学ぶ力の育成	授業が分かる（Ｂ）　話を聞く（Ｂ）　家庭学習（Ｃ）　読書習慣（Ｃ）　授業改善（Ｂ）
◎豊かな心の育成	いじめのない学校（Ｂ）　あいさつ（Ｂ）　こころ磨き（Ｂ）　自己肯定感・自己有用感（Ｂ）
◎たくましい心身	体力の向上（Ｂ）　望ましい生活習慣（Ｃ）　食育の推進（Ｂ）
◎保護者、地域との連携アップ	地域のボランティアが学校にどんどん入っていくことで地域と学校が一体化してきた

中期的目標	
◎学ぶ力の育成	○知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。
◎豊かな心の育成	○『人と関わる力』を伸ばし、『気づく力』 を身につけ『挑戦する力』『やり切る力』を育成する
◎たくましい心身の育成	○自分の体力の向上に関心を持つとともに、安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせる
◎９年間を見通した小中一貫教育の推進、学校に対する地域の理解や関心を一層高める	
◎授業力、学級経営力、課題対応力の向上を目指す活気のある教職員集団の構築	

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価		改善方策	学校関係者評価
◎学ぶ力の育成 ○全員参加の授業づくり（授業改善） ・魅力ある学習課題、導入、発問の工夫 ・考えを広げ、深める対話の工夫 ・「聴く力」「話す力」「伝え合う力」「読み解く力」の育成 ○基礎・基本の定着 ・つけたい力の明確化 ・個に応じたきめ細やかな指導 ○学習規律、学習習慣の確立 ・学習に向かう構えづくり ・学習環境の整備 ・宿題の出し方、評価の仕方の工夫 ・読書活動の充実 ○幼小中との連携 ・園校種の枠組みを越えた授業研究や実践交流	○全員参加の授業づくり（授業改善） ※授業の理解度、満足度への児童、保護者評価　90%以上 ※指導の工夫、授業改善の職員自己評価　90%以上 ※聴き合う教室の実現（児童、保護者評価）　85%以上	○「学習の理解度」の児童自己評価は93.1%、保護者評価は84.2%であった。 ○「意見の出し合い、友達の意見から考えを深める」の児童自己評価は89.0%。「わからないことを質問する」の児童自己評価は87.9%、保護者評価は76.3%であった。 ○授業の見える化、子どもと子どもをつなぐ意識の向上、ＩＣＴ機器の活用等、職員の授業改善意識は高まっているが、まだ十分な成果は出ていない。	B	B	○「主体的で対話的で深い学び」をさらに意識し、子どもの好奇心を刺激するとともに、子どもの力を引き出す授業を心がける。 ○ＩＣＴ機器の効果的な活用（児童の交流等）を実践し、交流する。 ○読み解く力、書く力、話す力の向上を意識した授業づくりに取り組む。 ○意欲、関心を高めるための魅力ある課題設定を心がける。	○授業への理解度について、児童評価が９０％を超えていることはとても良い。引き続き高い評価になるようにお願いしたい。 ○学習参観では、子どもたちの学習規律は良いと感じた。子どもたちの頑張っている姿を見ることができた。 ○コロナによる休業で、いつもに比べ授業のスピードが速かったため基礎・基本の定着に影響があったのではないか。 ○二極化を解消するための手立てが必要になっている。 ○家庭学習について、児童と保護者の評価に１５ポイントの開きがある。家庭学習の取り組みの差も学力の二極化の原因と思う。 ○計算ドリルの答えを写して、宿題ができたとしている子もいる。家庭学習の手立ての改善が必要になってきている。 ○人材を活用したきめ細かな指導が継続されることを望む。 ○「よく学ぶ」については、授業を見ないと答えられない。コロナ禍により参観も少なく、何を参考に答えたのだろうか。 ○読書については、数値だけを見ると課題と言えるが、どの家庭にもゲーム機があり、スマホがある現状を考えると、読書に親しんでいるのではと考えられる。 ○タブレットを使うことで、子どもたちの興味・関心、意欲が向上している。工夫して活用するとともに、わかりやすく、工夫してまとめる等、ノート指導についても大切にしてほしい。
	○基礎・基本の定着 ※支援の必要な子を意識した授業の流れの工夫、説明や指示、板書の工夫 ※ＩＣＴ機器の効果的な活用 ※「読む、書く、話す」等、表現力の向上 ※学ぶ力向上策の実施、つけたい力の明確化	○ＴＴ、少人数指導、支援員による補助等、本校の人材を最大限活用し、個々の児童の様子を共有しながら取り組めている。 ○１時間の流れの提示、導入の工夫、端的な言葉での指示、タブレット、書画カメラの効果的な活用など、きめ細やかな指導が意識できている。 ○表現力、思考力向上のための言語活動の充実が課題である。	B		○基礎的な計算でつまずいてしまう児童もいるため、つけたい力を明確（卒業までにここまでは）にし、反復練習を積み重ねていく。 ○学習活動の複数の展開を考える、教材の選択や開発の工夫等、個に応じた指導の在り方について研修を深める。 ○目的を明確にした言語活動で、思考力、判断力、表現力を育む。	
	○学習規律、学習習慣の確立 ※学習に向かう構えづくり（物の準備と心の準備） ※誰もが落ち着いて、安心して参加できる教室環境を整える ※宿題の出し方、評価の仕方の工夫 ※家庭学習、読書の習慣化　80%以上	○「家庭学習」の児童自己評価は89.0%、保護者評価73.8%であった。「読書習慣」の児童自己評価66.4%、保護者評価は43.6%であった。引き続き課題となっている。 ○学年の実態に合わせ、学習に向かう構えづくりを継続して指導ができた。児童は学習の約束が身についてきたが、まだ十分でない部分もある。 ○「自分で計画を立てて勉強する」「授業と家庭学習のつながり」が課題である。	B		○宿題の出し方や評価を工夫し、達成感が持てるよう改善していく。 ○授業と家庭学習がつながるように予習を意識させていく。 ○児童が自然に本に手にとれるよう授業で積極的に図書室を活用する。 ○クラス会議で「学習の約束」について話し合う機会を持つ等、児童の意識を高める取組を実施する。	
	○湖西中学校区小中一貫教育の推進 ※「つながり」「１５の育ち」を意識した取組の推進 ※保育・授業統一公開日を軸とした共同授業研究システムの推進 ※教科担任制による中学校への円滑なつなぎ	○児童が成長していく過程（過去、未来）について教師の思いやつながりを発見できた。 ○小学校において身につけなければならない力を考えるとともに、保幼小中の縦のつながりを意識することができた、実践がまだ十分でない。 ○教員の指導力の向上、学力保障のための保幼小中合同の授業づくりに努めた。 ○コロナ禍により子どもたちの交流ができなかった。	B		○キャリア教育の視点で、将来を見据えてつけていかなければならない力を共有し、児童にも伝えていく。 ○３学期を次の学年の０学期として、児童に「つながり」を意識させる。「目標（ゴール）」を定め、「計画・準備」「実行」「振り返り」のサイクルを回し、次への思いを膨らませる。	
◎豊かな心の育成 ○互いの違いを認める心の育成（人権教育） ・「Ｉ」を伸ばす：自己成長 ・「Ｗｅ」の世界を広げる：人と社会との関わる力を伸ばす ・いじめを許さない学校づくり ○思いやりの心を育む（道徳教育） ・居心地の良い学級、学校づくり ・心が温かくなる経験を積み重ね、人を思いやる心を育てていく ○豊かな人間性、社会性を育む（ｷｬﾘｱ教育） ・役割や責任を果たし、役に立つ喜びを体得し、集団の中で自分を生かす（自己有用感） ○特別でない特別支援教育の推進 ・児童を見取り、「困り感」に寄り添い、児童にとって一番良い方法を考え対応する ○凡事徹底の学校風土の構築 ・当たり前のことが当たり前にできる子の育成 ・こころ磨き清掃の定着	○互いの違いを認める心の育成（人権教育） ※「学校が楽しい」への評価　90%以上 ※「いじめのない学校づくり」への評価　90%以上 ※マイクラススローガンの達成	○「学校が楽しい」の児童自己評価、保護者評価とも90%以上となった。 ○「いじめのない学校づくり」については児童評価が97.1%、保護者が89.7%であった。教師の丁寧な対応、学校全体で情報を共有し、組織対応を徹底した成果が出ている。 ○月曜日の児童の様子の共有、教務部会、生徒指導部会での対応の検討などによって素早く動くことのできる組織となってきた。	A	A	○「見えないいじめ」にも対応できる力量を伸ばすため、いじめへの対策や支援の在り方、集団作りの研修を継続する。 ○児童の発言や行動に敏感になり、児童の人権意識を高めていく。 ○組織的な対応を堅持し、児童、保護者の安心感につなげる。 ○マイクラススローガンを軸とした学級経営を引き続き行う。	○「学校が楽しい」「いじめのない学校づくり」については、児童・保護者ともよい評価であることがうれしい。 ○以前よりは子どもたちが落ち着き、大きなトラブルもなく、全体的に良い状況にあることはとても良い。そこに安心することなく、丁寧な対応をお願いする。 ○いじめは些細なことから始まるとの認識を共有し、引き続き、未然防止、早期発見、早期対応にぶがけて欲しい。 ○協力してやり遂げる、みんなで解決するについて、９０％を超えており、仲間意識の高まりが感じられる。今までの取組の成果としてとらえ、さらに、子どもたちの良さを伸ばしてほしい。 ○あいさつについては、十分でないところもあるが、目を見てあいさつできる子も増えてきている。あいさつの意味、大切さを感じさせてほしい。 ○新型コロナウイルス感染症対策で、学校行事の中止・縮小等、子どもを育てる、ダイナミックなことができない状況であったと思うが落ち着いた子どもたちの様子を見て、先生方の工夫、努力に感謝するとともに、子どもたちの努力にも感心している。 ○学校生活の中での触れ合う全ての事柄で、優しさ、温かさ、大切さ等について互いに感じ合える心を育てて欲しい。 ○ルールを守る意識は高まっているのだろうか。登下校の様子を見ているとまだまだのように思う。 ○子どもたちの良い姿、プラス面をもっと認めていくことも大切。
	○思いやりの心を育む（道徳教育） ※多様な考え方、感じ方と出会い、交流できる道徳の授業の実践 ※思いやりの心の育成への評価　90%以上 ※支持的な学級づくりへの評価　90%以上	○「思いやり」の児童自己評価は96.4%、保護者評価は89.3%、「支持的な学級」の児童自己評価は96.4%、保護者評価は93.8%であった。 ○「協力してやり遂げる」の児童自己評価は91.2%、「みんなで解決する」は93.4%であり、児童の中に「居心地のよい学級、学校」づくりの意識の向上が見られる。 ○道徳の学習が生きていると感じる場面が多くなった。	B		○「相手の気持ちを想像する」「相手の気持ちは自分とは違うと知る」等、児童の共感力を育む教師の働きかけを重視する。 ○答えが１つではない道徳的課題を、児童が自分自身の問題と捉え、課題に向き合い、思いを交流できる授業づくりに努める。 ○実践の交流、児童の変容の見取り方等の研修を充実させる。	
	○豊かな人間性、社会性を育む（ｷｬﾘｱ教育） ※学校行事、体験活動への評価　90%以上 ※自己有用感と自己肯定感を育むへの評価　90%以上 ※特別活動、学活の充実	○「学校行事、体験活動」については、児童、保護者評価とも95%を超えた。 ○「自分にはよいところがある」と答えた児童は88.3%であった。 ○クラス会議が軌道に乗り、「みんなで決めて、みんなで実践する」「自分たちで解決する」という姿が見られるようになった。 ○「児童の育ち」を意識した取組への転換が見られてきた。	A		○一人ひとりが活躍できる場面を増やすことに努め、居場所があり、やりがいのある居心地のよい、楽しい学級・学校づくりを実現する。 ○児童による見童のための活動を重視する。それぞれの学年に求められる姿を児童が理解し、役割を果たす経験を積ませていく。 ○「良い・悪い・次は」の視点で振り返らせていく。	
	○特別でない特別支援教育の推進 ※個別の支援計画の活用 ※「わが子が大切にされている」という保護者を増やす ※「困り感」を感じたり、察したりする感性を磨く。	○一人ひとりに必要な力をつけるため、個に応じた支援計画を実行している。児童の状態や成長に合わせて臨機応変に変えている。 ○個に応じためあてを設定し、達成までの過程を認めていくようにした。 ○朝、学習中、休み時間の表情を見取り、気になることについては保護者と共有し、改善に向けて動くことを意識していた。	A		○巡回相談の活用、通級指導教室がある利点を生かし、理解推進、支援の在り方を研修することを通し、指導力の向上をめざす。 ○一人ひとりの多様なニーズに対応した学びの構築を目指し、個別の支援計画の効果的な活用、さらに保護者との共有に力を入れる。 ○児童の見取り方、対応等の実践交流、研修の充実。	
	○凡事徹底の学校風土の構築 ※決まりやルールを守る　90%以上 ※あいさつをする　90%以上 ※心磨き清掃の定着	○「決まりやルールを守る」の児童自己評価は95.6%、保護者評価は90.8%、「あいさつ」の児童自己評価は94.2%、保護者評価は86.0%であった。 ○相手の目を見て、気持ちのよいあいさつができる児童は少ない。 ○時間が来たら掃除場所に向かうことは当たり前になっているが、最後までしっかり頑張るという姿が見られない。教師の目がないとまじめにできない児童もいる。	B		○「凡事徹底はまず教師から」をスローガンとして、児童に望む姿を教師が見せることで、自ら気づく姿勢を育む。 ○「望ましい姿」を児童と共有し、児童会の取組を活性化させる。 ○当たり前のことを当たり前にできる力を育むため、その意義を理解させ、同じ姿勢で、指導しきる。	
◎たくましい心身の育成 ○健康への意識向上 ・基本的生活習慣の確立 ・健康への意識を高め、実践につなげる ・食育の充実 ○バランスのとれた体力・運動の力の育成 ・魅力ある体育授業（授業改善） ・運動に親しむ環境づくり ○自分の安全を守る意識と力の育成 ・安全に関わる課題に対し的確に判断し、適切な意志決定や行動選択ができる能力を育む ○やり切る姿勢（やり抜く力）を育てる	○健康への意識向上 ※健康に気をつけて生活することへの評価　85%以上 ※早寝・早起き・朝ご飯への評価　90%以上 ※食に関する指導の充実	○「健康に気をつけて生活する」の児童自己評価は95.6%、保護者評価は92.6%であり、「生活リズム」の児童自己評価は84%、保護者評価は83.4%である。 ○健康な生活、生活リズム、朝ご飯の大切さを理解しているが、実践にまで高められていない状況もある。朝から不調を訴えたり、表情のさえない児童も少なくない。 ○担任だけでなく、栄養教諭、養護教諭と連携した指導がなされている。	B	B	○健康の基本となる生活習慣を、自ら進んで見直すことができるような働きかけを継続し、時間を管理することの大切さに気づかせる。 ○睡眠指導、給食指導等、学校の取組を実生活で生かせるように、児童の自己評価、振り返りを重視し、改善につなげる。 ○学校の取組の発信、啓発など保護者の協力を引き続き呼びかける。	○登下校の様子が悪い。道いっぱいに広がっているし、車が来ているのに端によらない等、マナーが悪い。また、鬼ごっこをしながら、帰る班もある。注意しても聞かない。 ○危機管理の内容が保護者にまで伝わっているのだろうか。緊急時に指示を待つだけでなく、児童が考え、判断して動くことも大切になる。危機管理、安全指導の工夫、改善が必要では。 ○集合場所での会話は、ゲームのことが多い。ゲームばかりしているのではと思う。小さい頃からの生活の乱れも気になる。親の生活リズムに合わせて生活している子どもが多いように思う。どのような取組が必要か考えたい。 ○保護者がどれだけ意識して、生活リズムを守らせるかが鍵となる。低学年の時によい習慣をつけることで、大きくなっても守れるようになるのではないか。
	○バランスのとれた体力・運動の力の育成 ※体力の向上、運動への親しみへの評価　90%以上 ※体育授業、体育的行事の工夫改善	○「運動への親しみ」の児童自己評価は89.4%、保護者評価は76.0%である。 ○体育授業、運動会の練習等、めあてを持ち主体的に参加している児童が多くなった。 ○楽しさがあり、達成感のある体育学習になるよう工夫がある。 ○できないから、失敗したくないから等、苦手意識を持つ児童への指導が課題である。	B		○個別の目標を重視し、個々の伸びに着目した指導を工夫し、児童の挑戦意欲、進んで体を動かそうとする意欲につなげる。 ○学校で統一した体育カードを作成する等、6年間を通してめあてをもてる継続した取組を実施する。	
	○自分の安全を守る意識と力の育成 ※安全に関する指導への評価　90%以上	○「非常時に適切な行動がとれる」の児童自己評価は95%以上だが、保護者は59.9%であり、保護者は安全への意識、行動に不安があることがわかる。 ○廊下歩行、登下校の様子等から、危機管理意識の向上が課題である。	C		○施設・設備の管理の在り方や危機回避能力を育てる安全教育への意識を高め、理解して、意識して、行動できる児童を育成する。 ○機に応じた指導、教師の危機管理意識の向上を図る。	
	○やり切る姿勢（やり抜く力）を育てる ※やり抜く力の育成への評価　90%以上	○「やり抜く力」の児童自己評価は94.9%、保護者評価は81.1%であった。 ○めあてを持ち達成すること、最後まであきらめずにやり抜くことについては、常に意識させるようにした。成果が少しずつ出てきている。	B		○教師も児童もめあて、数値目標を持ち、めあての達成のための方法を考えながら取り組んでいく。 ○やりきった感、達成感を味わわせる。	
◎教職員の教育力を高める ○学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ・校内研修、ＯＪＴ研修の充実 ○チームで勝負する教職員集団 ・生徒指導力の向上 ・教育相談力の向上 **◎地域とともにある学校づくり** ○良きパートナーとしての協力体制の構築 ・学校：確かな学力、安全な環境を整える ・家庭：心身の健康、生活習慣、規範意識の基盤 ・地域：安全な地域作り、多様な体験の場 ○学校運営協議会の充実 ・学校の視野を広げ、幅広い見方からの意見を適切な判断につなげていく ・協働、相互参画による教育活動の充実	○学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ※ＯＪＴ研修の充実 ※授業力、学級経営力の向上のための学び合い	○コロナ対応もあり、ＯＪＴ研修の機会が少なくなった。 ○質問しやすい職員室の空気があり、職員間の「情報交換」「学び合い」「相談・伝承・交流」が活発になった。	B	B	○「学び続ける教員像の確立」を学校経営計画に明確に位置づける。困ったことを相談しあえる研修、ニーズに合った今必要な研修、自ら学ぶ研修等、職員が主体となったＯＪＴ研修を実現する。 ○自らの指導力向上が組織力向上につながることを意識する。	○「先生、学校の対応」について、児童評価も保護者評価も高いことがうれしい。この良い関係がこれからも続いていくよう努力してほしい。 ○今年度、子どもたちの学習の様子を見ることができた。先生方の工夫を知ることもできた。資質向上、よりよい学校づくり等、終わりの見えない仕事であるが、これからも頑張ってほしい。 ○子どもたちの強みと弱み、めざす子ども像の改定等、先生方と同じテーマで話し合う機会があってよかった。 ○コロナがあり、学校の活動への参加に制限があり残念だった。次年度、状況がどうなるかわからないが、引き続き協力していきたい。 ○学校から話があれば、地域は何らかの参加ができるので、今後も呼びかけを行って欲しい。 ○今まで以上に、学校と家庭が協力し合い、子どもを育てて欲しい。
	○チームで勝負する教職員集団 ※組織対応力の向上（報連相＆記録の徹底） ※学校運営参画意識の向上 ※人間関係づくり（思いを聴く）を第一とする児童・保護者との対応	○毎週金曜日に教務部会を開催し、児童の状況の確認、課題対応の協議、情報共有が図られ、同じ方向で行動できる組織となっている。 ○情報を共有し、チーム取り組む生徒指導につなげ丁寧な対応ができた。 ○「思いを聞く教師」への児童評価はすべての項目で95%以上であった。	A		○子どもを語る会、生徒指導部会、教務部会の充実 ○日々のしかけを重視し、児童との信頼関係を強め、話しやすい、相談しやすい環境を整える。 ○「報連相＆記録」の徹底。	
	○良きパートナーとしての協力体制の構築 ※相談できる教師、相談できる学校への評価　90%以上 ※情報提供への評価　90%以上	○「相談できる教師、学校」への保護者評価は86.3%、「情報提供」「目指す学校像、児童像の共有」への評価は90%以上であった。 ○学校便り、保健便り、学級通信、ＨＰで学校の様子は伝えられている。 ○少しのことでも保護者に連絡を取るように心がけた。	A		○家庭と学校とが良好につながり、その信頼関係を基盤として、学校と家庭が共に子どもを育てていくことを認識する。 ○保護者との「報連相」を重視する。 ○タイムリーな情報提供をこころがける	
	○良きパートナーとしての協力体制の構築 ※学校運営協議会の効果的な開催 ※南小夢の会の会員増	○非常に協力的な地域の方に感謝している。今年度は協力いただく場が設定できず残念。 ○学運協委員の方と児童の強み・弱みについて意見交流でき、教師が見えていない部分を共有できたこと、地域とのつながりを感じることができた。 ○地域の方に来ていただくことで、児童の学習態度が前向きになる。	B		○児童の学校での様子を知っていただいたり、個々の職員の思っていることを伝えたりしながら、一層の協力を得る努力を続ける。 ○学運協委員との熟議を継続し、教育課題への取組をともに考え、実行する体制を充実させる。	

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○分析と評価が適正になされ、それを受けてしっかりと改善方策が考えられていると思う。子どもと保護者、教師の評価が一致するよう、子どもと思いの共有、保護者との連携をさらに意識し、日々の取組を工夫・改善しながら続けて欲しい。 ○児童、保護者のアンケートの結果もよく、今の取組を継続するとともに、新しい発想で新たな取組も実施してほしい。学校経営の方針として大切にされている『自己有用感』の育成は、人間形成の土台となり、宝になると考える。めざす子ども像の達成に励んでほしい。 ○先生の力量アップとともに、ぜひ元気に子どもと向き合ってもらいたい。心身の余裕がなければ、子どもたちにとって意欲の高まる授業、楽しい学校にならない。子どもたちも、先生方にとっても、笑顔で登校し、笑顔で学び、笑顔で帰る学校であってほしい。	B	○わかる、できる、考える楽しさが味わえる全員参加の授業を全職員がめざす。主体的、対話的で深い学びの実現に向け、児童の好奇心を刺激するとともに、児童の力を引き出す授業を心がける。 ○授業と家庭学習がつながるように予習を意識させていくことで、学習習慣の定着につなげる。基礎基本の定着に向け、教材の選択や開発の工夫等、ＩＣＴ機器の効果的な活用など、個に応じた指導を充実させる。 ○自己有用感、自己肯定感を育むため、一人ひとりが活躍できる場面を増やすことに努め、居場所があり、やりがいのある居心地のよい、楽しい学級・学校づくりを実現する。 ○いじめのない安心できる学校づくりに子どもたちと一緒に取り組み、人と関わる言葉を大切にしながら、支え合う温かな人間関係を築いていく。 ○健康の基本となる生活習慣を自ら進んで見直し、自分の健康、体力に関心を持ち、自分の命を自分で守る意識を高めるための健康・安全教育の向上を目指すとともに、やり切る力の育成を重視していく。 ○「学校・家庭・地域がつながり、地域の宝である子どもを守り育てる」ために、「目指す子ども像」を学校、保護者、地域で共有するとともに、地域人材、地域素材を生かした教育活動を充実させる。 ○引き続き、「学び続ける教員像の確立」を学校経営に位置付ける。また、これまでの取り組みを継続・発展させるために「学校運営への参画意識」の向上を図る。

（様式1）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立新旭北小学校

学校教育目標	「自ら学ぶ子どもの育成」 夢や目標に向かい、仲間と学び合い、支え合う子ども

昨年度の評価概要	・「小学校サポートパック事業」(国語)・計画的な道徳の研究授業により、「授業改善（児童の主体的な学び等）を意識して授業に取り組めた。」(職員評価94%)と意識の高まりがみられた。 ・人権集会や毎月の「人権の日」の設定を行い、機会を捉えて指導をした。いじめ、仲間外れにしない(子ども90%)、仲の良い子がいる(保護者97%)。 ・むし歯の治療勧告率は34.1%、今後はフッ化物洗口の効果を検証する必要がある。受診率は64.5%(H30)→72.8%（R1）と改善された。 ・地域学校協働本部と「北小希望の会（保護者ボランティアの会）」は会員が増え(46名)、ボランティア活動の内容も充実してきた。 ・学校だより、学年だより、学級だよりをタイムリーに発行し、学校の様子を伝えた。緊急時のメール配信も有効にできている。(保護者94%)

中期的目標	＜中期的（3年間）目標＞ ・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上 （生活習慣・学習習慣の確立） ・教員の授業力の向上 （授業改善と個に応じた指導） ・地域とともにある学校づくりをめざす （学校運営協議会　地域学校協働本部）

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
◎やさしい子 ●思いやりのある、差別やいじめのない学校づくり（たてわり活動・あいさつ運動） ●読書活動の充実（家読、読み聞かせ） ●基本的な生活習慣と行動様式を身に付け、時と場に応じて行動できる子 ●保護者との対話、きめ細かな個別対応	言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いができる。	適切な言葉遣いができている、児童評価83%、職員評価53%。子どもたちは言葉の使い分けができていない。	C	B	友達と目上の人に対する言葉の違いなど全職員で共通理解をして根気強く指導をしていく。	○挨拶ができるようになってきたように感じるが、特定の子に限られている。挨拶も言葉遣いも「なぜそうすべきなのか」を説いて根気強く指導すべきである。 ○読書習慣に個人差が大きい。読み聞かせの活動を復活させ、読書に興味を持たせたい。 ○道徳の学習参観は継続するべきである。
	自分から進んであいさつと素直な返事ができる。	「自分からあいさつができた」児童評価87%、職員評価53%、意識に差がある。校内よりも登下校時の挨拶に課題がある。	C		縮小していた児童会の「あいさつ運動」を状況をみて復活させ意識を高める。	
	読書に目標を持ち、進んで読書ができる。	図書室ボランティアによる環境整備は引き続き継続中。「本をたくさん読んだ」児童評価74%。	B		家読をさらにすすめるとともに、各学級での取組を拡げ、全学年に波及効果を生む。	
	仲間はずれやいじめをしない、負けない、許さない。	人権集会は中止したが学年の取組掲示は有効。毎月の人権の日にも指導。「いじめ・仲間外れにしない」児童評価92%、「仲の良い子がいる」保護者評価97%。	A		道徳の学習参観(保護者も考える)を継続。教師の人権意識を研ぎ澄ませる研修を仕組む。	
◎かしこい子 ●学習規律を整え、秩序を大切にした授業づくり ●基礎・基本の徹底 ●ペアやグループで主体的に学び合う言語活動の充実 ●授業とつながる家庭学習 ●子ども一人ひとりの努力と学習の過程の見取り ●郷土の良さを知る学習（藤本太郎兵衛、針江かばた、高島晒）	学年に応じた学習規律の確立を図る。	学年に応じて学習規律の徹底を図っている。「規律の徹底が図れている」職員評価95%。	A	B	湖西中学校区で共通理解を図り、「学習のきまり」を常に意識させながら指導する。	○家庭学習がんばり週間は、内容を重視したい。時間だけ無駄にかけている子は意味がない。マンネリ化している子と身についていない子も。 ○ICT活用学習は効果的。プログラミング学習を参観したが、子どもの気持ちも盛り上がっていた。1回きりの体験ではもったいない。継続も必要。 ○「読んで考える」「自分の考えを説明する」といった面を伸ばす必要があるように思う。 ○教科担任制は、さらに推進すべき。
	楽しい・わかる授業を心がけ、個別の能力を見とり、一人ひとりを伸ばす学習に努める。	「理解できている子が8割以上」職員評価(国78%・算67%)「少人数指導や複数指導・教科担任制の効果」職員評価100%	B		児童の達成感を高める朝学習(基礎基本を大切に・発展的学習にもチャレンジ)を工夫する。少人数体制は工夫して継続する。	
	言語活動をはじめ、児童が主体的に学べるよう学習方法を工夫する。	「授業改善（児童の主体的な学び等）を意識して授業に取り組めた」職員評価94%。	A		教科担任制やタブレットの活用(友達の考えを共有する等)で新たな取組をし、効果を検証する。	
	家庭学習を学年×10分以上行う。（1・2年生は30分間）	「家の勉強をしっかりしているか」児童評価86%・保護者評価80%。未達成者は固定化しつつある。	B		家庭学習の目標未達成者には、保護者への協力要請、難易度に差異を加える工夫をする。	
	郷土への認識を深め、郷土愛が育つ学習を仕組む。	「総合的な学習の時間は地域の実情を生かし、探求的な活動を展開できた」職員評価75%。感染症対策の影響で十分な学習ができていない。	B		代替例(園児との交流不可→DVD作成)を参考に感染症対応下でもできるアイデアを追究。	
◎強くたくましい子 ●遊びを通した仲間づくりと体力づくり ●体育の宿題の定着と運動能力向上の全校的な取組(なわとび・マラソン強化月間等) ●食育を通した健康な体づくり・「早寝早起き朝ご飯」の推進 ●安全に対する意識と態度の育成（防災・交通安全・不審者）	外遊び・集団遊びを推進する。	学級でみんな遊びの機会を設けた。マラソン練習や縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。「毎日30分以上の外遊び」児童評価78%。	B	B	マラソン月間、なわとびタイムと同様に季節性の重点を絞って実施。週1回は集団外遊びを継続。	○「体育の宿題」は家族を巻き込んで取り組んでいる。ぜひ継続してほしい。 ○遊びのなかに学びやルールを守るといった大切な要素がある。学級の外遊びも大切にしてほしい。 ○飯盒でご飯を炊く等貴重な体験ができ、有意義であった。 ○愛鳥の森の利用等、体験活動を復活させたい。
	『体育の宿題』に年間通して取り組む。	季節や体育の履修内容に応じた「体育の宿題」を工夫し、年間を通して実施。毎朝提出することが習慣づいた。	A		体育の宿題を継続。体育科学習中の運動領域とリンクし達成感を得る工夫をする。	
	スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。「ノースクリーンウィーク」を推進する。	「ゲーム等決められた時間を守れているか」児童評価85%、「ネットやメールをあまりしない」保護者評価60%で認識の差あり。	B		各家庭間の情報共有により個々の取組にとどまらず全体的に意識を変革させる必要がある。	
	「早寝早起き朝ご飯」を推進する。	「早寝早起き朝ご飯の生活リズムがついている」保護者評価87%・児童評価82%。「夜10時までに寝る」児童評価71%。	B		とくに高学年で生活リズムの乱れ(夜更かし傾向)が強い、家庭への啓発や睡眠学習の実践に努める。	
◎つながり響き合う教育 ●タテのつながり(湖西中学校区での『学び合い』に視点を当てた授業・保育交流の推進) ●ヨコのつながり(地域と学校が一体となって子どもを育てる意識の醸成・地域住民の学校運営への参画) ●未来とのつながり(将来を見据えた教育活動の展開・社会や団体への貢献を感じる活動の展開)	湖西中学校区保幼小中一貫教育を推進する。	密をさけながらも統一研修日を実施した。「有意義に感じ、積極的に取り組んでいる」職員評価100%。	A	A	授業・保育や子どもの実態について校種の異なる立場で協議する機会を積極的に増やす。	○大規模改造工事の期間中、湖西中学校での授業の意義は大きかった。今後ますます先生方どうしの交流を進めていくことに意義を感じる。 ○地域性を生かし、タテ・ヨコのつながりをさらに充実させたい。 ○地域への愛着やキャリア教育の視点から、本校出身で各分野で活躍している人を講師に招くなど、意識を高める活動を工夫したい。
	学校運営協議会と「北小希望の会」による地域とともにある学校づくりを推進する。	地域学校協働本部と「北小希望の会(保護者ボランティア)」(会員46名)、ますます活動が充実している。	A		年間を見通した活動を提示し、急な依頼による支援の減少を防ぐ。いつでも学校へ足を運べる環境の整備。	
	キャリアパスポートの活用により自分の未来を描く。	キャリア教育担当がその重要性について何度も発信し、初年度の取組は順調に進んでいる。	B		キャリア教育重点単元を設定し、児童への意識付けを全学年で行う。	
	タイムリーで分かりやすい学校情報を発信する。	学校・学年・学級だよりを発行し学校の様子を伝えた。ホームページの復活。「情報発信に努めている」職員評価89%。「学校の様子を把握している」保護者評価97%。	A		学校の考え、担任の思いを発信できる場を増やす。ホームページ「学年のページ」の充実。	

学校関係者評価	総　　評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○コロナ感染症対策で学校が多忙感を増す中、地域の協力を得ながら前向きに教育活動が展開された。 ○タブレットパソコンの導入、プログラミング学習、オンライン授業…時代の変化に合わせた対応ができている。何ができるかを考えて、体験活動も積極的に取り入れたことは、子どもたちにとっても意義深いものとなった。 ○学力の定着しにくい子、学校を行き渋る子など、個別の対応はたいへんな苦労があると思うが、継続をしてほしい。 ○今年度の取組を糧とし、今後残して継続するものは何か、改善していくものは何か、精査していく視点を忘れてはならない。	B	○今後ますます情報発信に心がけ、地域の力を取り込んで地域と歩める学校づくりを推進していく。地域の声を聴きながら、学校経営をしていくという視点を忘れずに、今年度以上に地域住民が学校へ足を運びやすい環境を整える。（地域住民の集える場の設定をする） ○今年度は「特別」ということにしてしまわず、繰り出したアイデアは、発展や改良を加えて残してこそ意味がある。ますますチャレンジする気持ちを持って教育活動を展開していく。クリエイティブな発想、柔軟な意識がそれを支えるものである。 ○中学生が小学生に勉強を教えるとか、子どもどうしのかかわりができる場を、学校に限らず、休日や地域の場で拡げるなど、地域住民と構想を練って具体化していく。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）

（様式1）

令和2年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立湖西中学校

学校教育目標	<学校教育目標> 「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」 <めざす子ども像> 「他を大切にしながら、自ら考え、仲間とともに主体的に学ぶ生徒」 <めざす学校像> 「活力と思いやりがあふれる学校」

昨年度の評価概要	今年度の生徒の落ち着きや、地域での活動は、素晴らしい。保護者アンケートに、「湖西中学校、むっちゃ雰囲気が良い、数年前に比べて」とある。1年生の保護者であることが大きい。安心して子どもを任せることができるということである。子どもの学校生活の充実度も、非常に高い結果が出ている。郷土の偉人である清水安三先生の『学而事人』の教えを大切にし、生徒は、その教えの意味「学んだことを世の中のために生かす」という実践を、しっかりと行っている。毎朝、必ず行っている『学而事人おはようミーティング』が、学校での活動はもちろん地域が変わることにも、大きな役割を果たしている。今年度は、学而事人ファームや学而事人の道、学而事人の市、学而事人ミュージアム等の『学而事人〇〇〇〇』をたくさん作ってきた。コミュニティ・スクールとなり、湖西中学校が地域に影響を与える学校となっている。生徒の学校内での変容も大きい。学校内における各種集会や学校外での姿勢の良さは、誰もが認めるまでになっている。授業の学習規範は、生徒の自己評価「しっかりできている」が、どの学年も非常に割合が高い。他校と明らかに違い、生徒が自分の学校を誇りとしている。

中期的目標	□豊かな心を身につけ、認め合い、支え合い、共に成長する集団の育成 □学んだことを地域社会の中で生かす社会性の伸長（学而事人） □社会的規範が身に付いた生徒の育成 □学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開 □授業で活動の質を高め、自ら進路を切り拓く学力の育成

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評定		改善方策	学校関係者評価
〇豊かな心を育む教育活動 ・生徒理解の充実 ・個を大切にした生徒指導の推進 ・いじめのない学校づくり	・あいさつができる学校づくりをします。各教育活動において生徒とのふれあいを大切にします。	生徒「周りの人に気持ちよく挨拶をしている」：96%「学校生活は楽しく充実している」：93% 教員「学級の生徒一人ひとりの居場所があり、楽しい学級の雰囲気が作り出せた」75% おはようミーティング、生徒会 部活動による効果	A	A	約96%以上の生徒が「学校生活は楽しく充実している。」と返答していることはよかった。ただし、残りの4%の生徒が自分の居場所を見つけていないことを重要視しなければならない。担任を中心に、ライフノートや日々の声かけ、振り返りシート、教育面談などを徹底した。次年度も教育相談機能を高めて生徒の気持ちに寄り添った教育活動を進めていきたい。いじめのない平和な学校づくりは本校の根幹である。今後も、早期発見・組織対応を徹底する。生徒の中にある互いを認め合い支え合う集団づくりを今後も継続していく。KHE週間（いじめ撲滅運動）生徒会活動の効果も絶大なものがあり、ますます活性化させたい。人権学習は学活、総合的な学習、道徳のユニットを駆使し、3年間の系統だてた取り組みとして充実したい。	教師と生徒との距離が近く、安心して学校生活を過ごしているように思う。少し馴れ馴れしいところもあるのだが、ちょっとしたことでも喋れているところがよい。担任も学年主任も生徒と話ができているところがよい。すごく手厚くやってもらっている。6月の再登校の表情を見て、改めて中学校の存在の大きさを感じた。いじめについての取組は今後も継続してほしい。差別や排除の実態がない分。生徒の評価は高い数字になって表れている。大きないじめ事案は無かったし、起きた事案については、聞き取り、見守りなど休み時間も対応されていることを評価したい。教員は全般的に話しやすいイメージである。生徒は学習面、生活面ともに充実していると思う。人権意識の向上における教員の取組について自己評価はもっと高くてもよいと思う。生徒会活動における人権週間などの取組も評価できる。人権意識がさらに向上していくことを願う。
	・教育相談を重視し、生徒理解を進め、個に応じた教育支援を行います。生徒指導の委員会を促進し組織対応を進めます。	生徒「先生に気軽に相談したり、話ができる」79% 保護者「何か課題があったときには、学校と相談しやすい」87% 教育相談旬間の推進、ライフノート、日々の声かけ、いじめ対策委員会、教育相談推進委員会を軸に職員組織を機能させた。	B			
	・学級や学年を単位として、いじめのない集団づくりに努めます。人権学習を進め、人を大切にする意識を育てます。	生徒「仲間はずれやいじめをしない、させないようにしている」：94% 保護者「子どもを安心して学校へ通わせることができる」：96% 教員「学校生活の中で起こるいじめや人権問題に適切な指導ができていたか」85% いじめ対策委員会 生徒会 いじめ撲滅運動	A			
	・いじめをなくすための生徒会活動の活性化を図ります。SOSカードなどを徹底し、早期発見、組織対応をすすめます。	教員「振り返りシートの結果や教委育相談を通して、問題の早期発見・早期対応ができたか」：83% 「生徒会活動で、人権や学校生活の向上に取り組んだ」：83% 生徒会活動によるいじめ撲滅運動、文化祭人権劇、他 総合的な学習、道徳の推進	A			
〇確かな学力を育む教育活動 ・学力向上の取組の推進 ・教え合い高め合う授業づくり ・家庭学習の習慣化 ・保幼小中一貫教育の推進	・授業時間数の確保に努めます。	3,4,5月の遅れはあったものの、夏休み、冬休みの短縮、9教科を重視した授業、生徒のがんばりにより、授業数の状況は100%を超える予定（R3,3,4現在）。コロナ禍における生活様式で、話し合いや合唱、実験観察、調理実習などに制限がかかった。	B	B	英語、数学における少人数指導は次年度にも継続させたい。授業中の支援と個々の生徒へ適切な指導を進め、学力を向上させたい。 ICT活用に対する期待は高まる一方であるが、学校運営協議会から受けた指摘は肝に銘じておかなければならない。「ICTは使われたらだめ、使っていかなくてはならない。書くことの経験を奪うものであってはならない。繰り返し書くということの大切さを無くしてはならない。スマホ世代の生徒ならではの色々なことが可能になる。」ICTの可能性と現在までの学びの大切さを融合することが重要である。 学習規範は保幼小中一貫教育を機能させて築いていかねばならない。そういう意味でも本年度の北小学校との合同生活は大きな成果があった。小学校の生徒はもちろん、教員の姿勢には学ぶものが多くあった。次年度は一貫教育の全体の体制づくりをさらに確かなものにしたい。 家庭学習の習慣化は、毎年繰り返される大きな課題であるが、休み時間や自宅学習においても計画的に自主学習を進めている生徒もいる。新学習指導にもあるように学びに向かう力そのものをどのようにつけていくかを模索していきたい。	少人数授業は、意欲的に取り組めている。ペア学習等についてもよく工夫されていることで効果が出ている。生徒の評価は高く、保護者からの期待も高い。 本年度はタブレットが一人一台支給されて大きな変化の年であった。授業で多く活用されて生徒の前向きな授業につながった。環境が整備されたことの効果が大いに出ていた。ただ、ノートなど書くことへの意識が低下していくことなど、デメリットも大いに考える必要がある。ICTの効果は良いところばかりとは言えない。PCは学んだ気になるだけである。子どもの学びには実体験が必要である。スマホ時代の子供たちにとってはバーチャル体験と両方なくてはならないとも思う。 家庭学習については親の意識改革が必要だと考えられる。 家庭学習を習慣化させるのは家の責任である。宿題によって、学習の促進を全てゆだねるのどうかと思う。ただ、小学校でもできていない子が多くなっていることから学習における根本的な改善が必要だといえる。一方で、新研究のチェックなどは学校でないとできない。親は内容についてもどこまで本人が理解できているかは判断しにくい。課題提出について、大勢の生徒が答えを全部写して提出している。学校から仕掛けることも必要であるといえる。PTAも動き出してはどうか。
	・「めあて」を明示し、「振り返り」を行う授業づくりに努めます。	生徒「めあての提示や振り返りで意欲・関心がもてた」：88% 「めあて」を提示し、めざすゴールやそれまでの道筋を明確化し、評価の内容を伝えてより意欲的主体的な授業をつくる、「振り返り」による定着度を確認する。一時間完結型の授業づくり	B			
	・ICT機器を効果的に活用し、学力向上を図ります。	生徒「授業中 ICTの活用で内容がよくわかった」：97% 一人一台のタブレットを使用、生徒の意欲を高めるツール、合理的配慮、ロイロノートの活用による対話的な授業の展開、リモートによる生徒の学習保障、 コロナ禍による使いまわし制限、他	A			
	・ペアやグループでの学び合う活動の充実を図ります。	生徒「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げることができていると思う」：90% 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり、学び合い活動の促進、生徒が安心して学べる雰囲気の醸成	B			
	・保幼小中の連携を図り、学習規律の定着や家庭学習の習慣化を図ります。	教員「学習に取り組む姿勢や学習規範を身に付けさせる指導ができた」：80% 生徒「家庭学習を2時間以上している」28% 保護者「子どもは家庭での学習習慣が身についている」53%「宿題や課題の内容は適切」：59% 教員「保幼小中一貫教育」：58%	C			
〇健やかな身体を育む教育活動	・部活動の活性化を図ります。・健康教育を促進し、基本的生活習慣の定着を図ります。	生徒「部活動は充実していた」：98% 教員「部活動指導に意欲的に取り組み、練習時間や約束ごとを守る指導をした」：78%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まったと思う」：68%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」85% 安心安全な学校	A	A	部活動については生徒の思いも保護者、地域の思いも同じ方向を向いている。生活習慣の育成は学校、保護者、地域が3位一体となって導いていく。	次年度から部活動の項目と生活習慣の項目は分ける必要がある。基本的生活習慣の育成については学校だけでは難しい。保護者や地域との連携を進めてほしい。
〇自然や地域と共生する力を育む教育活動 ・郷土の自然・歴史・先人の学習 ・地域資源の有効活用 ・地域に信頼される学校づくり	・地域の方々の協力を得て、郷土のよさに触れる体験活動を実施します。・地域の方とともに行う教育活動を促進します。	生徒「地域や学校外の方のお話で郷土のことがよくわかった」：96% 保護者「地域・校外学習は意義があった」86% 教員「地域の自然や人・歴史・文化を生かした道徳、総合的な学習に取り組めた」73%「総合的な学習の時間に探究的な学習を展開した」78% ふるさと学習、水環境学習、先人の学習の充実 地域人材や教材の活用、他	A	A	本年度も、学校運営協議会とむくげの花の会の両輪でコミュニティスクールが強く推進された。ご支援のおかげでコロナ禍であったにもかかわらずふるさと学習や生き方学習が進んだ。体験的な学習をより多く取り入れ生徒の評価も高かった。次年度以降も地域とのかかわりを基礎にした学びを踏襲していきたい。地域で今頑張っておられる人とのふれあいを大切にして教育活動を進めていく。むくげの花の会や学校運営協議会の方とともに学而事人の教えを生徒に学ばせたい。そして高島市の町づくりを考えることや、社会を見つめる目やグローバルな視点で未来を考える力を養したい。	おはようミーティングで教員と地域の方、生徒と触れ合う様子がとても良い。2年の志学の集いには驚いた。中学生が自分の将来のことを自分だけのことではなく、社会や世界的な視野で話を進めていたことがすばらしい。ふるさと学習や職場体験学習など地域教材を使ったり、講師を招いてより体験的な活動ができていた。コロナ禍の影響でいろいろな制限があったが次年度こそは予定通り活動できるとよい。コミュニティスクールについて立ち上げから3年、5年経つと下火になることも多いのですが、湖西中がそうならないための仕組みができている。むくげの花の会と学校運営協議会、管理職の共通理解が進んでいる。しかし、PTAとのつながりが見えない。学校マニュフェストを年度当初にしっかり伝えてもらいたい。
	・キャリア教育を柱に将来の自己実現を図る教育を展開します。	生徒「人の役に立つ人間になりたいと思う」：93% 「将来の夢や目標をもっている」：68%保護者「豊かな心が育まれ、社会性が身についてきている」79% 教員「学活の時間は年間計画に沿って実施され、生徒は真剣に取り組んでいた」83% マイライフ1，2学年、修学旅行、職場体験、志学の集い グローバルな視点の育成、他	A			
	・コミュニティスクールを促進し、開かれた学校づrくりを進めます。学校・地域（保護者）・生徒が一体となってよりよい町づくりをめざします。	保護者「地域の指導者と共に行う授業等は今後も続けてほしい。」93% あいさつ運動、学而時人ファーム、登下校や校外学習の見守り、学校図書ボランティア、学而時人の教え、高島市の未来を担う生徒の育成、休日ボランティア、学校運営協議会と地域学校協働事業・むくげ花の会の定期的開催、他	A			

学校関係者評価	総評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	今年度も教育活動全般にわたり、湖西中の積極的な取組が評価できる。常に子どもファーストである関わりをしてくださったことがありがたい。生徒は安心して学校生活を送っている。今年度はコロナ禍で教育活動やコミュニティスクールの推進にも支障が出た。各活動に様々な制限があったがその都度、地域と相談しながらとてもよく取り組んでもらった。保護者も協力体制が意識されていた。例年通りとはいかないところもあったが、今年（コロナ禍の年）だったからこそ経験できたこともあったと思う。今後この経験がよい生徒個人のよい思い出になると同時に、卒業生が力強く歩んでいくための糧になることを望む。生徒は制限された状況でも精力的で雰囲気も良かった。生徒の命に係わることとして生活様式を徹底していたことも好印象であった。 北小が校舎を借りたことで中学校とのハードルが下がった。期間中はとても良い雰囲気であった。保幼小中一貫教育の推進としても大きな期間となった。今後も学習規範や教職員同士の資質向上のために保幼小中一貫教育をすすめてほしい。 これからも、学校、保護者、地域の大人が協力して生徒の人材育成をすすめていかなかればならない。今年度に得たことを応用して子どもたちの健全育成のために歩んでいく。学校運営協議会とむくげの花の会で学校を盛り上げていきたい。できる限り学校の情報を保護者や地域への発信を続けて開かれた学校づくりを進めてもらいたい。	A	本年度は教育目標に「心豊かでたくましく生きる生徒の育成」を掲げ、豊かな心、確かな学力、健やかな身体を育むこと重点に教育活動を展開した。また、本校の屋台骨であるコミュニティスクールも学校運営協議会とむくげの花の会を両輪にして推進した。生徒の居場所づくりをポイントにして、いじめのない平和な学校づくりをすすめた。生徒指導部会と教育相談推進委員会を月に1回以上開催し、組織的な支援体制を築いた。毎月一度以上行う振り返りシートやライフノート、職員全体で声かけを繰り返して生徒の思いをいち早くキャッチしていじめ事案などの早期発見・生徒理解に努めた。これらの積み重ねが生徒や保護者の評価に表れていると考える。学力向上については少人数授業や補習、個々の生徒への学習支援を教科担任はもとより、支援員や学習アシスタントなどチーム湖西中として取り組んだ。全体として生徒の学習姿勢はさらに良くなっている。しかし、目標にしていた学習習慣の徹底や読解力向上には至らなかった。次年度の課題である。部活動に対する意欲は高いものがある。職員の熱意と地域の方のサポートに起因する。コロナ禍の中ではあったが、ふるさと学習・キャリア学習（生き方学習・進路学習・職業学習）、人権学習、他について何とか推進することができた。本来なら校外で地域の方々とのふれあうなど体験学習を多く行う予定であったものを本校に地域ティーチャーを招聘してすすめた。生徒は職業体験などが無くなりつらい思いをしていたが、与えられた活動に対して大変前向きに取り組んでいた。ご支援いただいた関係者の皆さんには感謝しかない。本当にありがとうございました。

4段階評定（A 目標を十分に達成　B ほぼ目標を達成　C やや不十分　D 改善を要する）